2019年3月号（第395号）昭和61年7月8日 第三種郵便物認可 平成31年2月19日発行 毎月1回19日発行
住宅特集
新建築
395
2019
SHINKENCHIKU
JUTAKUTOKUSHU
3
特集／平屋という選択
風土と暮らしを繋ぐ床
作品／十八題
末光弘和＋末光陽子
古森弘一＋橋迫弘平
五十嵐敏恭
安齋好太郎
杉下均
松本悠介
趙海光
石沢英之＋唐木研介＋三原悠子
倉橋友行
井上洋介
栃内秋彦＋佐藤季代
服部信康
牧祐子
甲村健一
高野洋平＋森田祥子
浅井裕雄＋吉田澄代
奥野八十八
吉武研二
連載：建築家自邸からの家学び

Photo by Shinkenchiku-sha

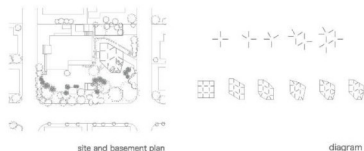
house K

miya akiko architecture atelier
宮 晶子

1986年　日本女子大学住居学科卒業
1986~91年　レーモンド設計事務所
1991~97年　アルテック建築研究所
1997年　STUDIO 2A設立
2018年　miya akiko architecture atelierに改名
現在、日本女子大学准教授

主な受賞
1999年　「那須の山荘」で栃木県マロニエ建築奨励賞受賞
2004年　「kogota seminar house」でSD review入選
2010年　「house I」で新建築賞
2011年　「house K」でJIA新人賞受賞
2015年　「食堂の壁」でGood Design賞
その他、多数受賞

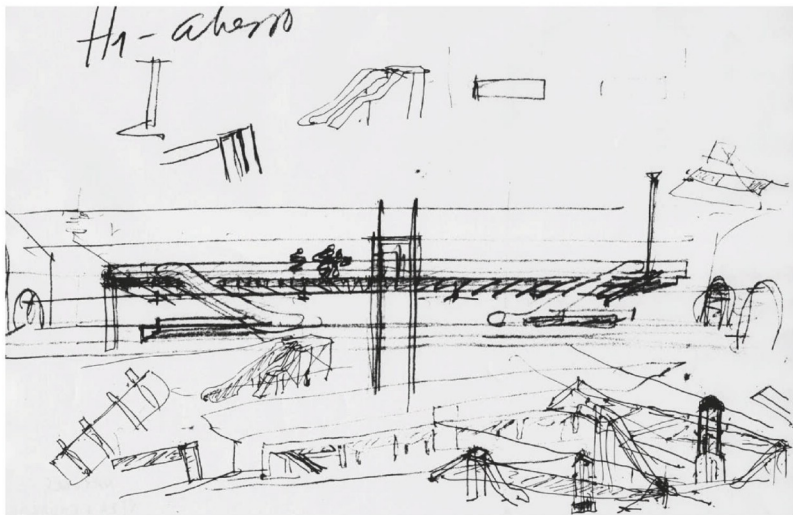
site and basement plan

diagram

# 身体性と客観性

絵や工作など、手を動かしてものをつくるのが好きだったわたしは、直感で建築への道を選んだものの、大学ではすぐに開眼できず行く末を迷いながら1年が過ぎていった。そんな2年生を迎える春休み、母に勧められて知合いの画家さんたちがイタリア・フランスにゆっくりスケッチをしてまわる旅に参加させてもらうこととなった。そこで思いがけず今に至る啓示を受けたのが、イタリア中部ウンブリア州の都ペルージアの中世山岳都市でのことだった。先が見通せない狭く曲がりくねった路地を進み、アーチを潜りながら石畳の坂道を登ったり降ったり、「わたしの身体はここにある!」と心の中で叫びながらその初めての感覚に興奮しながらひとり先へ先へと歩きつづけた。この身体よりも大きい実態がつくる感動は、ほかのメディアではできない建築特有の創造の世界であると思えた瞬間だった。
そんなわたしが、当時Minicadと呼ばれていたVectorworksをはじめて使ったのは独立後3作目の実作<house K>の設計の時だった。13枚の壁柱を着かず離れずの関係でつなぎとめ、一歩あるいは半歩あるくたびにその関係が変わる、小さな風景を連続させる。半囲われの領域で人は、ひとりでいるときの落ち着きと誰かと一緒にいるときの充足感を同時に感じることができる。そのような空間性をつくりたいという欲求に突き動かされていた。
環境から導いた極座標にそって何度もなんども壁柱をCAD図面の上で動かしつづけ、内外どちらからも納得のいく関係となるまで操作を繰り返した。描かれた図面上の壁のラインの中を視野と身体の関係を考えながら歩きまわり、壁を動かす俯瞰的図面操作をある意味機械的に行うことで、身体的に考えながら、ひとりの作者の手がつくりだす予定調和を超えた、人が主体的に活動できる空間を立ち現したいと考えていた。
作図作業に身体的思考プロセスが残っているといわれているVectorworksはそのようなスタディにおいてとても有効だった。線の太さや描いている図面のスケールは相対的で直感的に認識され、線やその軌跡と対話しながら考えることができる。それを機械を介して描き出された客観的な線を見る他者となってふたたび体験することができる。身体性と客観性、その両立はこの建築を考えるための道具としてとても大切なことだった。

**Architecture and Urbanism**
**Forthcoming March, 2019**
**No. 582**
**建築と都市　2019年3月号予告**

エー・アンド・ユー
2019年3月号／2月27日発売
定価：2,800円（税込）
発行：（株）エー・アンド・ユー

〒100-6017　東京都千代田区霞が関三丁目2番5号　霞が関ビルディング17階
TEL：03-6205-4384
FAX：03-6205-4387
振替：00130-5-98119

*Sketch by Álvaro Siza and Eduardo Souto de Moura.*

# Feature: Álvaro Siza and Eduardo Souto de Moura
# 特集：アルヴァロ・シザとエデュアルド・ソウト・デ・モウラ

a+u March issue features Álvaro Siza (1933, born in Portugal) and Eduardo Souto de Moura (1952, born in Portugal). Through an essay written by Nuno Grande, a Professor at the Department of Architecture of the University of Coimbra (DARQ/FCTUC), we will introduce to you the personal and collaborative works of both Architects.
**Works (tentative) Works by Álvaro Siza,** Fire Station in Santo Tirso/ (The) Siza House in Taifong Golf Club/ The Building on the Water, Shihlien Chemical/ Nadir Afonso Contemporary Art Museum/ Saya Park: Chapel, Art Pavillion, Observatory/ Hillside Chapel/ China Museum Of Design Bauhaus Collection/ New Church of Saint-Jacques. **Works by Eduardo Souto de Moura,** 27 Dwellings in Sete Cidades/ Bernardas Convent Reconversion/ Cantareira Building/ Multipurpose Pavilion in Viana do Castelo/ Tourist Complex in São Lourenço do Barrocal/ Power Plant for the Foz Tua dam. **Collaborated works of Álvaro Siza and Eduardo Souto de Moura,** International Museum of Contemporary Sculpture (MIEC) and Abade Pedrosa Municipal Museum (MMAP)/ Piazza del Municipio Metro Station and Museum.

『a+u』3月号はアルヴァロ・シザ（1933年生まれ）とエデュアルド・ソウト・デ・モウラ（1952年生まれ）を特集します。ヌーノ・グランデ（コインブラ大学建築学部教授）のエッセイなどを通し、この2人の個人的かつ設計業務におけるコラボレーションを紹介する。
**作品（仮）：アルヴァロ・シザの作品**、サント・ティルソの消防署、タイフォン・ゴルフ・クラブのシザ・ハウス／水上の建築、江蘇化学／ナディア・アフォンソ現代美術館／サヤ・パーク、チャペル、アート・パヴィリオン、観測所／ヒルサイド・チャペル／中国デザイン・バウハウス・コレクション美術館／サンジャックの新チャペル。**エデュアルド・ソウト・デ・モウラの作品**、セッテ・シダーデスの27住戸／ベルナール修道院のリ・コンヴァージョン／カンタレイラ・ビルディング／ヴィアナ・ド・カステロの多目的パヴィリオン／サン・ロウレンソ・ドゥ・バーホカルのツーリスト・コンプレックス／フォス・トゥーア・ダムの発電所。**アルヴァロ・シザとエデュアルド・ソウト・デ・モウラの協働作品**、現代彫刻国際美術館（MIEC）とアバデ・ペドロサ多目的美術館（MMAP）／市役所広場の地下鉄駅と美術館。

# 座談月評

**新建築住宅特集2019年2月号**

**特集／リノベーションの醍醐味**
新しい価値を想像する20のアイデア

**批評**

**評者**

内藤廣
建築家
東京大学名誉教授


馬場正尊
建築家
東北芸術工科大学教授


髙橋一平
建築家
横浜国立大学助教


『新建築住宅特集』では、毎月、さまざまな作品や論考、記事を掲載し、広い射程をもって住宅から明日を拓く建築の可能性を伝え記録しています。しかし重要なことは、議論の場をつくることにあります。限られた誌幅の中で示されたものから何を考えていくべきか、それぞれの読み解きや発見を共有し、建築を取り巻く多くの事象や環境と共に議論を重ねること。この座談月評は、その場を広げていくことを目的に掲載します。
2019年1～12月号は、内藤廣さん、馬場正尊さん、髙橋一平さんを評者として、1年を通して前号への批評を座談形式で議論いただきます。それぞれの個別の評と共に、それが相乗して新たな示唆に展開する連載記事として毎月掲載いたします。どうぞご期待ください。
（編集部）

**内藤**　全体として、1月号よりも圧倒的に面白いね。詳しく見たいと思う作品が多かった。今の住宅が、新築よりリノベーションに面白さを感じるのはなぜなのか。考えてみると、リノベは時間軸が否応なく見えてくるからかな。いわば新築がフィクションならば、リノベはノンフィクション。ノンフィクションを引きずらないと建築がリアルに見えてこない。いい換えればフィクションが極めて成り立ちにくい時代にきているんだろうね。それから、今回の特集には量産住宅のリノベがないことが気になった。プレファブリケーション住宅の軽量鉄骨の構造体は、最小限の部材でどうつくるかという思考の極致で、本来はとても美しいもの。その美しさが商品化の過程でどんどん覆われて見えなくなっていく。つまり、完全なフィクションが捏造される。リノベによってそこに破れ目ができると、プレファブとは何かということも逆照射されるはず。いずれそんな作品が出てくると面白いね。

**馬場**　フィクションとノンフィクションという見立ては面白いですね。建築家は強烈なフィクションをもって時代をジャンプさせたり、次の風景を見せるような役割を求められてきたと思います。建築の世界でフィクションというのは、ある瞬間の微分的な造形であるのに対して、リノベは積分的に継続する全体性をどう表現するかという感じがあります。すでにある場と対話しながら応答的に考え、時間の蓄積をどう掴むかにある。団地の再生に関わった時、建設当時の設計者のさまざまな工夫が伝わってきて、その人たちと対話するように設計したことが楽しかったのですが、塚本由晴さんの論考**「住宅作品の住み繋ぎとつくり繋ぎ」**は、それを深く突いています。時代がノンフィクション的なあり方を要求していることもあるし、それを素直にやっていく楽しさもある一方で、強いフィクションを構想する力ももつべきです。リノベの方が面白く見える背景には、建築家のフィクションの構想力が弱まっている、といえるのかもしれませんね。

**髙橋**　リノベーション特集とはいえ、設計者が採った方法とその効果を記事にするだけでなく、既存建築の歴史もすべて引き受けたうえでどういう全体的価値が構築できるかを考察する方が建築の本質に迫れると思います。建築を見る時は、アイデアよりまずは目の前の状態にぐっとくるかですよね。内藤さんの**「住居No.1 共生住居」**は、住みながら少しずつ変えて、小刻みな行為の積み重ねによって熟成されていくような価値があると思います。また、キッチンや階段がふたつ隣り合っていたり、核家族住宅では見られないことが起きていて建築として魅力的です。今号の中で特に力強く見えたのは、徹底してノンフィクション的な行為だけでできているからなんですかね。ほかの作品には、リノベがどこかイベントとして切り離され、フィクション構築に専念して見えるものもありました。さまざまな要素を抽象化させたり、設計者のスタイルをもち込んだり、新築に用いるようなアイデアを採用するような姿勢です。村山徹さん加藤亜矢子さんの**「天井の椿円」**は抽象的なつくりで、アートインスタレーションのようです。建築家の設計であろう既存建築に対し、それをいろいろと否定しなければ提案が成立しないようにも見え、前任者に後ろめたい感じがしました。ビフォー（問題）とアフター（解決）のように改修前後の価値を分離させてしまうと、住宅の全体価値がかえって見えづらくなる気がします。対照的に、アトリエ・ワンの**「ハウス・アトリウム」**は、戸尾任宏さんの建築に再び春が訪れたような融合の魅力を感じました。論考では、建築が継承される際のモラルや、建築家でないと成せない既存建築に対する創造的分析が書かれ、建築が生き物であるかのように見えました。

**馬場**　リノベとして建物に介入する時、歴史や時間を引き受けてそれに接木をするように馴染ませようとする姿勢と、あえて異物を挿入することで時間のズレを表現する姿勢、ふたつの傾向がありますね。そう見ると「天井の椿円」は、あえて意識的に時間を断絶させようとしているように読めますね。中村好文さんや横内敏人さんといったベテランは、既存の建物をあくまで箱としてとらえた自己完結性が高い建築をつくっています。逆にツバメアーキテクツなどの若い世代の方が通り土間など昔からある言語を使い、雑然とした場所のハーモニーを考えようとしていることが伝わってきますね。

**内藤**　武田清明さんの**「6つの小さな離れの家」**、これはありだと思った。この最初の見開きを見て思い出したのは、鈴木了二さんの「絶対現場」。あれと共通するような、建築をむき出しにしていった時に現れるアブストラクトな何かがある。安倍良さんの**「コヤトキトツキ」**は、フランク・O・ゲーリーの自邸を連想した

「住居No.1 共生住居」

「天井の椿円」

「ハウス・アトリウム」

「6つの小さな離れの家」

な。ゲーリーも出発点はリノベ的な空間の住宅だったのを思い出したという意味では面白かった。

**髙橋**　「コヤトキトツキ」は、コンテナや2次製品が適度に組み合わされ、既存と増築部を曖昧にしていくアプローチが、リノベでしかできないダイナミックさに繋がっています。「6つの小さな離れの家」は、温室の離れがなぜ屋根の下にあるのか分かりづらいし、庭に置かれた離れの方が温室になりそうです。ディテールをきれいに納めたガラスパビリオンをたくさん挿入していますが、ラフな木造軸組による民家の庭づくり的な改修を、これほどまでにプロフェッショナルな精度で行うと、連続的な行為になりにくい気がしました。

**馬場**　雑然とした場所のハーモニーを考えてようとしているのは「コヤトキトツキ」で、「6つの小さな離れの家」は異物を挿入して新規性を出そうとしていますね。

**内藤**　どちらにしても、今回のリノベがその家にとってひとつのプロセスだと見えるかどうかというのはあるね。また5年後にリノベされるかもしれないし、そうやって住み繋げられた結果100年残る住宅もあるかもしれない。そういう観点から見ると、「6つの小さな離れの家」は現状が作品になりすぎていて、次の姿が想像しにくい。実際に行ってみてどう見えるのか知りたいところだね。

**馬場**　僕がリノベーションという単語を意識的に使って仕事を始めた15年ほど前は、主に都市部のストックが対象でしたが、今回の特集では地方都市でのリノベの可能性を見ました。「6つの小さな離れの家」や工藤浩平さんの**「東松山の家」**のように、地方都市では人口が減り、空間がどんどん余っています。その状況ですべてをリノベすると過剰投資になってしまいます。素直に建物を壊し、屋根だけ残して屋内外を曖昧にする。さらに居住域も最低限まで絞って、そこに必要な機能と投資を集中させ、あとはざっくりとした空間と割り切っていますよね。既存にひと手間を加えて楽しい方向に変換していく手法はすごく面白い。美しくスカスカな地方都市の風景が想像できたことが、今回の1番のメッセージでした。ツバメアーキテクツの**「天窓の町家」**も、断熱している以外の場所はほぼ外部ととらえていて、この割り切り方が地方都市と付き合う彼らの回答だと思いました。地方都市において、町家や伝統民家といった街の風景を形成する重要な建築を扱うことも多くあるのですが、景観保護のために、ファサードの保存にだけ補助金が出る場合が多いです。そうすると、外見の化粧はなされるものの実際は使われてないような状況に陥っている建物が多く出てきてしまいます。しかし、本来住宅は使われることがすごく重要です。たとえば古い建物を住み継ぐうえで1番ネックとなる、水回り改修や断熱改修に対して補助金が多く出るようになれば、建築が新たな空間構成を発見し、活用のアイデアが生まれ、地方都市の住宅のあり方がもっと加速していくのではないかと思います。

**内藤**　確かに、今号では長屋や民家の改修が多いですね。こういうものに住むことに価値を見出す住まい手が増えてきたということは、つまりノンフィクションを求めている人が増えているということでしょう。伝統建築の改修を求められることが増えていく中では、いかにクリエイティブであるかに焦点を当てて取り上げることは大事だと思う。中村好文さんの**「京の温所　釜座二条」**は、庭に面した小さなニッチのテラスに椅子と本棚が設えられている彼らしい場のつくり方が巧みで、かゆいところに手が届くような建築だと思った。一方で、ショールームのようなよそよそしさが感じられたんだけど、これは今は宿泊施設なんだね。こういうプログラムを住宅特集に入れるべきなのかという違和感もある。住宅を新築する時に参考にはなるけれど、住宅の本論ではないよね。物干し場のないような住宅は住まいとしてのリアリティがもてないな。

**馬場**　人が頑張って住んでいることが伝わってくる生々しさとは少し違いますね。しかしAirbnbなどのサービスの発生は、法律の改正と密接に繋がっていて、宿泊産業への企業の参入が現代の住宅のあり方に大きく影響してきます。そして、国が近代産業として住宅をとらえ、ローンによる所有で縛り続けていたことに本能的に若い人たちが気づき、所有することのリスクに対する違う関わり方を発明しようとしていることも感じます。家成俊勝さんの自邸**「No.07」**でも、彼が賃貸にここまで投資することにも驚きましたが、700万円かけてなお所有しないこと自体が家成さんの表現となっていると感じました。東京R不動産でもリノベ物件が多くありますが、つくるプロセスに熱心に介入しても、できあがった瞬間人に貸すことを考える建主が割といて拍子抜けするのですが、この特集を踏まえると、住むことに対する感性や所有欲の変化だなと感じます。

**髙橋**　僕と世代が近い建築家は、社会や倫理がノンフィクションしか求めない場合でもなお、フィクションや仮説をどう仕込んで建築の価値を導くか、という難しさに悶えています。だから、家成さんのフィクションへ向かおうとされない姿勢には驚きます。ただ「No.07」の論考は、ノンフィクションを超えて私小説のように読めました。ノンフィクションな活動は、その活動姿勢を語ろうとすればするほど活動自体が目的化して見えて、個人の中だけに閉じるおそれもあると思っています。活動の楽しさを私小説的に語るのではなく、もっと抽象的に伝えることで、活動の目的に共感を得る方が、社会に開かれるのではと思います。魚谷繁礼さんみわ子さんの**「頭町の長屋群」**は誌面からは庭や緑が演出的に見えました。設計趣旨に伝統の継承、健全化とありますが、正統的な改修が目的ならば、細かな工夫よりも日本家屋がもつ透明性やラフさをそのまま活かした方が分かりやすいのではないでしょうか。

**馬場**　「No.07」や「頭町の長屋群」は、設計者の手が入ることで都市の歴史文脈が浮かび上がってくるところに価値がありますね。庶民が裏に寄り添うように住んでいた、表通りからは見えてこなかった住まいのあり方が見えてきます。家成さんの特集論考を読むと、大阪の都市の歴史が浮かび上がり、それに反応しながらつくっている。建築家は街の歴史を風景から感じとる力があって、造形的な表現だけでなく発見自体が表現になっていることが面白いのだと思います。

**内藤**　京都はもともと借家文化で、外の人が成功するにしたがって中心地に近づいていく。京都の中心の町家に住むということはすごろくのあがりのようなもの。かつては住むことの流動性がものすごく高かった。今の持ち家の価値観はわずかこの50年ぐらいの話のはず。商品化住宅とマンションの誕生によって、住む場所が資産対象になったことに関係していて、それらを「住宅」と呼ぶようになった歴史はそんなに古くない。リノベに対して共感するのは、その裏に「住宅」のフィクションを構築する力が弱まっているからなのだろうけど、それを打開していくことが正しいのか、近代社会や家族がもはやすでに形骸化していると考えるか、もしくは量産住宅や持ち家願望が生み出してきた幻想がすでに崩壊していると見るか、さまざまなテーマが浮かんでくる。だから、リノベは当分面白そうだね。

「コヤトキトツキ」

「東松山の家」

「天窓の町家」

撮影：中村絵

「京の温所　釜座二条」

「No.07」

「頭町の長屋群」

© 新建築住宅特集2019年3月号／第395号
2019年2月19日発行　毎月1回19日発行
定価2,057円　本体1,905円
振替：00150-6-30658

［編集発行人］吉田信之
［編集長］西牧厚子

［表紙・誌面フォーマットデザイン監修］　K2
［発行所］株式会社新建築社
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
霞が関ビルディング17階　〒100-6017
tel. (03)6205-4380（代表／総務・出版）
(03)6205-4381（編集部直通）
(03)6205-4382（広告部）
(03)6205-4392（写真部）
fax.(03)6205-4386（代表／総務・出版）
(03)6205-4387（編集部・広告部・写真部）
青山ハウス
東京都港区南青山二丁目19番14号　〒107-0062
tel. (03)6455-5596
fax.(03)6455-5583
e-mail　jt@japan-architect.co.jp
URL　https://shinkenchiku.online
［印刷所］大日本印刷株式会社
［取次店］トーハン　日販　大阪屋栗田　中央社　鍬谷　西村


表紙の写真　清里のグラスハウス
末光弘和＋末光陽子／SUEP.

## CONTENTS

## 平屋という選択——風土と暮らしを繋ぐ床

### 作品18題

新建築住宅特集2019年3月別冊
木造住宅を
SE
構法
でひらく
つくり方をひらく、デザインをひらく、用途をひらく、施主をひらく
『新建築住宅特集』2019年3月別冊は、集成材と接合金物を使用し地震に強い木造住宅をつくるためのSE構法を提供しているエヌ・シー・エヌ（NCN）の特集号です。
NCNではSE構法の普及を通して、木造住宅の耐震化だけでなく、さまざまな方向へのオープン化（＝木造住宅をひらく）ということを当初から目指しています。
本特集号では、さまざまな方面で活躍する建築家とのコラボレーションや、大規模木造建築の最新事例など、NCNのSE構法による取り組みを紹介し、新しい木造住宅のあり方を探ります。
また、巻頭インタビューでは、東大名誉教授で日本の建築構法、建築生産研究の大家である内田祥哉氏に、これからの工法についてお話を伺いました。
3月4日 発売予定
A4変形／ 144頁
定価：2,000円（本体：1,852円）
発行：
株式会社新建築社
〒100-6017
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号　霞が関ビルディング17階
Tel. 03-6205-4380　Fax. 03-6205-4386
https://shinkenchiku.online

## CONTENTS

特集：平屋という選択

# 清里のグラスハウス

Glass House in Kiyosato
山梨県北杜市

**末光弘和＋末光陽子／SUEP.**
Hirokazu Suemitsu＋Yoko Suemitsu／SUEP

南の小道から見る全景。敷地は清里高原の清流沿いにあり、前面道路から約60m歩いてアプローチする。西側の斜面にRCのヴォリュームを埋め込んで安定した環境を確保し、東側には集成材を連続させガラスを張ったグラスハウスを設置して限られた日射を最大限取り込む。

温室。床をすべて土仕上げとし、個室と外部の中間領域として機能する。冬は日射を土間に蓄熱し、夏はブラインドで日射を調整し、窓を開放して自然の風を取り込み高原の涼しい外気温に 近い環境を保つ。屋根面はすべて日射取得型Low-Eペアガラスとし、特注のガスケットと共に高い断熱性能を確保している。

東側外観。ガラス屋根は雪を落とすことを考慮し4.8寸勾配としている。
ガラス面の東側には、デッキテラスが清流上部に張り出している。

リビング側から温室を見る。川側の基礎は1,167mm床レベルより高くしており、勾配屋根の先端の室内の有効高さを確保している。

南側外観。グラスハウスの屋根は西側の個室上部の壁と、土留めを兼ねた三角形状に立ち上がる基礎に支えられている。暖炉部分を除いて土間の下部には基礎は打たず、土を硬化させて仕上げている。

## 微気候をつくりだすグラスハウス

八ヶ岳の山麓の避暑地である清里高原の清流沿いの、南北に細長い敷地に建つ別荘。標高1,112mの高原では、川や緑などの自然が豊かな場所であり、年間を通して気温は低く、日照量が多いのが特徴的な気候である。私たちは、この自然環境を最大限享受するため、ガラス温室とRCの個室を組み合わせた住宅を考えた。

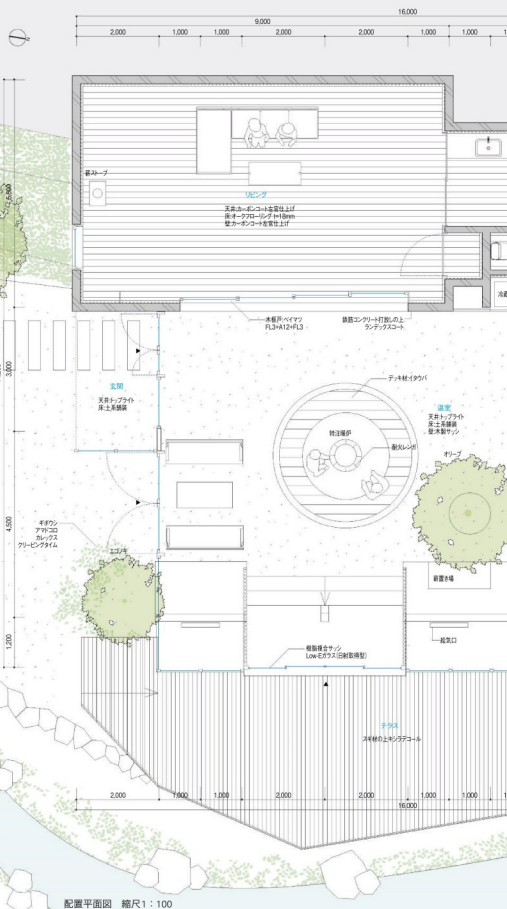
緑のトンネル状の長いアプローチを抜けると、グラスハウスが現れる。このグラスハウスは、地形に沿って集成材の梁を斜めに連続させてできた空間で、そこにガラス屋根を架けた温室である。視覚的な内外の連続性だけでなく、清流に沿って流れてくる夏の涼風や、冬に降り注ぐ豊かな日照を享受する。温室の室内は、床を土で仕上げた土間であり、外部の自然と内部の個室を繋ぐ中間領域としての場所となる。温室の中央部には、段状に掘り込まれた円形の場を設け、中心に暖炉を設け、家族の集まる場所とした。

温室のガラスは、特注のガスケットと日射取得型Low-Eペアガラスを用いることで、高性能な断熱性能サッシとしており、これだけ大きな開口面をつくりながら、建物全体で省エネルギー基準を満たしている。冬は、午前中に射し込む日射エネルギーを取り込み、土間に蓄熱する。朝の暖かい陽の光を浴びながら食事をしたり、くつろいだりできる特別な時間となる。夏には、窓を開放し、自然通風によって外部の涼風を取り入れる。川のせせらぎを聞きながら、風を感じる快適な場所が生まれる。

斜面に埋め込まれた半地下状のRCの個室部は、安定した熱環境のもうひとつのリビングである。断熱サッシによって温室と区切り、断熱ラインを形成することで、日中には、建具を開放して温室部と一体的に自然エネルギーを享受しながら暮らし、冷え込む夜には、建具を閉じることで温室部と縁を切り、篭って過ごす生活となる。

建物を自然から完全にシャットアウトするのではなく、半分は半屋外空間で自然エネルギーのみで暮らし、もう半分はコンパクトな空間で少ないエネルギーで暮らす。人の手で制御しながら、それらを組み合わせて自然と一体的に過ごすライフスタイルとなる。　　（末光弘和＋末光陽子）

配置図　縮尺1：3,000

配置平面図　縮尺1：100

One-story House

# 自然を身近に生活するガラス温室とRCの個室

ライブラリ。右手は和室。

北東から見る全景。斜面に沿うようにガラスの壁面が立ち上がる。

一 個室と温室との間の建具も断熱サッシとし、冬の夜間は建具を締めることで安定した熱環境が確保される。*

リビング。正面奥は洗面、浴室。

**清里のグラスハウス**

所在地／山梨県北杜市
主要用途／別荘
家族構成／夫婦＋子供

**設計**

末光弘和＋末光陽子／SUEP.
担当／末光弘和　末光陽子　宍戸優太
構造　鈴木啓／ASA　担当／相川翔太
植栽　江田俊子
環境　基本設計：東北大学小林光研究室
実施設計：DE.Lab　ガラス・サッシ：
橘重行／Passive Window Japan

**施工**

山口工務店　担当／山口利秋　清水道浩
設備　中央水道　担当／青木勇
電気　篠原電気工事店　担当／篠原泉
外構・造園　八ヶ岳クリーンサービス
担当／藤井幸治

**構造・構法**

主体構造・構法　鉄筋コンクリート造
一部木造
基礎　べた基礎

**規模**

階数　地上1階
最高の高さ　6,454mm
軒高　6,220mm
敷地面積　2203.51m²
建築面積　245.97m²
（建蔽率11.07% 許容40%）
延床面積　245.97m²
（容積率11.07% 許容100%）
1階　245.97m²

**工程**

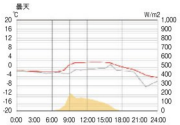
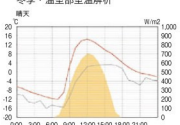
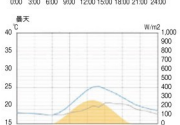
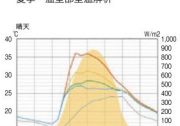
設計期間　2016年5月～2017年6月
工事期間　2017年6月～2018年8月

温室の通風シミュレーション（夏至）と
断面詳細図　縮尺1：100

縦ガスケット断面詳細図　縮尺1：5
形状を特注で制作したガスケットサッシ。日射取得型のLow-Eペアガラスと合わせてU値＝1.39と高い断熱性のガラス面としている。
（末光弘和）

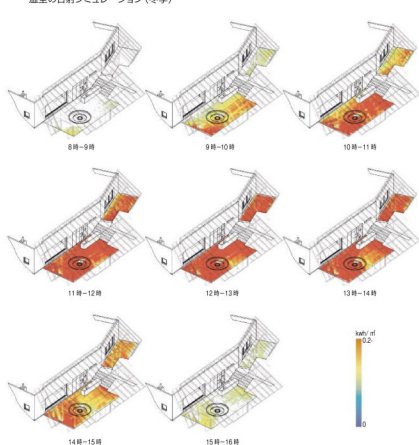
**敷地条件**
地域地区　都市計画区域外
道路幅員　南6.6m
駐車台数1台

**外部仕上げ**
屋根／特注ガスケットサッシ（タケチ）
　タケイ式進化コンクリート防水
外壁／RC打放しの上クリア塗装
開口部／木製サッシ（山崎屋木工製作所）
外構／ウッドデッキ　枕木など
金物／システムワーク

**内部仕上げ**
**キッチン**
床／土系舗装（地球環境技術研究所）
壁／RC打放しの上クリア塗装
天井／特注ガスケットサッシ（タケチ）
厨房機器／
IH／De Dietrich DTI1089V
換気扇（シェード）／best Lift90
照明／DAIKO DSL-4837YW
シンク水栓金物／混合栓　GROHE
　3028000C
**浴室**
床／300mm角磁器質タイル（DANTO ETY-55
　／300H）
壁／300mm角磁器質タイル（DYNAONE
　KR5001BR）
天井／珪酸カルシウム板 t=6mm トップコート仕上げ
バスタブ／KAITO インティミティ1850
**トイレ　洗面所**
床／積層フローリング t=18mm（IOC プロヴァンスモンペリエ）
壁・天井／カーボンコート左官仕上げ
家具／制作・シナ練付合板 オスモカラー
建築金物／引手金物：KAWAJUN PC-366-XB
　表示錠：KAWAJUN 3-KM-19-XB
便器／LIXIL サティスS
洗面カウンター／タモ集成材 オスモカラー
洗面用水栓金物／TOTO LS716
**和室**
床／床暖房対応琉球畳
壁・天井／カーボンコート左官仕上げ
**リビング**
床／積層フローリング t=18mm（IOC プロヴァンスモンペリエ）
壁・天井／カーボンコート左官仕上げ
家具／薪ストーブ：Contura C850
照明／DAIKO DSY-4557YT
**温室**
床／土系舗装（地球環境技術研究所）
壁／RC打放し クリア塗装
天井／特注ガスケットサッシ（タケチ）
家具／制作暖炉（暖炉屋）
照明／DAIKO DSL-4837YW

**設備システム**
空調　暖房方式／床暖房　薪ストーブ
　換気方式／第三種換気
　その他／床暖房
給排水　給水方式／上水道直結
　排水方式／公共下水道
給湯　給湯方式／ガス式給湯器
撮影／新建築社写真部
*撮影／中村絵

冬季・温室部室温解析

夏季・温室部室温解析

温室の日射シミュレーション（冬季）

**温室内部の微気候をエンジニアリングする**
日射取得型による蓄熱と、通風を促すための空気の流れを制御したガラス温室。冬季は、午前中の日射を取得し土間とRC壁に蓄熱することで、晴天時で外気温＋約10度、曇天時で外気温＋約3度となる。夏季は、ブラインドで直射を制御しながら、自然通風によって川沿いに上がってくる南風を取り込むことで、涼しい高原の外気温とほぼ同じになるようにしている。
（末光弘和）

テラスから見る夕景。

中庭を挟んで向き合う母屋（右）とはなれ（左）。地方都市の郊外住宅地に建つ。主要な機能を母屋に納め、アクティビティをより多様にするよう、ほぼ半戸外空間からなるはなれを設置。母屋も庭に面して土間を設え中庭越しにはなれと繋いでいる。母屋とはなれは中庭に対して全面開口としているため、家の中のどこにいても家族の気配を感じることができる。



# 方眼の間

Toward the Conventional Grid House

福岡県北九州市

**古森弘一＋橋迫弘平＋穴井健一**
**／古森弘一建築設計事務所**
Koichi Furumori＋Kohei Hashisako
＋Kenichi Anai ／ Furumori Koichi
Architectural Design Office

中庭越しにはなれを見る。3尺グリッドに沿って合板を張った格子梁で屋根を組み、ボックス状の図書室（右）と倉庫（左）を除き外部空間とした。ソトマのダイニングテーブルは制作で、ネットを取りつけ卓球台としても利用できる。

# 三尺モジュールの和構法でプランの自由度を上げる

配置平面図　縮尺1：120

倉庫からソトマを見る。倉庫上部はスパンが短いため、小屋組の格子梁は合板で挟まずに露出させている。

母屋からはなれへ続くアプローチ。飛び石の周りは魚を飼育するため深さ500mmの水路となっている。

リビングダイニング。窓際の内部土間からソトマへと内外が緩やかに繋がる。天井の格子梁は90×45mm角の材で構成し、12mm厚の合板を張ったもので、成は600mm。

ソトマ。左手の自立したコンクリート壁面にベンチを設置。座面幅を550mmとし、夏場は昼寝をして過ごすことがイメージされている。

## 中庭が広げる内外が一体となった生活

「案を考えてみました。」最初の打合せで建主夫妻からいくつかの平面図が提示された。その平面図を詳しく説明してもらうと、家族4人で議論を重ねた楽しそうな痕跡も見られた。ここまで検討を進めているのであれば、是非その想いをできる限り実現したいと考えた。

かつて住宅の間取りは、建主と大工が三尺のモジュールをルールにつくり上げてきたと聞く。その建主と大工のような関係を確立することを目指した。そこでまず、設計の議論を進めやすくするために、三尺の方眼を天井に視覚化することを提案した。その方眼上に柱や壁を配置すれば、どんな平面でも可能である。また、その天井の方眼を構成する格子梁は、特殊な技術、金物を用いることなく、在来構法の延長に成立させている。分かりやすい構法を確立することで、一般的な大工さんでも、将来の増改築の際は在来木造と同様に、壁や柱の移動を可能にしている。

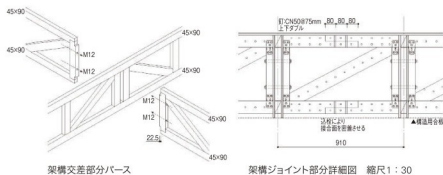
建主は母屋の部屋のおおまかな配置のほか、個室はすべて引戸で仕切り、部屋自体は小さくすることを要望された。そこから引き戸をすべて開けるとかつての日本家屋を彷彿させる一体感と開放感を感じることができる住まいとした。

また敷地に恵まれていたため、はなれをつくることをわれわれから提案した。はなれを設けることで近隣の視線が遮られ、中庭が家の中心となる。その結果、中庭に面するすべての部屋を開放的につくることが可能になった。休みの日に父親が図書室にいても、倉庫にいても、リビングから様子が伺える。ソトマで子供が遊んでいてもキッチンから様子を見守ることができる。家中のどこにいても家族の気配を感じることができるようになった。

今回も大工をプランニング段階から巻き込み、構法を検討すると同時に、建主の意見を極力受け入れた。そうして許容力をもつ和構法を生み出すことで、住まい手の要望を取り入れ生活の変化にも対応した、長く住み続けられるおおらかな家づくりを目指した。　（古森弘一）

格子梁から軒にかけての近景。柱はすべて105mm角とし格子梁上部まで貫通している。

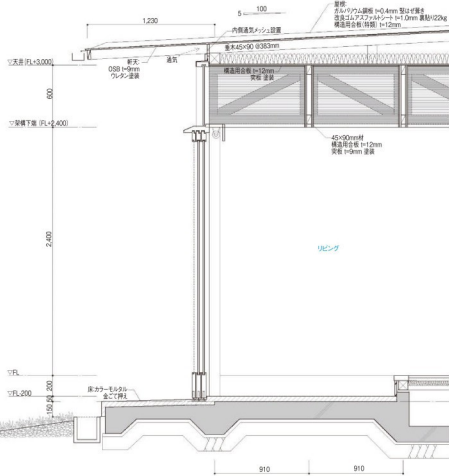
**格子梁とその可変性について**

屋根を支持する格子梁は、トラス＋面材（側面及び屋根面）で成立していてヒエラルキーのある構成で、鉄骨造のような線材のみでのトラスとは異なる。これは木の力の流し方に多様性があることの違いに起因する。将来の壁や柱の移動に関しては、現状と比べて壁量が減少しないようにすれば屋根面の剛性が連続しているため、比較的自由に行える。柱も負担する屋根荷重が増えなければ自由に行うことができる。（高嶋謙一郎／ Atelier742）

架構交差部分パース

架構ジョイント部分詳細図　縮尺1：30

開口部回り断面詳細図　縮尺1：40

提供：古森弘一建築設計事務所

建て方の様子。工場で組み立てられた小さなユニットが運び込まれ、はなれを含め248個の矩形の集合体となった。敷地に方眼が現れた瞬間。

リビングダイニング。柱間3間半以内であれば、改修も自由にできる。

中庭。中央の木はサルスベリ。

**方眼の間**
所在地／福岡県北九州市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

**設計**
古森弘一建築設計事務所
担当／古森弘一　橋迫弘平　穴井健一
構造　Atelier742　担当／高嶋謙一郎
照明　Plus y
担当／安原正樹　松浦瑞起（元所員）
外構・造園　浦田庭園設計事務所
担当／浦田知裕

**施工**
山下建設　現場監督／山下裕大
棟梁／與本篤史
大工棟梁／浦田昌鷹
屋根板金／テクノスライフ　担当／四辻誠
鋼製建具／YKKAP　担当／遠藤明美
木製建具／灘創建　担当／灘武美
左官　大前左官　担当／大前恵則
内装　ワカエビス　担当／下川喜久夫
家具　コーヨー家具工芸　担当／桑野和美
塗装　伊東塗装店　担当／伊東精二
設備　後藤設備工業　担当／小澤万久
電気　座小田電気
担当／吉木康訓　児玉康治
外構・造園　浦田庭園設計事務所
担当／浦田知裕
外構　日新造園　担当／殿井悌一

**構造・構法**
主体構造・構法　木造
基礎　べた基礎

**規模**
階数　地上1階
軒高 3,540mm　最高高さ4,275mm
敷地面積　673.49m$^2$
建築面積　330.88m$^2$
（建蔽率50.45%　許容60%）
延床面積　232.70m$^2$
（容積率34.55%　許容200%）
1階　232.70m$^2$

**工程**
設計期間　2017年2月～10月
工事期間　2017年12月～2018年5月

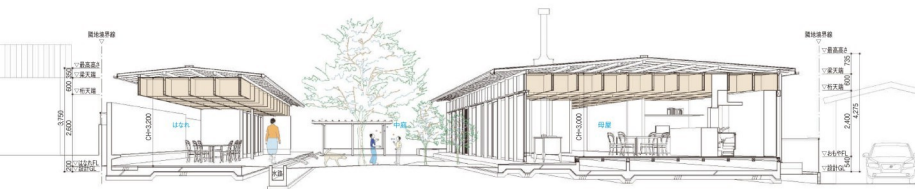
**敷地条件**
地域地区　市街化区域
道路幅員　東5.8m
駐車台数　2台

**外部仕上げ**
屋根／カラーガルバ鋼板 竪はぜ葺き
外壁／サイディング t=14mm ウレタン塗装
レンガタイル（アイコットリョーワ）ウレタン塗装 ラスモルII（富士川建材工業）＋左官仕上げ掻落とし
開口部／アルミサッシ、木製建具 YKKAP
外構／まさ土 ガンコマサ、一部芝

**内部仕上げ**
**キッチン**
床／ブラックチェリー無垢フローリング
t=15mm（前田木材）
壁／ラワン合板　t=12mm EP　一部SUS貼り
天井／突板 t=4mm 浸透性塗料
厨房機器／CENTRO（クリナップ）
**浴室**
ユニットバス（LIXIL）
**トイレ　洗面所**
床／リノリウム（ABC商会）
壁／エコカラット（LIXIL）
天井／ラワン合板 t=12mm EP
便器／TOTO
**玄関　シューズクローク**
床／磁器質タイル（KYタイル）
壁・天井／左官仕上げ 掻落とし
**リビング　ダイニング　書斎スペース**
床／ブラックチェリー無垢フローリング
t=15mm（前田木材）
壁／ラワン合板 t=12mm EP
天井／突板 t=4mm 浸透性塗料
**洋室1　洋室2　洋室3　マルチルーム**
床／ブラックチェリー無垢フローリング
t=15mm（前田木材）
壁／ラワン合板 t=12mm EP
天井／OSBボード t=12mm 浸透性塗料
**はなれ　倉庫**
床／カラーモルタル金ごて押さえ
壁／図書室：左官仕上げ 掻落とし
倉庫：OSBボード t=12mm EP
天井／OSBボード t=12mm 浸透性塗料

**外部仕上げ**
空調　冷房・暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第三種換気
その他／電気式床暖房
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／エコキュート

撮影／大森今日子

中庭の夕景。ソトマを中心に人びとが集う。

断面パース　縮尺1：150

# 玉城の家

House in Tamagusuku
沖縄県南城市

STUDIO COCHI ARCHITECTS

南東側全景。南側は海を一望でき、北側は前面道路を挟んで山を抱えた敷地に建つ。各個室や水回り、アトリエなどのヴォリュームを配置し、その上に大きな屋根を架け、ヴォリュームの間がリビングやダイニング、キッチン、ナー（前庭）となるように計画。

**亜熱帯の風土の中に暮らす**

沖縄県の東海岸の海が一望できる敷地に、自身の住宅兼アトリエを建てた。
近年、沖縄では住宅の均質化が進んでほかの地方都市とも変わらない街並みが増え、辛うじて地域性を残しているのは植物と空、海くらいに感じられる。本州仕様の省エネや高気密高断熱の価値観に流され、風の通る開放的な空間はなくなり、周りをコンクリートで固め、小さい窓を閉じ、空調の効いた快適な室内空間をもつ住宅に変わってきている。夏の盛りは外にいても風の抜ける庭の木陰は心地よい。この住宅でもそんな人間的な快適さを感じる空間をつくりたいと考えた。
敷地は沖縄県本島南部の集落の外れにあり、山から続く傾斜地で、南側に海を一望できる周辺を緑に囲まれた場所にある。北側に山を削ってつくられた道路が通り、山から続く敷地は道路より少し高くなっている。プライバシーの確保と山の記憶を残すため、土地の形状にはなるべく手を加えないよう配置計画を行った。
アプローチは、敷地高低差と植物、建物の配置を利用し、アトリエと住宅の隙間を回り込むようにすることで、住宅への視線は遮られ、海へと視線が抜けていく。また、内部の活動を伺うように来訪者が一旦立ち止まり、無闇な侵入を緩やかに拒む結界をつくった。住宅とアトリエを繋ぐナー（前庭）は大きな陰が覆い、来訪者の対応から子供の遊び場、外での食事、ワークショップやイベントのスペースと、玄関の役目から活動の場まで多目的な空間となる。内部は、外と連続した開放的で風の抜ける陰の空間とし、子供たちの駆け回る大きな木陰のような快適さと、この地の伝統や精神性を再構築した沖縄の現代建築を目指した。　（五十嵐敏恭）

南側外観。構造はコストを抑えるために、補強コンクリートブロック造を採用。

One-story House

# 大屋根の下で内外を行き来して暮らす

サボテン　オオバサルスベリ
13,800
3,200　1,600　1,600　895　530　2,475　1,750
サガリバナ　シマトネリコ　ヤエヤマヤシ
クロトン　フクギ　フェニックス　ゲッキツ　タビビトノキ
ススキ　ススキ　タビビトノキ
ギョボク
1,615　2,650　1,035　7,150　3,100　500　525　900　375
主寝室　浴室　洗面脱衣室　トイレ　収納　本棚　収納
ベンチ:チーク
サンルーム
土間コンクリート
研磨 防塵塗装
子供室
壁:チーク
廊下
柱:チーク
踏み台:チーク
飾り棚:スチール
背凭れ:イヌマキ
オオタニワタリ
ツゲ
物干し場
本部石灰岩張り
和室
畳敷き
内壁:土壁
サガリバナ
サボテン
ハス
池
中庭
リビング
土間コンクリート
研磨 防塵塗装
外壁:土壁
リュウビンタイ
ジンジャー
プルメリア
鉄筋コンクリート雨樋
隣地:サトウキビ畑
プルメリア
2,515　1,550
2,475　2,450　4,065　4,510
14,900
ススキ
サボテン

配置平面図　縮尺1：90

配置図　縮尺1：4,000

北側全景。前面道路と1,300〜2,200mmのレベル差がある。道路側は段階的に植物を増やしていき、将来的には森となって建物を覆う計画。

アトリエと住宅の間のアプローチ。

アトリエから南東側を見る。内外がひと続きとなって見えるように、建具の枠を設置せず、屋根に建具のレールを彫り込んだ納まりとしている。

駐車場からアトリエを見る。w2,700×h2,500mmの大きな建具はチークで制作。机はニービ石と呼ばれる沖縄県の山の中から採れる卵型の石を脚とし、その上にチークの天板を乗せている。

アトリエからナー（前庭）を見る。住宅へのアプローチは版築のベンチ。2棟の屋根の隙間から光が差し込む。

**玉城の家**

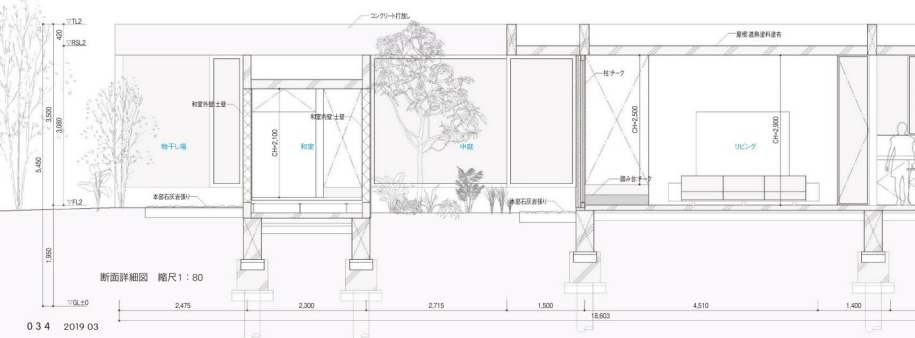
所在地／沖縄県南城市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供3人

**設計**

STUDIO COCHI ARCHITECTS
　担当／五十嵐敏恭
構造　建築設計・明
　担当／玉城明美

**施工**

内部・木工事・家具　atelier NUK
　担当／佐々木幸史郎
躯体　アース建設　担当／友寄司
設備　桑江設備
電気　トノシロ電気

断面詳細図　縮尺1：80

リビングからナー（前庭）を介してアトリエを見る。リビングのソファはイヌマキ材の背もたれにKvadratの生地で制作したクッションを置いた。
土間コンクリートの場所は上足で、大雨や台風の日以外はほとんど開け放ち、内外が一体となった暮らしをしている。

外構・造園　庭善　担当／比嘉繁
土壁・土間三和土・タラソミックス　當山官業　担当／當山政人
石貼り・土間三和土・芝貼り・内部塗装　担当／ STUDIO COCHI ARCHITECTS&ワークショップ

**構造・構法**
主体構造・構法　補強コンクリートブロック造
基礎　鋼管杭

**規模**
階数　地上1階
軒高 3,451mm　最高高さ 3,871mm
敷地面積　651.32m²
建築面積　144.65m²
（建蔽率22.20%　許容70%）
延床面積　105.72m²
（容積率16.23%　許容200%）
1階　105.72m²

**工程**
設計期間　2017年1月～6月
工事期間　2017年6月～2018年4月

**敷地条件**
地域地区　無指定地域
道路幅員　北13.12m　駐車台数4台

**外部仕上げ**
屋根／コンクリート金ごて押さえ　一部遮熱防水塗装
外壁／モルタル研ぎ出し仕上げ　一部コンクリート打放し（普通型枠）　浸透系撥水剤
和室外壁／土壁（セメント入り）
開口部／木製サッシ（チーク材）

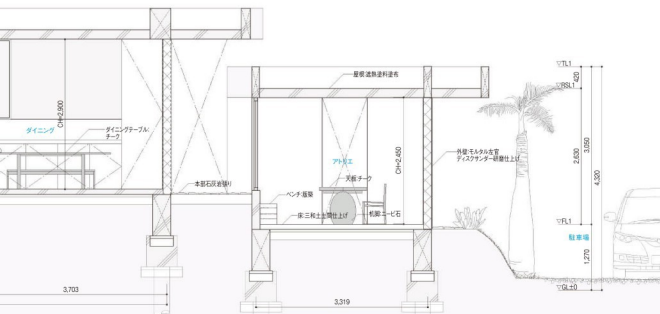
**内部仕上げ**

**リビング　ダイニング　キッチン　寝室　子供室　トイレ　洗面脱衣室**
床／コンクリート磨き　防塵塗装
壁／クイック&イージー（プラネットウォール）一部モルタル研ぎ出し
天井／コンクリート打放し（普通型枠）
厨房機器／
食洗器／パナソニック NP-45VS6
ガスコンロ／リンナイ RD640STS
家具／制作
照明／ LEDダウンライト
建築金物／
シンク水栓金物／ CERA Ono
便器／パナソニック アラウーノ
洗面カウンター／制作（タラソミックス）

**浴室**
床／コンクリート磨き　タラソミックスコート剤
壁／モルタル塗り押さえ仕上げ　撥水剤
天井／コンクリート打放し（普通型枠）　撥水剤
照明／ LEDダウンライト

**和室**
床／畳
壁／土壁
天井／土塗り
照明／ LEDダウンライト

**設備システム**
空調　冷暖房方式／ルームエアコン（和室・寝室）
換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／合併浄化槽
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／神宮巨樹

上：ダイニングからリビングを見る。正面は飾り棚兼靴箱。　下：廊下から和室を見る。

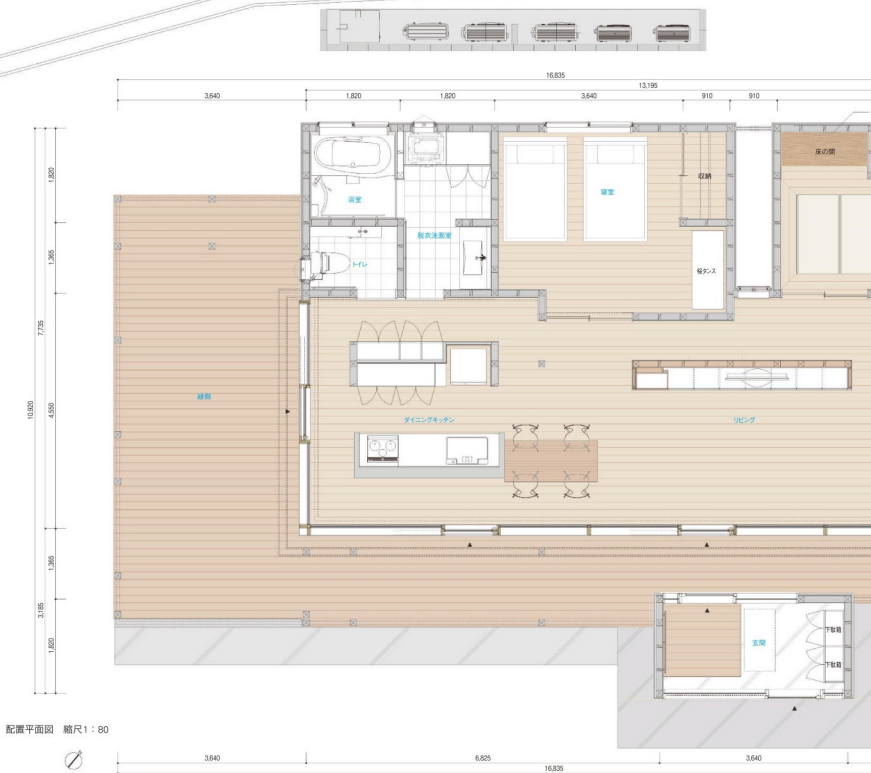
# 長床の家

a Long House
福島県南相馬市

Life style工房　安齋好太郎
Kotaro Anzai

2011年の東日本大震災の影響で、2017年まで一時避難区域に指定されていた福島県南相馬市。規制が解除されて戻って生活するにあたり、夫婦ふたりで住むには大きすぎる既存の平屋を改修。水回りを減築し、既存の柱はそのままで内側に木製ガラス建具を設えることで、広縁と和室だった場所を縁側にして、街の人とのコミュニケーションの場とした。

One-story House
# 減築してコミュニケーションの場をつくる

配置平面図　縮尺1：80

**日常の光景を残す**

敷地は福島県南相馬市で、福島を代表する祭りのひとつ「相馬野馬追」の舞台として有名だ。しかし、今は「一時避難指示区域」としての知名度の方が上だろう。2011年の福島第一原子力発電所の事故以降、街を離れたきり戻らない人も多く、空き家も目立つ。建主の両親も一時避難を余儀なくされた。規制が解除され、長年慣れ親しんだ土地に戻ることを選んだ両親の家を、われわれが改修することになった。築34年の平屋は、8畳間が7つに広い台所、トイレがふたつという、70代の夫婦2人が暮らすには広すぎる間取りだった。相続後の管理まで考慮すると、現実的には減築することがベターだと思われたが、震災にも耐え抜いた瓦屋根は力強く、この佇まいを活かすことにした。

建主の父は、かつて相馬野馬追の総大将を務めるなど、地域の伝統行事を大切に受け継いできた人で、昔から来客が絶えなかったそうだ。いつも誰かしらと縁側に腰掛けて話している光景が、実家の日常だった。縁側は人を迎えるのにちょうどよい場所だ。訪れる人にとっても、靴を脱ぐほどかしこまらず、いつでもきてパッと立ち去れる気軽さがある。南相馬には雪はほとんど降らないので、季節を問わず、お茶とタバコの縁側コミュニケーションは行われてきた。瓦屋根と共に、こうした日常の光景を残したい。地域に戻ってきた人びとの拠り所となり、日常的に交流のもてる場をつくるために、屋根架構はそのままに居住部分を最小限に減らして、残りの

上：南西側夕景。周辺には庭木が多く、春から秋にかけてさまざまな花や緑を楽しむことができる。　下：南側全景。

大部分を広縁とした。

相馬野馬追の際には、20人前後の人びとが入れ替わり立ち替わりこの家に集まる。靴を脱ぎ収納するための玄関を設けたものの、来客は玄関を通らず広い縁側のどこからでも訪れることができるようにした。祭りの後、互いを労いながら広縁に集まって笑い合う地域の人びとの姿が眼に浮かぶ。そのような光景が末長く続くことを願っている。　　　　　　　　（安齋好太郎）

改修前平面図　縮尺1：200

ダイニングキッチンから南西側を見る。北側にあったキッチンを縁側に開けた南側に配置。天気のよい日はダイニングキッチンと隣接した縁側を外のリビングとして使える。

上：リビングからダイニングキッチンを見る。リビングとダイニングキッチンを囲って3方に縁側が設えられ、北側に水回りと寝室、和室が並ぶ。　下：ダイニングキッチンから玄関方向を見る。

**長床の家**

所在地／福島県南相馬市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦

**設計**

Life style工房　担当／安齋好太郎　渡部翔太
照明設計　inLighten　担当／北出剛

**施工**

Life style工房　担当／古関秀章
地質調査　サムシング　担当／齋藤孝文
仮設　江河工業　担当／近藤貴彦
基礎　八千代組　担当／三瓶嘉久
大工　つつじ杢校　担当／大橋勉
　佐藤重建築　担当／佐藤重作
左官　藤巻左官工業　担当／佐藤晃司
サッシ　クラシマ　担当／梶山政志
建具　太齋木工所　担当／齋藤正義
塗装　東北テクノ　担当／吉仲真也
内装　鎌田企画　担当／鎌田成真
　タタミのエンドー　担当／遠藤善栄
設備　テツエンジニアリング　担当／湊哲哉
外壁　渡辺パイプ　担当／逢坂卓也
木材　ツボイ　担当／遠藤耕久
電気　三品電設　担当／三品信一
防水　日東物産　担当／佐々木正和
瓦　穴澤瓦店　担当／穴澤章

**構造・構法**

主体構造・構法　木造在来工法
基礎　布基礎

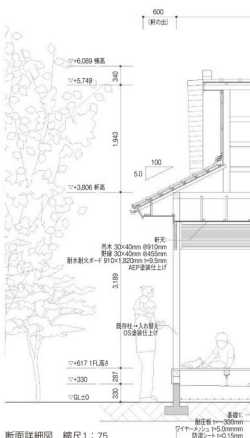
**規模**

階数　地上1階
軒高 3,806mm　最高高さ 6,089mm
敷地面積　1,419.20m²
建築面積　194.72m²
　（建蔽率13.7%　許容60%）
延床面積　156.14m²
　（容積率11.0%　許容200%）
1階　156.14m²

**工程**

設計期間　2016年12月～2018年7月
工事期間　2017年11月～2018年7月

**敷地条件**

断面詳細図　縮尺1：75

左：玄関。既存の位置や規模をそのまま活かしている。　右：縁側から南北側を見る。玄関とリビングの間に外部空間を挟んだ構成になっていて、玄関を介さなくても出入りできるようになっている。縁側上部の天井ライティングレールからシーンに合せライティングを変える。

地域地区　都市計画区域
道路幅員　東5.0m　　駐車台数　5台

**外部仕上げ**

屋根／瓦（既存利用）
外壁／窯業系サイディング リシン吹付け塗装
開口部／木製建具　複合サッシ
縁側／スギ 30×105mm 目透かし張り t=15mm

**内部仕上げ**

**ダイニングキッチン　リビング**

床／スギ 浮造り仕上げ
壁／ AEP塗装 SOLID
天井／ AEP塗装
厨房機器
システムキッチン／ YSオリジナルAプラン キッチン ラクシーナ
換気扇（シェード）／三菱電機 VD-13ZVC3パナソニック レンジフード スクエアセンターフード
照明／ダウンライト パナソニック LGB745602LB1
ペンダントライト オーデリック OP087386LD
空調機器：天井カセット形エアコン RCI-GP63RGHJ

**浴室**

ユニットバス／パナソニック ソシエV Eタイプ1616
空調機器／ MAX No.XS553C

**トイレ　脱衣洗面室**

床／ CF
壁・天井／ AEP塗装
照明／ダウンライト パナソニック LGB74502LE1
便器／ TOTO ネオレスト
トイレ洗面カウンター／カクダイ 497-504-W
洗面カウンター／ラワンランバー 24mm カクダイ 497-022H
洗面用水栓金物／カクダイ 183-119

**和室**

床／畳
壁／聚楽壁
天井／ AEP塗装
照明／ダウンライト パナソニック LGB745602LB1

**設備システム**

空調　冷暖房方式／天井吊エアコン
　　　換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水直結方式
　　　排水方式／合併処理浄化槽　下水道放流
給湯　給湯方式／電気ヒートポンプ

撮影／新建築社写真部

配置図　縮尺1：2,000

南東側から縁側を見る。

3,640　3,640　4,550　910　4,095　600（軒の出）

屋根:
桟瓦
アスファルトルーフィング t=1.5mm
スギ 野地板 t=9.0mm
スギ 垂木 45×52mm @455mm

既存梁 120×120mm
下部補強梁 120×450mm

天井断熱:南相馬市4地域(設計値3地域仕様)
マグ イゾベール・コンフォート t=155mm

天井:
吊木 30×40mm @910mm
野縁 30×40mm @455mm
石膏ボード t=12.5mm

既存梁 120×270mm
下部補強梁 120×550mm

壁断熱:
南相馬市4地域(設計値3地域仕様)
マグ イゾベール・コンフォート t=105mm

縁側　ダイニングキッチン　リビング　縁側

ウッドデッキ:
スギ 30×105mm 目透かし張り t=15mm
OS塗装仕上げ
大引き 90×90mm @910mm

床断熱:
南相馬市4地域(設計値3地域仕様)
マグ 床トップ t=80mm

1.0　100

基礎2:
耐圧板 t=100mm
ワイヤーメッシュ t=5.0mm
防湿シート t=0.15mm

基礎1

3,640　4,550　3,640　3,640　1,365
16,835

# 菰野の家

House in Komono
三重県三重郡

**杉下均建築工房**
Hitoshi Sugishita
Architects & associates

7間四方の正方形プランの中央に配された3間四方の広間。広間の床は玄昌石。腰掛けは厚さ50mmのスギ製。天窓の光は養生プラダンを通して拡散させている。壁に柔らかく当たる淡い光が左官仕上げの壁の素材感を浮かび上がらせる。

南向きの広間の窓。広間と居間とを区切る壁にも開口を設けることで空気や視線、動線を停滞させず、行き止まりをなくしている。

居間から開口越しに広間を見る。開口の大きさは1,200mm角。

広間から食堂と居間を見る。食堂の床を150mm下げることで、居間のソファや広間の腰掛けに座った人と、食卓の椅子に座る人との視線の差を小さくして落ち着きを出している。

広間から北の入口を見る。入口には網戸も設えられており、建具を開け放って外が見通せるようになっている。

## One-story House
# 自然の中で広間を内包する家

### 余白が生む可能性

敷地はもともと先祖伝来の広い田んぼの一部だった。地域一帯には昔、マコモ（イネ科の多年草）などが生い茂る原野が広がり、菰野の地名はそこから名付けられたという。代々眺めてきただろう風景の記憶をなるべくそのまま繋ぐよう、抑えた姿にしたいとの思いから必然的に平屋になった。

鈴鹿山脈の姿や陽の光など自然の恩恵が充分に受けられる反面、その脅威も直接受け止めることになる。そこでできるだけ軒高を低く抑え、鈴鹿颪や雨に直接さらされる外壁の面積を少なくした。屋根は単純な切妻にして軒を出し、外に向かう開口は限定して設け、壁面を多く取ることで、外界から守られた場所であるという安心感をもたせた。家族の集いの中心になる食堂の窓からは、その名のごとく郷里を象徴する御在所岳を望む。

木造の合理的なモジュールである2間スパンを単位として外周部に必要な室を配置し、内に余らせた空間を広間とした。広間の床や柱、建具は黒く沈ませ、天窓の下には腰掛けを配し、低い重心を意識させて囲まれた場所の落ち着きを出した。全体を正方形の平面プランに整えたが、広間に集中形式の空間の強い求心性が出ると内に籠りすぎて窮屈な感じを与えるので、切妻の小屋裏を現して均質になることを避けた。2間スパンだと3間角の広間には柱がひとつ必要になるが、それも真中心から455mmずらして同心円の動線にしないことで腰掛け前の空間にヴォリュームをもたせている。

家はその存在が地域に与える影響から、自分のものでありながら自分だけのものではない。かたちは馴染みあるもので、内には発展を感じさせるものでありたいと思う。長く読み継がれる文学や、時を超えてなお見る者を魅了する絵画などには、共通して確固たる芯があり、同時に受け取る側にいろいろな解釈の余地を与えてくれると感じる。そんな余白を孕み、時を経ても古びない家のありようを考えていきたい。　　（杉下均+出口佳子）

配置平面図　縮尺1：100

寝室から広間を介して食堂を見る。寝室の床はFL+840mm。

食堂から居間を見通す。

3,640 1,700 3,760 1,820 1,820

子供室
FL±0
床:
スギ板 t=30mm ソープフィニッシュ

SUSハンガーパイプ
中段:
ベニヤ t=5.5mm

寝室
FL+840
床:
スギ板 t=30mm ソープフィニッシュ

洗濯機
棚
浴室
FL-50
床:モザイクタイル貼り

洗面所
FL±0
床:
スギ板 t=30mm ソープフィニッシュ

家具
SUSハンガーパイプ
クローゼット
FL±0

広間
FL±0
床:
玄昌石 300×600mm貼り

FL+100
マットレス 1,000×1,950mm
+カバーリング
マットレス 700×1950mm
+カバーリング

居間
FL±0
床:
スギ板 t=30mm ソープフィニッシュ

1,820 1,820 1,820 12,740 7,280

水田

下屋
3,640
1,820

クローク
FL±0
トイレ
FL±0

食堂・厨房
FL-150
机:
ベイスギ 3,500×1,000mm

パントリー
FL-150
冷蔵庫

シマトネリコ

12,740

LPG
1,500

アゼ

厨房より正面に御在所岳を望む。西日が強い時間には窓横に納まっている格子網戸を閉めて日射しを調整する。

居間。座った時に水平に視線が移るよう横長に窓を配置。南に設えたソファは既製のベットマットレスにカバーリングしたものを4つ並べている。

入口へのアプローチ。外観を低く抑えるよう、下屋の軒先先端で高さ1,950mm程度にしている。水墨画のように風景と馴染ませるために外壁は淡い墨色にした。

**菰野の家**
所在地／三重県三重郡菰野町
主要用途／住宅
家族構成／夫婦+子供2人

**設計**
杉下均建築工房　担当／杉下均　出口佳子

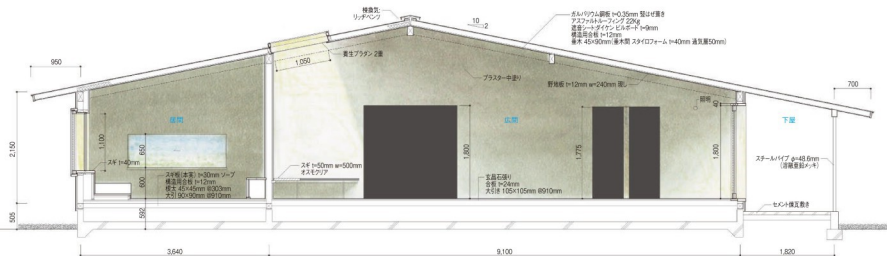
**施工**
リバティ　担当／辻康宏
大工　山中建築　棟梁／山中一郎
木工事　山西鈴鹿店　担当／丹羽勇貴
佐藤製材工場　担当／佐藤勝教
基礎　加藤建設　担当／加藤勝功
板金　浅井板金工業所　担当／浅井節雄
左官　山口左官　担当／山口敦司
タイル・石　樋笠タイル　担当／樋笠建一
金建・ガラス　コンドウ住設　担当／近藤一也
木製建具　荒木建具店　担当／荒木達弥
家具　落合洋家具製作所　担当／落合宏
塗装　服部塗装　担当／服部義明
設備　アクア建設　担当／出口茂孝
ガス　イワタニ三重　担当／中川久司
電気　三重電設　担当／齊藤賢司

**構造・構法**
主体構造・構法　木造
基礎　べた基礎

**規模**
階数　地上1階
軒高 2,575mm　最高高さ 4,100mm
敷地面積　499.98$m^2$
建築面積　208.15$m^2$
（建蔽率41.63%　許容60%）
延床面積　182.56$m^2$
（容積率36.52%　許容200%）

**工程**
設計期間　2017年1月～2018年1月
工事期間　2018年2～10月

**敷地条件**
地域地区　区域区分非設定
道路幅員　北6.0m　駐車台数　2台

**外部仕上げ**
屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.35mm 竪はぜ葺き
外壁／スギ板 t=15mm 押縁 キシラデコール
開口部／木製建具　アルミサッシ

断面詳細図　縮尺1：80

外構／アプローチ：コンクリート t=120mm 洗い出し　CB敷き

**内部仕上げ**

**全室**

床／スギ板 t=30mm ソープフィニッシュ　玄昌石 300×600mm貼り

壁／ラスボード下地 プラスター 中塗り

天井／小屋組現し　野地板：スギ t=12mm　登梁：ベイマツ 105×150@910mm

家具／シナベニヤOP　一部ベイスギ無垢

照明／陶製碍子（青山製陶）＋白熱球

厨房機器／

オーブン・ガスコンロ／ハーマン

換気扇（フード）／有圧換気扇：三菱

フード：制作

家具／天板：SUS No.4 加工　面材：シナベニヤ OP　一部ベイスギ無垢

便器／ TOTO

洗面器／洗面：TOTO SK106　トイレ：Tform FAA70-2203

**浴室**

床・壁／モザイクタイル貼り（協同組合ケーエスジー）

天井／スギ板（本実） t=15mm

照明／ヤマギワ BEGA

バスタブ／ TOTO PYS1200

**設備システム**

空調　冷房方式／ルームエアコン

換気方式／第三種換気

給排水　給水方式／上水道直結

排水方式／公共下水道放流

給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

配置図　縮尺1：3,000

下屋から西側を見る。正面には御在所岳。右手には車庫。

東面の外観。周辺は水田や畑が広がる。西の山並みに呼応する切妻屋根。

北側外観。住宅街に建つ4人家族のための木造平屋住宅。プライバシーの確保と外部環境を室内に取り込むことを同時に行うために、外壁の高さを5,087mmとして室内との間にテラスを複数配置。敷地外に面した外壁の開口を高い位置に設けることで、テラスを介してお互いの様子を感じながらも外からの視線を遮る構成とした。*

特集：平屋という選択

# 松山の住宅

House in Matsuyama
愛媛県松山市

**松本悠介建築設計事務所**
Yusuke Matsumoto Architects

ダイニングから玄関を見る。玄関の床は外構が連続したモルタル仕上げとし、一方で外壁の内側の壁は室内の延長として感じられるように漆喰調佐官材仕上げとしている。視線が抜けるように玄関扉と外壁の開口を設け、内外は4mの建具の開閉によって仕切る。*

**環境をつくる**

愛媛県松山市に建つ、夫婦と子供ふたりのための木造平屋の住宅。建主は、私の姉夫婦である。プライバシーを確保しつつも、明るく開放的な住宅にしてほしい、移動のしやすさから平屋がよいという要望だった。

そこで、住空間と連続的なテラスを複数設け、敷地全体が開放的な生活の場、どの場所にいても周辺環境やほかの場所を感じることのできる

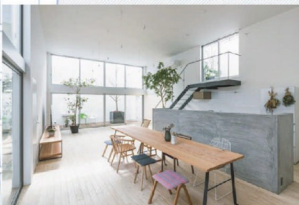
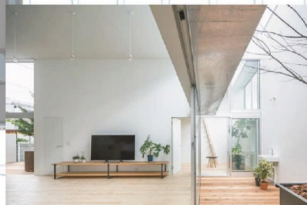
右手に室3を介してテラス2、左手にテラス1を見る。サッシを開けると開放的な屋内テラスのような場所になる。各部屋がテラスに隣接するような配置計画は、室内を外部化し、外部を屋内化する。それによってテラスを介して建物全体がワンルームとなり、内外や室同士の境界を意識することなく家全体を楽しむことができる。*

ワンルーム的な環境、隣接するスペース同士が互いに関係し合う動的な環境をつくることにした。一方で、プライバシーの確保に従順になりすぎるあまり、閉鎖的な雰囲気の建物になることは避けたい。そこで、閉じることと開くことを同時に解決する方法として、建物の高さをできるだけ高くして大きな開口を設け、プライバシーが必要な場所には上部に開口を設けた。それにより、外にも大きな開口から室内の雰囲気が伝わり、開放的な空間を予見させるような建ち方となることを考えた。また、天井高さを上げることで、屋内外が同じくらいの明るさになり、テラスや周辺環境とより連続的な環境になることを期待した。

平面計画は、中心にみんなの集まるリビングを配置し、周辺に個室やテラスを配置した半入れ子状の構成とした。室内は、周辺環境との関係を考慮して高さを4mに計画した。

室内とテラスの床のレベルをできるだけ揃え、内外をできるだけ連続させるために同じ材料で仕上げた。テラスの植物は、室内と同様の存在の仕方になるように鉢植えを複数置いている。

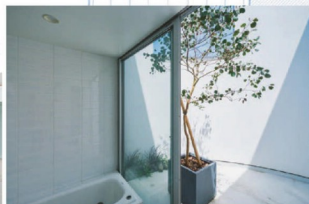
単純な内部／外部という関係の先にある環境とそれらを同時に感じることの快適さや生活（体験）を通して、建物の輪郭が曖昧になるようなあり方を目指した。（松本悠介）

One-story House
# 内外を横断して暮らしを楽しむ平屋

左：リビングとテラス1。奥の室3はどちらからもアクセスできる。テラスに対して全面開口とすることで室内外が同じ明るさになる。テレビ台は制作。*
右：リビング、ダイニング、キッチン。キッチン側の階段上部はテラス4。モルタルや黒鉄、亜鉛メッキなどで内外をできるだけ同じ素材で仕上げている。*

室1。南側のクローゼット上部から採光や通風を確保。*

配置平面図　縮尺1：90

室2からリビングを見る。普段は建具を開けてリビングと連続的な畳スペースとして利用し、来客時は客室として利用。*

左：洗面所から浴室を見る。どの部屋も2カ所以上の開口を設けている。*　右：浴室からテラス3を見る。テラス3に対して全面開口としているため、露天風呂のような浴室になっている。**

テラス4からリビング、テラス1を見る。天気がよい日は、テーブルを移動して木陰の下で食事をすることができる。植物や家具の配置によって内外を超えた空間の使い方ができる。**

断面詳細図　縮尺1：100

**松山の住宅**
所在地／愛媛県松山市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

**設計**
松本悠介建築設計事務所
　担当／松本悠介
構造　岩下建築設計事務所　担当／岩下晶夫
外構・造園　ハチタス　担当／吉田司

**施工**
世良建設　担当／世良正人
設備　千設備工業　担当／千智司
電気　苅田電気設備　担当／苅田千頭夫
製作金物　西村鉄工　担当／西村健
造作家具・建具　田窪木工所　担当／田窪浩三
外構・造園　ハチタス　担当／吉田司

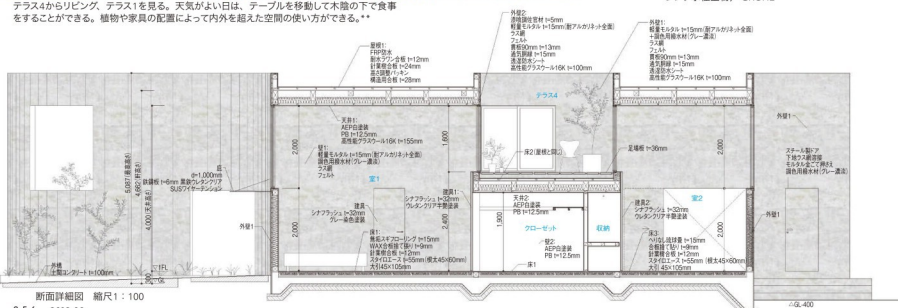
**構造・構法**
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

**規模**
階数　地上1階
軒高 4,662mm　最高高さ 5,087mm
敷地面積　265.08m²
建築面積　131.67m²
（建蔽率49.67%　許容50%）
延床面積　131.67m²
（容積率49.67%　許容50%）
1階　131.67m²

**工程**
設計期間　2016年11月～2017年5月
工事期間　2017年6月～11月

**敷地条件**
地域地区　第一種低層住居専用地域
　法22条区域
高度地区　10m
道路幅員　南4m　　駐車台数　2台

**外部仕上げ**
屋根／防火仕様FRP防水 アイカジョリエース
外壁／軽量モルタル t＝15mm＋撥水剤
開口部／アルミサッシュ　スチールサッシュ
外構／土間コンクリート金ごて押さえ　レッドシダーウッドデッキ

**内部仕上げ**
**キッチン**
床／床暖房対応無垢スギフローリング＋オイルワックス
壁／磁気質タイル タイルカンパニー　モルタル金ごて押さえ＋撥水剤
天井／ AEP塗装
厨房機器／
　食洗器／ Miele
　ガスコンロ／ハーマン
　換気扇（シェード）・家具／制作
　照明／磁気質ソケット
建築金物／
　シンク水栓金物／ GROHE

テラス2から室3を見る。ドイツトウヒとカツラのプランターボックスは、スタンドテーブルとしても利用できるようにスチールで制作。約800mmの立方体で、仕上げはそれぞれ錆仕上げと黒鉄ウレタンクリア。*

上：北側全景。駐車場を兼ねたオープンな前庭を設け、今後少しずつ植栽を増やして小さな公園のような場所にしていくことを考えている。*　下：北西側全景。周辺の2階建て住宅と同じぐらいの高さ。光の当り方で建物が暗い印象にならないように、外壁モルタルのグレーの撥水材を3段階に濃淡調色して塗布した。*

**浴室**
床／磁気質タイル 平田タイル
壁／磁気質タイル タイルカンパニー
天井／ SOP塗装
照明／パナソニック
建築金物／ドアノブ・施錠金物・サッシュ ユニオン（以下同様）
バスタブ／琺瑯浴槽 大和重工
シャワー水栓金物／ HANSGROHE
空調機器／パナソニック

**リビング　ダイニング　キッチン　トイレ　洗面所**
床／リビング・ダイニング・キッチン：床暖房対応無垢スギフローリング＋oilwax　トイレ・洗面所：モルタル金ごて押さえ＋撥水剤
壁・天井／ AEP塗装
家具／制作
照明／磁気質ソケット
便器／ TOTO
洗面カウンター／洗面器 サンワカンパニー　制作カウンター
洗面用水栓金物／サンワカンパニー

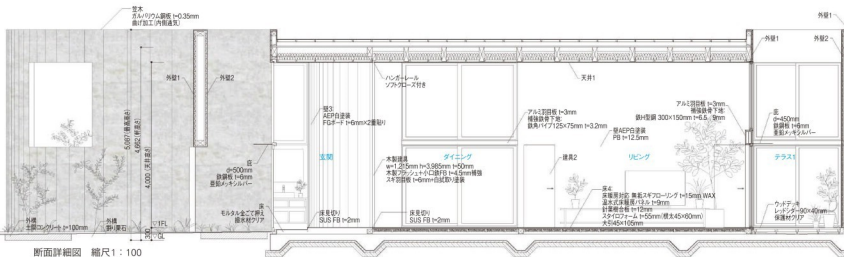
**室1〜3**
床／室1・3：無垢スギフローリング＋オイルワックス　室2：琉球畳　無垢スギフローリング＋オイルワックス
壁／ AEP塗装　モルタル金ごて押さえ＋撥水剤
天井／ AEP塗装
照明／磁気質ソケット

**納戸　クローゼット**
床／無垢スギフローリング＋オイルワックス
壁／ AEP塗装
天井／納戸：シナ合板素地　クローゼット：AEP塗装
照明／ダウンライト　オーデリック

**設備システム**
空調　冷暖房方式／ルームエアコン（パッケージ式個別空調）
換気方式／パイプファン
その他／床暖房 ガス温水式床暖房
ガスファンヒーター
給排水　給水方式／直結方式
排水方式／浄化槽方式
給湯　給湯方式／ハイブリッド給湯器（ガス・電気）

*撮影／平井広行
**撮影／川本晃司

配置図　縮尺1：2,000

断面詳細図　縮尺1：100

# 町家倶楽部

Guest House in Aira
鹿児島県姶良市

趙海光／ぷらん・にじゅういち
Cho Umihiko

中庭より見る夕景。母屋に隣接して建つ、コの字型のゲストハウス。右側の板の間から土間ラウンジ、和室へと連続する空間は深さ1.5mの軒に覆われている。土間ラウンジの前には屋根に降る雨水を貯める自然石積みの池が置かれる。

**水路を挟んで向かい合う母屋とゲストハウス**

この住宅は水路を挟んで母屋とゲストハウスが向かい合う一対の建築である。土間や庭、軒下など住宅内外の中間領域を再生して「家と町を繋ぐ」設計方法「現代町家」※1を提案して、日本各地の工務店と共同作業を続けていく中で、まず2011年に母屋の「薩摩町家」が建ち、5年後に離れのゲストハウスとして「町家倶楽部」が増築されて現在のかたちになった。

鹿児島県姶良市のこの辺りは、蒸暑地域なのに町を歩くと閉鎖的な家が多く目につく。母屋から離れへと、この住宅を連続的に設計する中で考えたのは、周囲の環境に開いた暮らしの場をつくることだった。幸いこの敷地では真ん中を農業用の水路が横断している。この水路を生かした庭をつくり、そこに向かって母屋と離れが同時に暮らしの場を開くような家のあり方を目指した。具体的には、土間・軒下・縁側という3つの空間要素を再利用して、庭と住宅とのエッジ（境界面）を構成した。

母屋からは水路の上に縁側デッキを跳ね出し、それに呼応するように対面のゲストハウスでは深い軒下に包まれた土間と縁側を北の水路と中庭に向かって張り出している。さらに土間先には石積みの貯水池をつくり、ゲストハウスの屋根に降る雨水をそこに集めてオーバーフローした雨水を水路に流す工夫をした。

「町家倶楽部」の土間には純粋な土の三和土ではなく調合済みのペースト（タタキバインド）を使用し、地場で取れた小石や砂利を混ぜて仕上げている。下地はコンクリートのため土間床の浮き沈みのリスクからは解放された。また屋根の登り梁をそのまま跳ね出すことで1.5mの深い軒の

出をつくり、3m幅をフルオープンする木製サッシはヘーベシーベの機構を組み込んだ建具を徳島で制作した。ありふれた町場の技術で過去の日本家屋がもっていた豊かな暮らしの場を取り戻すことが地域の工務店と共同作業を続ける「現代町家」の目的のひとつでもある。なお、この住宅は施工を担当した創建が建主でもあり、同社社長の自邸となる予定が、見学者が多かったため現在もモデルハウスとして使われている。

（趙海光）

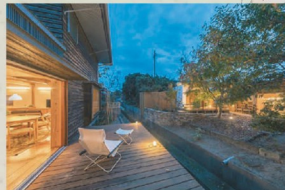
※1：「現代町家」については、『「現代町家」という方法』（2018年、建築資料研究社）参照。

土間ラウンジから軒下土間を介して中庭、水路上に跳ね出した母屋の南デッキを見る。中庭に面した左右引き分けの木製建具（幅3m）はすべて開け放つことができ、土間ラウンジがそのまま軒下土間へ連続する。中庭へきれいな影を落とせるように、ゲストハウスは階高を抑えた平屋とし、屋根勾配を北の中庭側に向けている。*

配置平面図　縮尺1：90

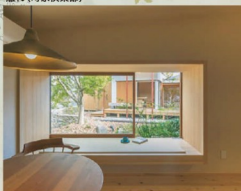
**母屋（薩摩町家／2011年竣工）**

母屋のアプローチ。

母屋のキッチンから南デッキを介して水路の先の中庭を見る。

母屋南デッキ夕景。デッキは水路上に跳ね出している。

One-story House

# 庭を挟んで暮らしを開く2棟

離れ(町家倶楽部)

ゲストハウスの板の間から中庭を望む。筒型の開口部は畳を敷いた「箱窓」。

和室から中庭を見る。

露天風呂。サワラ材の木製浴槽を据え、天井は竹竿の上に簾。*

軒下土間から西側を見る。雨水貯水池の壁は耐火煉瓦や敷石など、さまざまな廃品を自然石に混ぜて積んだ。和室のコーナー窓はアルミ引き違いサッシを加工して片引き窓にしている。

左：土間ラウンジから板の間を見る。板の間のコーナー部の柱は古材。ホゾ穴や欠き込みがついている。
右：土間ラウンジからキッチンを見る。中央の箱はキャスター付きの可動パントリー（Jパネル製1,450mm角）。

**町家倶楽部**
所在地／鹿児島県姶良市
主要用途／ゲストハウス

**設計**
ぷらん・にじゅういち
　担当／趙海光　宮本善州
構造　東昭エンジニアリング　担当／関野淳

**施工**
創建　担当／濱田健一郎
設備　原田設備工業　担当／原田芳孝
電気　姶良電設　担当／東鶴博美
外構・造園　青楓緑化　担当／岸野純一

**構造・構法**
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　コンクリートべた基礎

**規模**
階数　地上1階
軒高 3,850mm　最高高さ 4,010mm
敷地面積　1,422.0m²
建築面積　82.40m²
（建蔽率5.8%　許容50%）
延床面積　67.20m²
（容積率4.7%　許容80%）
1階　67.20m²

**工程**
設計期間　2014年8月～ 2015年6月
工事期間　2015年7月～ 11月

**敷地条件**
第一種低層住居専用地域　法22条地域
道路幅員　南6m　駐車台数　20台

**外部仕上げ**
屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.35mm 竪はぜ葺き
外壁／漆喰塗り カルクウオール　スギ板張り t=15mm キシラデコール塗布
開口部／木製サッシ モローズ　アルミサッシ

**内部仕上げ**
**土間ラウンジ　キッチン**
床／タタキバインド t=20mm カネミヤ
壁／メソポア珪藻土 手の物語
天井／スギ板 t=12mm 目透かし張り 水性塗装
家具／可動パントリー制作（Jパネル t=30mm w=1,450mm d=1,450mm h=2,000mm）
照明／オーデリック OS047212
木製サッシ／M窓 モローズ

**板の間**
床／製材無垢スギ板 t=30mm w=180mm
壁・天井／メソポア珪藻土 手の物語
家具／箱窓制作（スギ幅はぎパネル t=20mm）
照明／遠藤照明 RAD428L

**トイレ**
床／オールドパイン t=20mm 本実板張り（古材）
壁／スギ柾目幅はぎパネル t=25mm縦張り
天井／珪藻土
照明／パナソニック ML3211-01
便器／ LIXIL サティスSタイプ

「町家倶楽部」パース

中庭から東側を見る。正面の和室と右側の土間ラウンジが軒下空間で繋がる。軒裏はJパネル現し。

手洗いカウンター／TOTO ベッセルタイプ
洗面用水栓金物／TOTO TCL11C2

**露天風呂**

床・壁／製材無垢スギ板 t=30mm
天井／露天　一部竹
バスタブ／サワラ材による木製浴槽

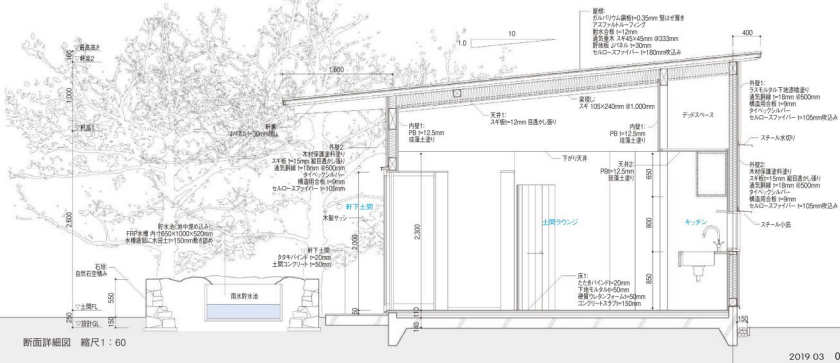
**設備システム**

空調　暖房方式／薪ストーブ（ダッチウエスト・セネカ）　施工：ウッドストック
冷房方式／壁掛けルームエアコン
換気方式／第三種換気
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部
*撮影／上田明

配置図　縮尺1：2,000

南東側外観。大きな窓をつくらず、玄関戸だけを穴のように設えている。

断面詳細図　縮尺1：60

# シラス洞窟の家

SHIRASU CAVE HOUSE
宮崎県都城市

**石沢英之＋唐木研介＋三原悠子**
Hideyuki Ishizawa＋Kensuke Toki
＋Yuko Mihara

リビング。左手のダイニングと共に諸機能を納めた曲面壁で囲まれた居室の間に配置され、屋外テラス、雑木林へと続く。床の一部にシラスの石を敷き、南からの日射と床下暖房による熱を蓄熱する。曲面壁はシラス左官仕上げで、帯状の文様は建主のデザインによりシラスの軽石が埋め込まれた。

One-story House

# 光の陰影と曲線が繋ぐシラスの洞窟と雑木林

**風土と呼応する**

宮崎県都城市の郊外、火山噴出物が堆積してできたシラス台地に建つ夫婦のための住宅である。建主はシラスの建材会社のオーナーであり、幼少期の原風景であるシラスの洞窟をテーマに、シラスの建材を用いて周辺環境を活かした家をつくることを望まれた。

敷地は周囲をスギやクヌギの雑木林に囲まれた川沿いの高台にあり、木立の合間からは時折噴煙を上げる霧島連山を望むことができる。中間期は木漏れ日やそよ風が心地よく、晩秋には落葉で一面埋めつくされる。 この風景が残るように木々の伐採を最小限にして建物を雑木林の中に配置した。1枚の大屋根の下にキッチン、寝室などを地層をくり抜いたような曲面形状のヴォリュームにまとめて分散配置し、その余白を雑木林と繋がるおおらかなワンルームとした。蛇行して連なる空間に玄関、リビング、ダイニングを配し、その延長に屋外テラスを設けている。ヴォリュームを相互にずらして配置することで雑木林が見え隠れするような奥行きが生まれる。緩やかにカーブした壁に沿って四方さまざまな角度から光や風が流れ込み、周辺環境の変化を感じ、時間の移ろいを楽しむことができる。

屋根は北から南へしなやかに反り上がるかたちとした。夏には深い庇と生い茂った木々によって日射を遮り、大きな開口から卓越風を取り込む。冬には落葉した木々の間から差し込む日射をシラス石材の床に蓄熱する、自然エネルギーを活かした断面形状である。

やせた土地のため長らく負の遺産とされてきたシラスであるが、古くから南九州の生活文化に根ざし、近年では多機能建材として見直されている。ここでは壁や天井の内外装にシラス左官材を、リビングの床にはシラスの石、キッチンにはシラスタイルを用い、内外に渡ってシラスに包み込まれるような設えとした。シラスは微細な多孔質構造による調湿、消臭効果があり、年間を通して快適な住環境を保つ。知覧の武家屋敷にみられるシラスの枯山水になぞらえてランドスケープにおいてもシラスの舗装材、シラスの軽石、シラスコンクリートを随所に鏤めた。

シラスだけでなく構造材や床材には地場のスギを用い、この土地の素材によって地面から芽生えるような建築のあり方を考えた。屋外テラスにおいてはスギの丸太柱を林立させ、雑木林に溶け込んでいく風景をつくり出している。洞窟と雑木林が混ざり合うような、内とも外ともつかない中間領域が心地よい住宅を目指した。

（石沢英之＋唐木研介）

北庭

犬走り:シラス砕石

床下エアコン吹出し口

壁:シラス左官仕上げ t=8mm

壁:シラス左官仕上げ t=5mm

ダイニング

寝室

床:スギ白太フローリング t=15mm

床:スギ白太フローリング t=15mm

壁:シラス左官仕上げ t=5mm

クローゼット

壁:シラス左官仕上げ t=5mm

トイレ-2

外壁:シラス左官仕上げ t=18mm

シラス左官仕上げ

壁:シラス左官仕上げ t=8mm

スギ 丸太柱

壁:シラス漆喰 t=2mm

ゲストルーム
（シアタールーム）

テラス-2

床:スギ白太フローリング t=15mm

スギ 丸太柱

外壁:シラス左官仕上げ t=18mm

床:セランガンバツ t=24mm

3,640 3,640 695

配置平面図 縮尺1：75

南庭

配置図 縮尺1：1,500

ゲストルーム。居室内部の壁はシラス漆喰仕上げ。

テラス2。天井高は約3,020 ～ 4,480mm。林立するスギ丸太柱が雑木林と連続する。

前室1から曲面壁の連なりを見る。多様なシラス仕上げを施した壁面、天井面に柔らかく光がまわり、空間に奥行きをもたらす。丸太柱もシラス左官仕上げ。

ダイニングからリビングを見る。

ダイニングからテラス1越しに雑木林を見る。

雑木林から見る南東側外観。北から南に反り上がる屋根の下に多様な奥行きをもつ半屋外空間が生まれている。外壁もシラス左官仕上げで内壁と同様に無着色の素地色とした。外壁の方が塗厚が大きくテクスチャも粗目の仕上げとしている。

断面詳細図　縮尺1：80

## シラス洞窟の家

所在地／宮崎県都城市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦

**設計**
石沢英之　唐木研介
構造　三原悠子構造設計事務所
　担当／三原悠子
プロデューサー　高千穂　担当／新留昌泰

**施工**
西山工務店　担当／西山秀樹
外構・造園　谷口工業　担当／森山善明

**構造・構法**
主体構造・構法　木造在来軸組工法
基礎　べた基礎

**規模**
階数　地上1階
軒高5,005～2,965mm　最高高さ5,480mm
敷地面積　3,570m²
建築面積　178.71m²
延床面積　122.97m²

**工程**
設計期間　2016年1月～6月
工事期間　2016年10月～2017年5月

**敷地条件**
地域地区　都市計画区域外
道路幅員　南4m
駐車台数　1台

**外部仕上げ**
屋根／フッ素樹脂ガルバリウム鋼板
　（元旦ビューティ工業）
外壁・軒裏／シラス左官仕上げ：スーパー白
　州そとん壁W 素地色（高千穂シラス）
舗装／シラス舗装材：シラストントン
　（高千穂シラス）
塀／シラスコンクリート（高千穂シラス）
開口部／木製サッシ（モローズ）　一部アルミ
　サッシ

**内部仕上げ**

**キッチン**
床／スギ白太フローリング t=15mm
壁／シラスタイル（高千穂シラス）
天井／シラス左官仕上げ：中霧島壁ライト（高
　千穂シラス）
照明／ダウンライト
家具／制作

**浴室**
床・腰壁／シラスの石：苔石（高千穂シラス）
壁・天井／ヒノキ羽目板　防水処理
バスタブ／ダイワDJ150
シャワー水栓金物／ GROHE グローサーモ
　1000

**トイレ　洗面所**
床／スギ白太フローリング t=15mm
壁／シラス左官仕上げ：中霧島壁 素地色
　（高千穂シラス）
天井／シラス左官仕上げ：中霧島壁ライト
　素地色（高千穂シラス）
照明／ダウンライト
便器／ LIXIL サティスS
洗面カウンター／ボール：チエロ opera70
トイレボール／チエロ opera45
洗面用水栓金物／ GROHE エッセンス
家具／造作

**リビング　ダイニング　玄関**
床／シラスの石：苔石（高千穂シラス）　スギ白
　太フローリング t=15mm
壁・天井／シラス左官仕上げ：中霧島壁ワイ
ルド 素地色（高千穂シラス）
照明／ダウンライト

**寝室　脱衣室　家政婦室　クローゼット**
**物置**
床／スギ白太フローリング t=15mm
壁／シラス左官仕上げ：薩摩中霧島壁 素地色
　中霧島壁ライト 素地色（高千穂シラス）
天井／シラス左官仕上げ：中霧島壁ライト 素
　地色（高千穂シラス）
照明／ダウンライト

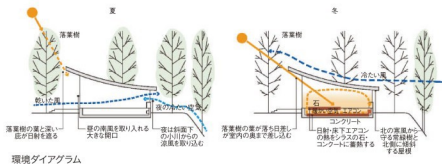
**ゲルトルーム兼シアタールーム**
床／スギ白太フローリング t=15mm
壁・天井／シラス左官仕上げ：白州漆喰（高
　千穂シラス）
照明／ダウンライト

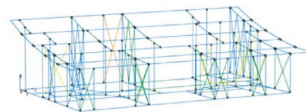
南側外観の近景。洞窟のような居室が見える。

東側外観。北から南に向かって反り上がる屋根が浮かび上がる。

**設備システム**
空調　暖房方式／エアコン（一部床下設置）
　　　冷房方式／エアコン
　　　換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結
　　　排水方式／合併処理浄化槽
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

夏
落葉樹
乾いた風
夜の冷たい空気
落葉樹の葉と深い庇が日射を遮る
昼の南風を取り入れる大きな開口
夜は斜面下の小川からの涼風を取り込む

環境ダイアグラム

**プレカットと伝統構法を併せた直線材による曲面構造**
商品展開を見越した住宅プロジェクトであり、プレカットを用いた木造軸組工法での曲面空間を目指した。桁方向に直線梁を並べ、スパンが2間半程度に納まるように柱から両腕を伸ばした「やじろべえ」のような登梁で支持する。柱のほとんどは曲面壁内に納め、一部独立柱とした。屋根・天井は、寺社建築の野垂木を参考に小径の長尺材を撓ませ、馴染ませて滑らかな曲面としており、下地を含めて曲げ加工を用いない直線材で構成した。　（三原悠子／三原悠子構造設計事務所）

曲面を直線部材で構成していることが分かる構造解析モデル

提供：三原悠子

「やじろべえ」のようなT形の柱梁で支え、無理のないスパンで構成している。

# 守山の地表と住処

Ano-house
愛知県名古屋市

倉橋友行／倉橋友行建築設計室
Tomoyuki Kurahashi ／ K.ado

東側の前面道路から見る。高低差のある敷地に沿うようにして建つ住宅。水の流れや地表を守るように植栽した。窓を通して内外の住まいの様子が垣間見える。

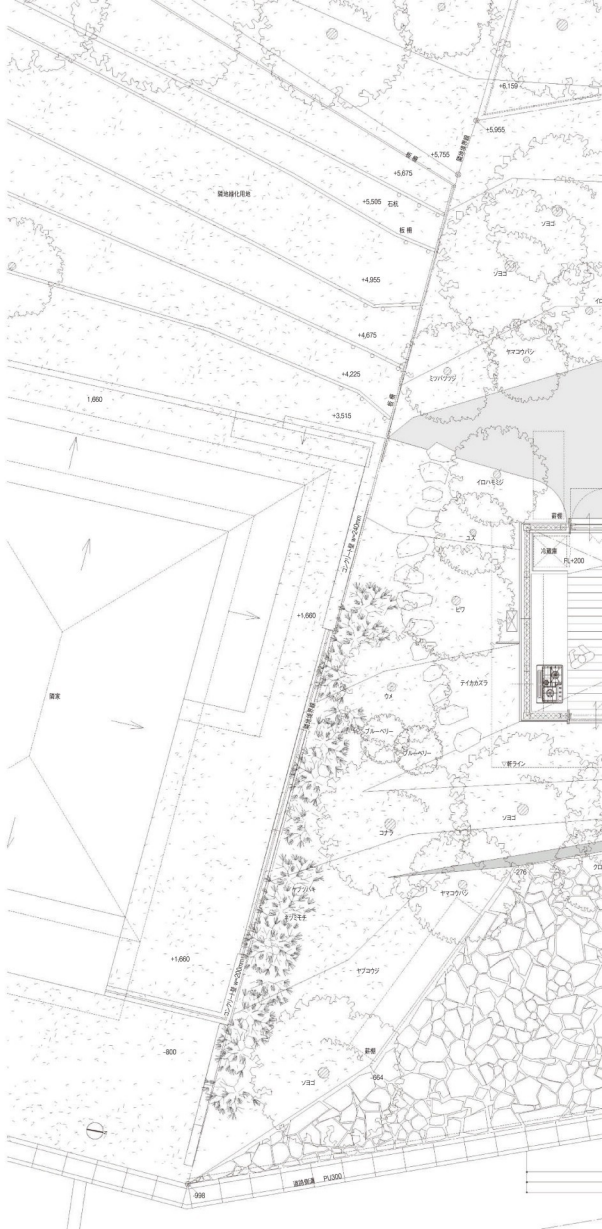
## 身体を通して繋がる建築と地形

敷地は十数mの高さの木々が育つ水はけのよい土地で、東の前面道路に向かって下る傾斜地だ。南には隣家があり南西には緑化用地がある。木々が育つ土壌や光、風などが揃った環境だった。建築をつくることは土地に何かしら人の手を加えることだが、同時にこの土地のよさをできる限りそのまま残すことを目指した。そこで土地の造成から庭づくりまで一貫して庭師と共に考えることを大事にした。

「この崖に平屋を建てたい」という建主の希望を受け、土地の高低差の中でいかに場所を繋げ、心理的な高低差の壁をつくらないようにするかを考えた。壁、天井、床の距離感や、素材や形状などのバランスを調整しつつ、内部と外部を織り交ぜながら、外部もひとつの室と捉えて構成し、平屋のように地面と共にある生活をつくろうとした。

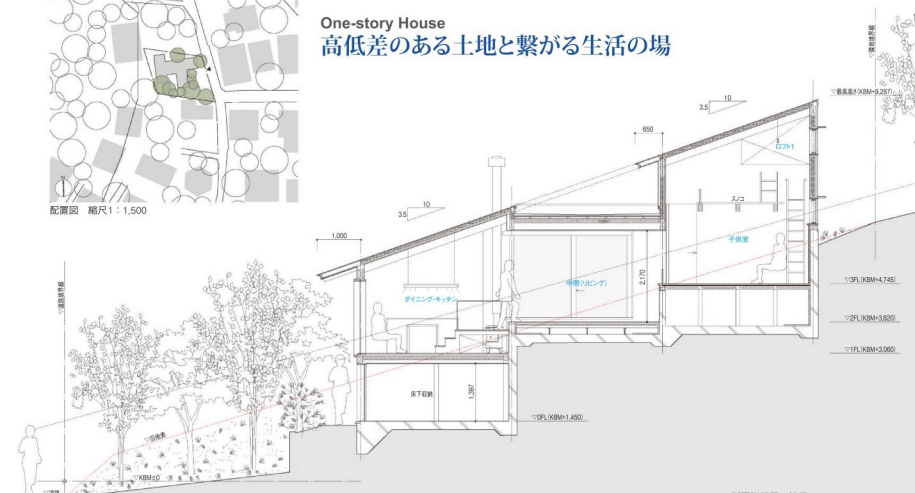
内部は、唯一中庭と同じレベルで平たく繋がる中間（リビング）を中心に、下段にダイニング、キッチン、薪スペース、上段に水回りと寝室などのプライベートスペースを配した。大きく3段のレベルが崖の地形に沿って繋がる構成となっている。中間の天井高を抑えることにより、視線や光量、熱環境などを緩く区切っている。視覚的な連続性だけでなく、光や風、温度などさまざまな要素から内外や個々の空間を認識しつつ、連なっていく奥行きをもつ住まいである。

どこか一方向の関係性ではなく、内外や上下の空間が双方向の関係性をもって繋がっていく。それは建築と土地が等価な住まいのあり方だ。高低差のある敷地の中にそれぞれ居場所ができ、その間を移動することで生活と土地が繋がる。土地への敬意をもちながら暮らす豊かさが、周辺にも広がってほしいと願っている。（倉橋友行）

上：南東側から見る。　下：北側外観。

中庭から窓越しにリビングとダイニングを見る。片もちのコンクリートでできたテーブルとシンクは、コーヒースペースやBBQ、魚捌きなどサブキッチンとしても使われる。また、主寝室の出口の踊り場にもなる。

配置図　縮尺1：1,500

One-story House

# 高低差のある土地と繋がる生活の場

断面詳細図　縮尺1：100

斜面から中庭、ダイニング、前面道路まで見通す。ダイニングには中庭に向けてカウンターが設けられている。中庭、ダイニング、道路など複数の内外の領域を繋げることで、奥行きや敷地との一体感をもたせている。

リビングと子供室。ダイニングとリビング、子供室のレベル差はそれぞれ760mm、925mm。ダイニングと子供室は同じ屋根勾配で、リビングのみ陸屋根となっている。リビングの天井高は2,170mm。

階段室を上がったところにあるダイニングとリビング。高低差のある地形に沿うようにそれぞれのレベルに居場所を設けることで、地面と繋がる住まいとしている。

**守山の地表と住処**
所在地／愛知県名古屋市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

**設計**
倉橋友行建築設計室 K.ado　担当／倉橋友行
構造　ワークショップ　担当／安江一平
造成・造景　櫻井造景舎　担当／櫻井靖敏

**施工**
箱屋　担当／金子拓磨
基礎　リュウテックコーポレーション
　担当／則竹竜二
大工　松村建匠　担当／松村好隆
木材　山西　担当／安藤昭典
板金　今井板金　担当／今井春雄
金属　アイチ金属　担当／山田茂
左官　左官屋坂入　担当／坂入竜司
塗装　安藤塗工店　担当／安藤敏
木製建具　今井建具製作所　担当／今井隆裕
硝子　井上硝子　担当／井上静一
家具・キッチン　信濃工芸　担当／本島淳一
電気　足立電気商会　担当／萩原和夫
給排水　クアトロ　担当／渡部貴昭
空調　名南冷熱工業　担当／小澤慎太郎
造成・造景　櫻井造景舎　担当／櫻井靖敏
雑具　K.ado　担当／倉橋友行　日下石智彦

**構造・構法**
主体構造・構法　鉄筋コンクリート造＋木造
基礎　高基礎　べた基礎

**規模**
階数　地上1階
軒高 4,401mm　最高高さ 4,664mm
敷地面積　330.12m²
建築面積　98.44m²
（建蔽率29.82%　許容40%）
延床面積　89.44m²
（容積率27.09%　許容60%）

**工程**
設計期間　2015年7月〜2017年7月
工事期間　2017年8月〜2018年8月

**敷地条件**
第一種低層住居専用地域　緑化地区　風致地区
法22条地域　高度地区　宅地造成規制区域
道路幅員　東3.8m　駐車台数　3台

**外部仕上げ**
屋根／ガルバリウム鋼板 竪はぜ葺き
外壁／モルタル木こて押さえ 撥水剤塗布
開口部／木製建具（ベイスギ）　アルミサッシ
外構／版築任意擁壁、PC墨平板（現場制作）

**内部仕上げ**
**キッチン　ダイニング**
床／スギ板 t=30mm 蜜蝋ワックス塗布
壁／クレーペイント一部モルタル塗り
天井／構造用合板 t=24mm 現し
家具／制作
照明／ LEDL-12301L-LD9　flame　制作
**浴室**
床・バスタブ／ TOTO ハーフユニットバス 1616
壁・天井／モルタル塗り 撥水剤塗布
照明／ LEDD87000L
**主寝室　子供室　トイレ　洗面所**
床／スギ板 t=30mm 蜜蝋ワックス塗布
壁／ラワン合板 t=5.0mm 張り
天井／構造用合板 t=24mm 現し
家具／制作
照明／ OD261030LD　碍子e17　制作
便器／ CS330B SH331BA TCF44711
洗面カウンター／ラワン合板　SK106
**中間（リビング）**
床／スギ板 t=30mm 蜜蝋ワックス塗布
壁・天井／特製調合漆喰塗り
家具／テレビなど収納家具制作 一部EP塗り
照明／ OD261030LD
**階段室玄関**
床／モルタル金ごて押さえ 防塵塗料塗布
壁／特製調合漆喰塗り
天井／構造用合板 t=24mm 現し
照明／ chikuni　碍子e17

**設備システム**
空調　暖房方式／薪ストーブ
　冷房方式／ルームエアコン
　換気方式／第三種換気
給湯　給湯方式／ノーリツエコジョーズ

撮影／新建築社写真部

子供室からリビングとダイニングを見る。座るとリビング・ダイニングへ視線が通り、立つと遮られる。レベル差や光の陰影、天井高などの操作により複数重なる領域の奥行きを感じさせている。

# 船橋 梨園の家

House in Funabashi
千葉県船橋市

井上洋介建築研究所
Yosuke Inoue Architect & Associates

南東より見る。既存の母屋を敷地の南側に曳家し、それとL字型に庭を囲うかたちで建てられた。梨園との結節点となる庭に面してテラスが連続する。南北軸に配される壁柱とテラスが場所に応じて幅や奥行きを変えることで、さまざまなスケールの居場所をつくり出している。

**コンクリートと木でつくる現代の日本家屋**

初めて敷地を訪れた時の母屋の立派な佇まいがとても印象に残っている。それは60年前建主の祖父の代に建てられたという瓦葺きの堂々とした民家だった。家の前には長年手入れをしてきた庭が広がり、傍らには敷地内で一番古いという作業小屋があった。船橋のこのあたり一帯はたくさんの梨園があり、通称梨街道と呼ばれている。街道沿いには農家の建物と思われる瓦葺きの家が多く残る一方、宅地への転用も進んでいる。

この住宅は梨園を営む親子2世帯・3世代の住宅である。設計にあたって建主からの要望は既存の母屋を残しながら新しい住まいをつくるというもの。南向きの母屋を曳家によって東向きに移築し、道路側から作業場として使いたいということ。その上で新しい住まいを自由に提案してほしいということだった。

単純な切妻屋根の平屋にするイメージは、敷地を訪れた時からもっていた。新しい住まいは、母屋より主張しないよう高さを抑えた平屋とし、屋根は母屋の立派な瓦屋根と調和を図り、瓦で葺くこと。東西に長いボリュームを母屋に対してL型に配置し、庭を囲む構成とすること、などが設計の基本的な考え方である。

東西に長い平面は、リビングを中心に親世帯、子世帯に分かれ、同居しながら、緩やかに生活空間を仕切っている。構造はコンクリートと木の混構造。部屋のまとまりごとに南北にコンクリートの壁を配置し、梁を井桁に組み、登り梁を架けた。壁に仕切られながらも、家全体がひとつ

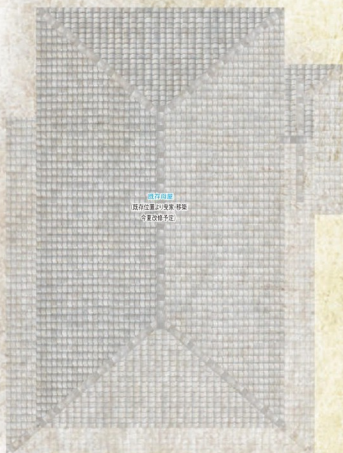
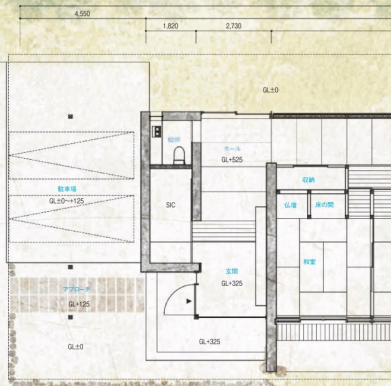
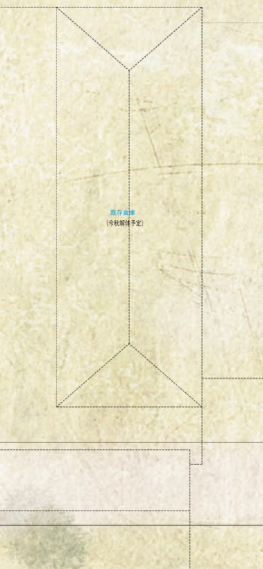
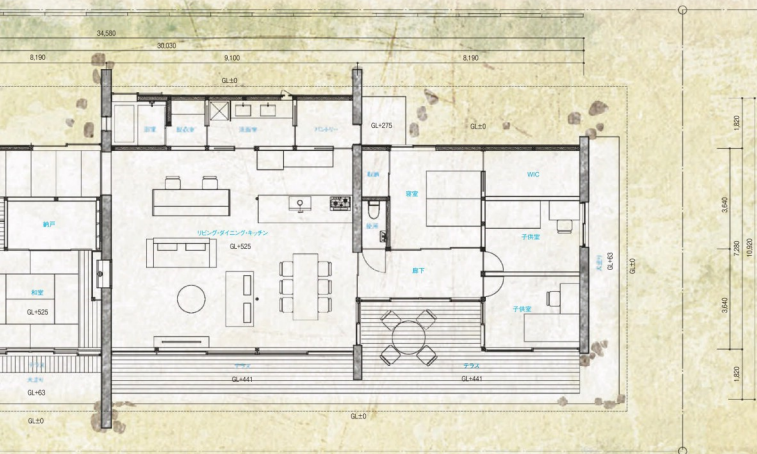
キッチンより縁側方向を見通す。奥に既存倉庫。ベイマツ材による梁を井桁状に組み、その上に登り梁を1,820mmピッチで架けている。軸力は主に鉄筋コンクリート壁柱が負担し、一部鉄骨柱で補強している。リビング・ダイニング・キッチンの床は柾目のスギ材によるフローリング敷き。

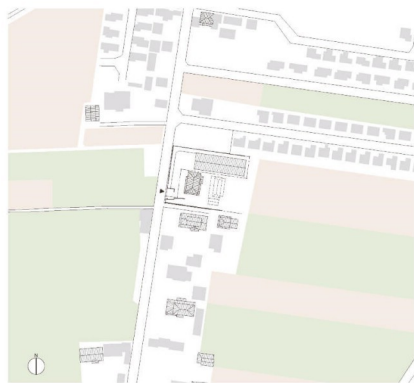
屋根の下、小屋組みが連続する大きな空間を目指した。素材は架構を構成するコンクリートと木、屋根には母屋と同じ瓦を用いた。庭にたくさんあった庭石の記憶を引き継ぐよう壁の足元には自然石を据えている。
時代の流れとともに都市化の進む都市近郊の田園風景の中で、いかに伝統を引き継ぎながら土地に根差した新しい住まいをつくることができるか、この住宅のテーマはそこにある。
（井上洋介）

One-srory House

# のびやかな平屋を繋ぐ架構と緩く仕切る壁柱

上：南より見る。左手に曳家した既存母屋、右手に解体予定の既存倉庫を見る。
下：大きく軒を張り出したアプローチ。車の雨除けも兼ねる。

配置平面図　縮尺1：150

上：西より見る。母屋に対して軒を低く抑えつつ大きく張り出している。奥に梨園を見る。
下：南より見るリビング。南北に配された壁柱が貫通する。壁柱の位置や長さを変えることで、2世帯を緩やかに仕切る。

左：スギ小幅板型枠による鉄筋コンクリート壁柱。打設時のノロを敢えて出しテクスチャーを与えることで、光の当たり方によって異なる表情を持つ。中上：ダイニングより見る。壁柱の上は抜けていて、小屋組が連続する。奥の壁柱には暖炉が設えられている。中下：玄関より見る壁柱。右：リビングより廊下を見る。玄関ホールから畳敷きで、幅1間のゆったりとした空間。

配置図　縮尺1：3,000

西側俯瞰。手前中央に敷地。奥に梨園が続く。梨園や畑が多く残る一方、周囲では農地から宅地への転用も進んでいる。

**船橋 梨園の家**

所在地／千葉県船橋市
主要用途／専用住宅
家族構成／親夫婦＋夫婦＋子供2人

**設計**

井上洋介建築研究所
担当／井上洋介　渡邊裕香
岡崎幹史(元所員)
構造　田中哲也建築構造計画
担当／田中哲也

**施工**

みくに建築　担当／中村真也　加藤大介
大工　加藤大介
プレカット　中村材木店　担当／吉村ゆたか
ひらい　担当／多田弘樹　鈴木啓介
基礎・型枠　山口土建興業　担当／山口守
山口晋平
鉄筋　義川金属　担当／義川明仁
屋根　ハヤカワ　担当／折笠辰雄
板金　朝倉板金所　担当／朝倉謙二
左官　江沢左官工業　担当／江沢明夫
内装　トムラ内装　担当／戸村隆夫
塗装　戸村建装　担当／戸村治夫
建具　丸庄　担当／米良庄三
石　各務石材工業　担当／各務良彦
N-tree　担当／長崎剛志
家具　クニナカ　担当／國中昇平　國中弥生
畳　宇田畳店　担当／宇田進一
電気設備　昭和コンジット　担当／浜崎雅史
給排水設備　山路　担当／吹野武夫
外構　UGF　担当／樋口誠一
カーテン　コルティナ　担当／宮下志保

**構造・構法**

主体構造・構法　鉄筋コンクリート造＋木造
基礎　べた基礎

**規模**

階数　地上1階
軒高 3,830mm　最高高さ 4,170mm
敷地面積　1,064.41m$^2$
建築面積　343.11m$^2$
（建蔽率32.23％　許容50％）
延床面積　262.43m$^2$
（容積率24.65％　許容100％）

**工程**

設計期間　2016年11月～2017年12月
工事期間　2018年1月～11月

**敷地条件**

市街化調整区域、法22条区域
道路幅員　西7.3m　駐車台数　2台

**外部仕上げ**

屋根／桟瓦葺き
外壁／コンクリート打放し仕上げ スギ小幅板型枠 w=150mm 撥水剤塗布　自然石腰積み　筑波石　リシン吹付け
軒天／ベイツガ羽目板、木梁現し
開口部／木製サッシ、アルミサッシ
外構／駐車場　アプローチ　犬走り コンクリート洗い出し　アプローチ一部　御影石敷石
その他／テラスデッキ　スギ板 t=30mm w=120mm

**内部仕上げ**

**ホール　和室**

床／本畳　スギフローリング t=30mm（ニッシンイクス）
壁／コンクリート打放し仕上げ　スギ小幅板型枠　じゅらく
天井／ベイツガ羽目板　木梁現し

**リビング　ダイニング　キッチン**

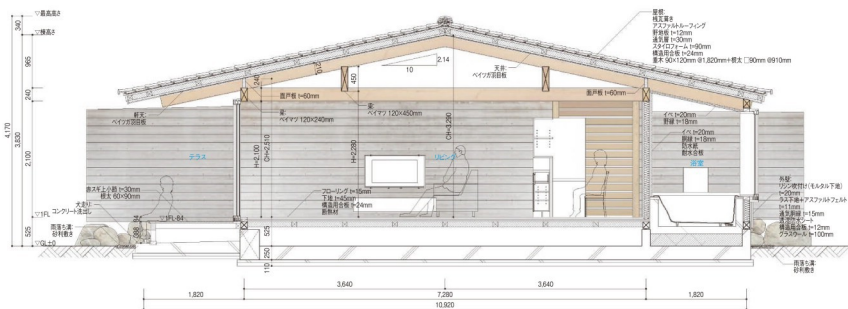
床／因幡スギフローリング t=15mm（木塊）
壁／コンクリート打放し仕上げ スギ小幅板型枠　じゅらく
天井／ベイツガ羽目板　木梁現し
家具／ベイマツ柾目突板　クリアオイル仕上げ
その他／薪ストーブ（ディーエルディー）
厨房機器
食洗器／ ASKO
ガスコンロ／ノーリツ
換気扇／アリアフィーナ
シンク水栓金物／グローエ
家具／ベイマツ柾目突板　クリアオイル仕上げ

**寝室**

床／スギフローリング t=30mm（ニッシンイクス）
壁／コンクリート打放し仕上げ スギ小幅板型

テラスより見る。リビング・ダイニング・キッチンと、子供室の間はテラスの奥行きを深くし緩衝帯としている。

枠　珪藻土クロス貼り
天井／ベイツガ羽目板　木梁現し
**浴室**
床／600mm角タイル（アベルコ）
壁／コンクリート打放し仕上げ スギ小幅板型枠　撥水剤塗布　イペ t=20mm OS
600mm角タイル（アベルコ）
天井／イペ t=20mm OS
バスタブ／大和重工
シャワー水栓金物／ハンズグローエ
**洗面所**
床／スギフローリング t=30mm（ニッシンイクス）
壁／珪藻土クロス貼り
天井／シナ合板目透かし貼り
家具／ベイマツ柾目突板
洗面カウンター／人造石研ぎ出し
洗面用水栓金物／セラトレーディング
**便所**
床／スギフローリング t=30mm（ニッシンイクス）
壁／コンクリート打放し仕上げ スギ小幅板型枠　スギフローリング
天井／ベイツガ羽目板　木梁現し
家具／ベイマツ柾目突板
便器／TOTO
手洗いカウンター／スギフローリング t=30mm
洗面用水栓金物／グローエ
**設備システム**
空調　暖房方式／エアコン
冷房方式／エアコン
換気方式／第一種換気（熱交換型）
その他／薪ストーブ（ディーエルディー）
給排水　給水方式／井戸水利用
排水方式／浄化槽処理
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

断面詳細図　縮尺1：75

# 日光の家

House in Nikko
栃木県日光市

**TAKiBI　栃内秋彦＋佐藤季代**
TAKiBI
／Akihiko Tochinai＋Kiyo Sato

中庭から家族室越しに子供室まで見通す。奥に向かって傾斜しつつ迫り上がる屋根形状は日射角度や卓越風の向き、周辺建物のヴォリュームから決定。南から取り込んだ風は北面頂部のハイサイドライト（屋根窓）から抜ける。

2階子供室から集会室越しに街並みを見渡す。左手の光庭、中庭と内外が入り組んで連続する。
屋根梁は38mm厚×184〜238mm高のツーバイ材を455mmピッチで架けている。

中庭より集会室越しに前面道路を通り過ぎる祭の山車を見る。前面道路から約10m引きをとって配置しているため、屋外も集会・談話スペースとして利用可能。

家族室から集会室を見る。集会室は近隣の人びとに開かれ、街と居住部分を繋ぐバッファーにもなる。

植栽エリア
(前面拡幅道路・地中埋設インフラ引込み工事完了後)

離れ・東屋
増築検討エリア

駐車場
床:コンクリート
金ごて仕上げ t=30mm
目地切 @2,730mm
1FL-400

集会スペース

客間
床:縁なし畳 t=15mm

床吹出口ファン付

押入

シューズクローク
床:
ラワン合板
t=15mm UC

床:
フローリング
t=15mm塗装品
トイレ1

浴室

廊下
床:フローリング t=15mm塗装品

玉砂利 t=100mm

ポーチ
モルタル
金ごて仕上げ t=30mm
1FL-250

玄関
1FL+0
床:
フローリング t=15mm塗装品

下駄箱

玄関土間
1FL-150
床:
モルタル金ごて仕上げ t=30mm

集会室
1FL+0
床:縁なし畳 t=15mm

掘りコタツ
可動テーブル
天板:タモ集成材 t=30mm
自然塗料/縁なし畳

障子

中庭

床:
モルタル
金ごて仕上げ t=30mm

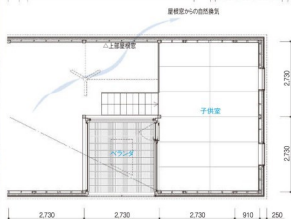
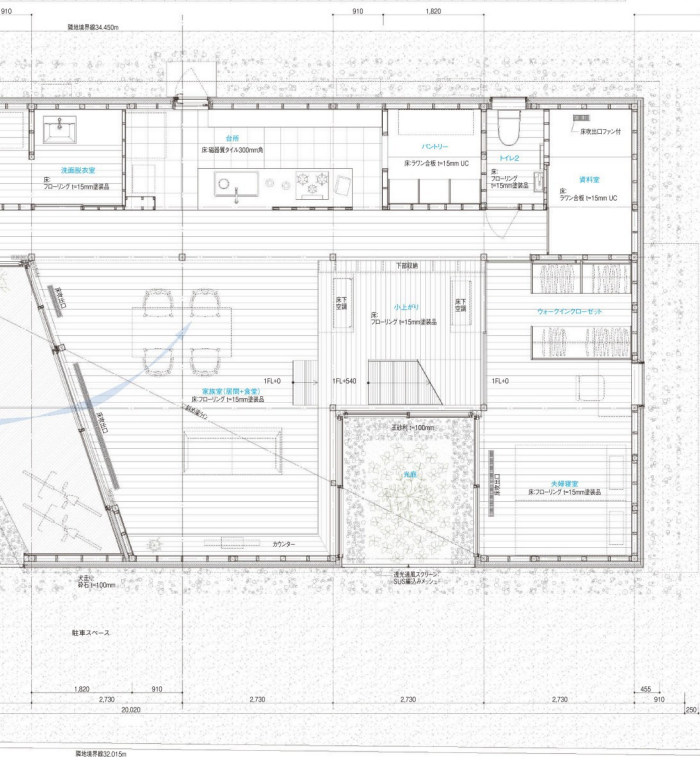
テラス

透光通風スクリーン:
SUS編込みメッシュ

南南東から吹く卓越風

One-story House
# 光と風を取り込み街を引き込む細長いプラン

集会室から家族室を見通す。

光庭上部のベランダから内部を見渡す。自然通風と採光の確保に寄与している。

2階平面図　縮尺1：150

配置平面図　縮尺1：75

**人・環境・都市を繋げる住まい**

旧宿場町の街道沿いに建つ5人家族のための住宅である。前面道路の幅員拡幅工事計画を考慮した4台分の駐車スペースが求められた。そのため奥行きの深い敷地形状を活かし、大きくセットバックした配置とし、斜めの大屋根と低層の水平屋根の下に諸室とふたつの中庭が交互に連なるようにプランニングした。2.73m角グリッドに建てた柱割りを基本として、太陽の光と風の流れを効率よく室内に取り込むために、敷地の方位や日射角度、卓越風の向き、周辺建物のヴォリュームの分析をもとに平面や大屋根の一部に斜めの形態操作を加えた。この結果、家族の集まる斜めの吹抜けと、階高を最小限に抑えた低層部のサービススペースで構成されるメリハリのある一室空間が生まれた。

屋根・外壁・基礎は共に躯体の外側に発泡断熱パネルを張った完全な外断熱構法とした。空調方式は家族室小上がりの床下に組み込んだ2台の空調機と、居室根太間に敷設した水蓄熱式床暖房を組み合わせた省エネルギーでローコストな冷暖房システムを採用した。パッシブな環境制御の手法とアクティブな手法を統合することで、夏暑く冬は冷え込みの厳しい日光地域においても高性能かつ開放的な住まいを実現した。

玄関土間に隣接する離れのような集会室は、地域の寄り合いのために開放されており、住まいの一部にパブリックな機能を担わせることで、暮らしが都市に開かれることを目指している。このようなアクティビティをサポートするために住空間

家族室。左手の小上がりの下に床下空調を2台設置し、家族室と台所から寝室にかけてはアクアレイヤーを敷設。空調とアクアレイヤーを組み合わせた省エネでローコストな冷暖房システムとしている。温冷風はガラリから吹き出すほか、床下を通ってファン付きの床吹出口から離れた居室へ届く。屋根、外壁、基礎の外側に発砲断熱パネルを張った外断熱構法とし、小屋裏の排気口へ連続する通気層を設けることで夏季の輻射熱を制御している。

全体が地続きに繋がることを意識した結果、平屋的かつリニアで抜けのある建ち方となった。また、建物と前面道路の間の余白は、パブリックな機能の拡張性と駐車場のあり方に関する建主との意見交換の中で生まれた。これを住み手や都市のニーズに応じて編集可能な領域と位置づけ、外構計画や多目的な離れ・東屋の増築を検討中である。この建物の誕生をきっかけにコミュニティにポジティブな影響が生まれていくことを期待したい。　　　（栃内秋彦＋佐藤季代）

南西側外観。前面道路側の4台分の駐車スペースは、将来的には集会室の機能が拡張したり、住居の離れの増築などが検討されている。

## 日光の家

所在地／栃木県日光市
主要用途／専用住宅
家族構成／大人2人＋子供3人

**設計**

TAKiBI　担当／栃内秋彦　佐藤季代

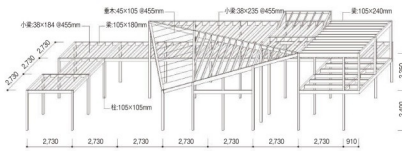
**施工**

カクニシビルダー　担当／西村陽一　林晴矢
木工事　善林建築　担当／善林新司
プレカット　オノツカ　担当／小野塚真規
基礎　栃創建設　担当／栃木忠行
屋根・板金　美名海　担当／深津元洋
外壁　渡辺工業　担当／鈴木健太郎
設備　富屋設備　担当／枝孝
電気　津吹電気　担当／金子恵司郎
床暖房　イゼナ　担当／椎名洋行
木製建具　アイエム　担当／石塚和之
塗装工事　坂本塗装　担当／佐藤公彦
外構・造園　ジャービス商事
担当／山田昌希

上：中庭。南東側は外壁の延長上に透光通風スクリーンを立てている。
下：南から見る。近隣には多様な高さや機能をもつ建物が建ち並ぶ。

断面詳細図　縮尺1：75

**斜めの屋根形態で光と風を取り込む**

構造は集成材軸組工法である。諸室の面積と構造の合理性を検討した結果、柱梁は基本的に2.73m角モジュールで組み上げ、屋根梁はツーバイ材を455mmピッチで均一に架け渡すことで、経済的かつ軽快な現しの架構を実現した。斜めの形態は太陽光や風の流れをもとに決定し、気積を減らすことによる熱負荷の削減効果も意図している。（栃内＋佐藤）

配置図　縮尺1：1,500

構造アクソノメトリック　縮尺1：250

撮影：TAKIBI

建て方の様子。

植栽　田中緑生園　担当／田中利昌

**構造・構法**

主体構造・構法　木造軸組工法

基礎　べた基礎

**規模**

階数　地上2階

軒高　5,150mm　最高高さ　6,287mm

敷地面積　430.49m²

建築面積　139.12m²

（建蔽率32.32％　許容80％）

延床面積　152.22m²

（容積率35.36％　許容400％）

1階　124.22m²　2階　28.00m²

**工程**

設計期間　2016年11月～2017年10月

工事期間　2017年11月～2018年6月

**敷地条件**

地域地区　商業地域　法第22条地域

道路幅員　南西16.8m

駐車台数　4台

**外部仕上げ**

屋根／ガルバリウム鋼板竪はぜ葺き

外壁／ガルバリウム鋼板大波（セキノ興産）

窯業系平形スレート（ケイミュー）

開口部／アルミ樹脂複合サッシ＋Low-eペアガラス（LIXILサーモスX）

外構／砕石　玉砂利仕上げ

**内部仕上げ**

**台所**

床／磁器質タイル t=10mm

壁／モイス t=6mm 素地仕上げ

天井／フレキシブルボード t=6mm 撥水剤

ガスコンロ／ Rinnai RHS31W17G24R-STW

換気扇／ Panasonic FY-60DWD3-S

製作家具／ラワンランバーコア t=21mm 自然塗料

照明／ LEDペンダントライト（flame）

シンク水栓金物／ LIXIL SF-NB451SXULIXIL

構造金物／ストローグ オノツカ（その他共通）

**浴室**

ユニットバス（TOTO）

**トイレ　洗面所**

床／カバフローリング t=15mm

壁／モイス t=6mm 素地仕上げ

天井／ラワン合板 t=12mm 自然塗料

製作家具／ラワンランバーコア t=21mm 自然塗料

便器／ LIXIL YBC-S20S+DV-S615-R2

洗面器／ Tform ADF70-0006-001

棚受ブラケット／ SAT.PRODUCTS Bracket S

照明／ LED直付電球（Panasonic）

**家族室（居間　食堂　小上がり）**

床／カバフローリング t=15mm

壁／フレキシブルボード t=4mm 撥水剤

天井／ラワン合板 t=12mm 自然塗料

製作家具／ラワンランバーコア t=21mm 自然塗料

照明／ LEDペンダントライト（flame）

LEDスポットライト（コイズミ照明）

**主寝室　W.I.C**

床／カバフローリング t=15mm

壁／モイス t=6mm 素地仕上げ

天井／ラワン合板 t=28mm 自然塗料

製作家具／ラワンランバーコア t=21mm 自然塗料

照明／ LEDスポットライト（コイズミ照明）

**集会室　客間**

床／縁無し畳 t=15mm

壁／ PB寒冷紗AEP モイス t=6mm素地仕上げ

天井／ラワン合板 t=12mm 自然塗料

照明／ LEDスポットライト（コイズミ照明）

**子供室**

床／ラワン合板 t=9mm UC

壁／フレキシブルボード t=4mm 撥水剤

天井／ラワン合板 t=12mm 自然塗料

照明／ LEDスポットライト（コイズミ照明）

**設備システム**

空調　冷暖房方式／アクアレイヤーヒーティングシステム　エアアクア方式（床冷暖房＋空調）

換気方式／第三種換気

給排水　給水方式／上水道直結

排水方式／下水道放流

給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

屋根:
ガルバリウム鋼板 t=0.4mm竪はぜ葺き
ポリエチレンフォーム t=4mm
アスファルトルーフィング23kg
野地板:構造用合板 t=12mm
垂木-45×60 @455mm(小屋裏通気),母屋-90×90 @910mm
束-90×90 @910mm, 木下地90×45 @910mm
アルミニウム蒸着防水透湿シート
ブチルテープ+フェノールフォーム t=60mm

シーリングファン:
夏期は床下空調の冷気を上方へ引上げ
冬期は暖気を下方へ押し下げるように
回転することで、2層分の吹抜け
室内空間上下の温度ムラの解消を促す。

屋根窓:
小屋裏空間を利用して風下壁頂部に設ける
ハイサイドライト。周囲に建物が立ち並ぶような
住宅地では地表よりも屋根面における
風の流れが強いことや壁面の開口部から
風が抜けにくいため自然通風促進のための
有効な手法である。

階高を最小限に抑えることで
気積を減らし熱負荷を
削減しているまた周辺の家屋と
比較してボリュームが抑えられている。

断熱パネルの上にはアルミニウムを
蒸着した透湿防水シートを張り小屋裏の
排気口へ連続する通気層を設けること
で夏季の輻射熱を制御している。

軒裏の通気口から小屋裏へ取り入れた
空気と外壁通気層の空気は壁頂部の
換気ベントキャップから排出し夏季の
輻射熱を制御している。

給気口:
アルミパンチングメタル
3Φ @5mm

軒天:
FB t=6mm 素地仕上げ
V目地突付張り
SUS.皿ビス留め

自然換気

小屋裏排気口:
アルミベントキャップ

排気

小屋裏通気層

給気

床:
フローリング t=15mm 塗装品
下地合板 t=12mm
アクアレイヤー t=90mm メタルPL
根太 45×90 @303mm
大引 90×90 @910mm
鋼製束 @910mm

天井:
ラワン
構造用合板 t=12mm
自然塗料

温(冷)風

手摺り:
スチール21mm角 OP

子供室

床:
ラワン合板 t=9mm UC
下地合板 t=12mm
木下地 45×15mm

内壁:
FB t=4mm 撥水剤
PB t=9.5mm

通気

天井:
ラワン構造用合板 t=28mm 自然塗料

外壁:
ガルバリウム鋼板大波 t=0.4mm
胴縁 t=18mm
アルミニウム蒸着防水透湿シート
フェノールフォーム t=60mm
目地ブチルテープ張り
PB t=12.5mm

ダイレクトゲイン

テラス

温(冷)風

床吹出口:
開閉式

家族室

小上がり

ガラリ:
堅木 6×20 @25mm

給気

床下
空調

本棚

蓄熱

輻射熱

ウォークイン
クローゼット

内壁:
モイス 素地仕上げ t=6mm
PB t=9.5mm
構造用合板 t=9mm(耐力壁)

床:
フローリング t=15mm 塗装品

温(冷)風

砕石 t=100mm

水路

基礎:
基礎スラブ t=150mm
ポリスチレンフォーム3種 t=50mm
捨てコン t=50mm
防湿/防蟻シート t=0.2mm
割栗 t=50mm

床下に空調空気を吹き込み、水袋（アクアレイヤー）と基礎コンクリートに蓄熱させる。
空調空気は開口部側の床面や壁の巾木に設けた開閉式吹出口から室内に吹き出し、
再び空調器へと還流させる。暖房と冷房が可能な点と輻射と対流の空調を併用できる点が特徴である。

▽RL3　▽RL2　▽2FL　△RL1　▽1.5FL　▽1FL　▽設計GL

1,000　2,250　73　6,150　1,860　2,400　540　500　4,410　1,200　240　72　120　90　340　150　150　150

2,730　2,730　2,730　2,730　2,730　910

20,020

# 寄棟の舎

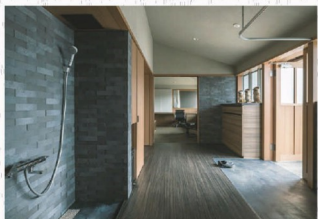
YOSEMUNENOIE

岐阜県岐阜市

服部信康建築設計事務所
Nobuyasu Hattori

将来ドッグランにすることを計画している小高い丘から見る夕景。広大な北垂れの土地に建つ、夫婦と犬4匹のための住宅。既存のクリの木やサクラの木々を残しながらこの風景に溶け込む伸びやかな佇まいになるように寄棟の屋根とした。

ドッグラン用の入り口から光廊下を見る。幅約820mm、長さ約8,800mmのトップライトより玄関ホールや寝室などにも光が届く。中央に設けられた光廊下によって寄棟の建物に求心力をもたせた。

トップライトにはヴォールト状のルーバーを300mmピッチで設置することで板面1枚1枚に光のグラデーションが生まれている。光廊下の天井高は約3,100mm。

玄関ホール。左手には犬用のトイレを設置。

玄関から外を見る。右手には犬用のシャンプーのシンクを設置。

洗面室。テラスに出ると物干し場となっている。

FL-100

600　2,550

ユニットバス

寝室1

寝室2
FL±0

床:3709 silt
腰壁:メラミン化粧板 TJY-2052K オーク
壁・天井:PB t=12.5mm
シルタッチ・フラット平滑仕上げ

キッチン

脱衣所
FL±0

床下点検口

光廊下
トップライト

床下点検口

50　犬用トイレ

玄関ホール
FL±0

腰壁:メラミン化粧板 TJY-2052K オーク
壁・天井:PB t=12.5mm
シルタッチ・フラット平滑仕上げ

洗面室

クローク

トイレ

15

シンク

40

FL-55

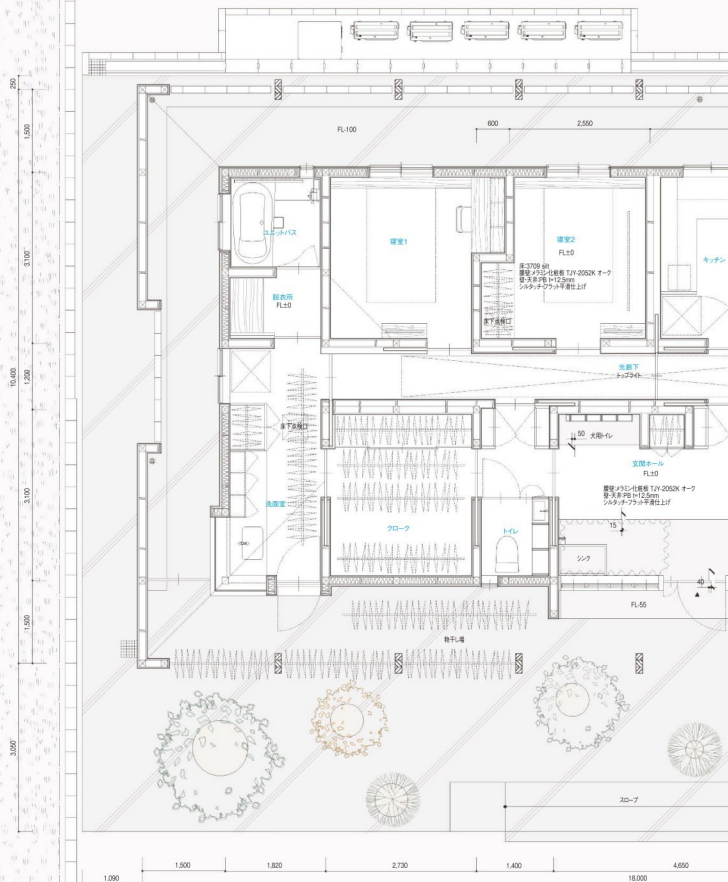
物干し場

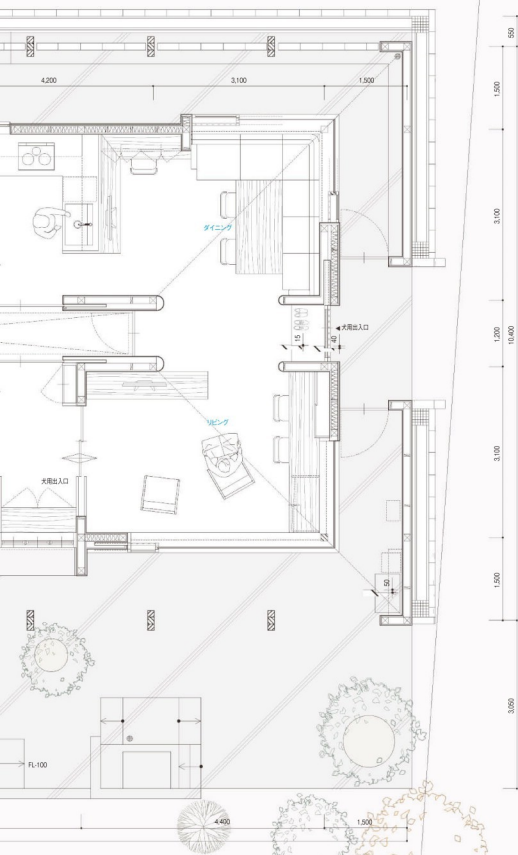
スロープ

250　1,500　3,100　1,200　3,100　1,500　3,050

10,400

1,500　1,820　2,730　1,400　4,650

1,090　18,000

配置平面図　縮尺1：75

One-story House
# 光廊下と回廊をもつ寄棟の家

**光のグラデーションが繋ぐ暮らし**

建主は電気設備の会社を経営する夫妻で、愛犬4匹と快適に暮らせる平屋の住宅を希望していた。同じ敷地内には会社の事務所兼倉庫を建設予定で、それぞれの配置計画と、住宅の設計をすることとなった。敷地は、調整区域内にある広大な北垂れの土地。西側の接道付近には事務所兼倉庫を配置し、北東奥の少し小高い位置に住居、そして住居東側の斜面の部分にはドッグランを計画した。

平面計画は、東西に長い長方形とし、事務所からの視線が気にならないよう広めの基壇と深い軒の出を設けた。さらにその軒を建物の周囲にぐるっと回し、回廊型の軒下空間を用意した。幅は芯々で1,500mm、ここでは室内で飼われている4匹が天候に因らず自由に走り回ることができる。また、屋内外を行き来する犬たちの中継となる玄関部分にも気を配った。内装は水や汚れに強い長尺シート、タイル、メラミンでまとめ、シャンプー台や犬用トイレの設置、広々とした軒下と基壇も機能性に一役を担っている。

しかし、平面に厚みがあり軒の出も深い分、必然的に室内の光は減って、大屋根の民家のように薄暗い空間となってしまう。そこで寄棟屋根の棟部分に幅約820mmのライン状トップライトを設けることで断面的に解決した。トップライトから入ってくる直射光は、ヴォールト状のルーバー天井（t=30mm @300mm）に当たって拡散し、板面1枚1枚に光のグラデーションが生まれる。主動線としてそれぞれの部屋を繋ぐこの光廊下には、柔らかく変化に富んだ光が充満し、明かり取りと共にこの住まいに奥行きを与えている。

回廊をもつ寄棟の住まいで犬たちと夫妻が光廊下を介して繋がり、今後ドッグランや外構を整備していくことで、生活がさらにゆったりと、広大な大地へ広がっていくことを期待している。

（服部信康）

配置図　縮尺1：2,500

ダイニングからリビングを見る。テラスの緑が窓の向こうに見える。

つくり付けのL字型ベンチを壁に取り付けたダイニングルーム。

1,200
ガラス押さえ:
SUS FB 3×60mm
Low-Eペアガラス 飛散防止フィルム貼り
ガルバリウム鋼板曲げ加工
結露受け:
SUS t=0.5mm 曲げ加工
SUS 40×60mm t=1.5mmの上OP
着脱用パート
固定用パート
フランス落とし
強力マグネット
250r
130°
タルキックビス止めの上
埋木 OP仕上げ
520
強力マグネット
タルキックビス止めの上
埋木 OP仕上げ
824

トップライトルーバー断面詳細図

タルキックビス止めの上
埋木 OP仕上げ
強力マグネット
ガイド:
15×15mm
ルーバー断面図
ルーバー本体:
シナフラッシュ OP仕上げ
ガイド:
15×15mm

トップライトルーバー平面詳細図　縮尺1：25

▽最高高さ GL+4,550
▽軒高 GL+3,150
▽土台天端
▽1F±0
▽基礎天端 GL±376
▽GL±0
▽基礎底盤

横樋:
溝形鋼 200×90×8×13.5mm
錆止めの上グラファイト塗装
樋底:
樹脂モルタル 塗布防水
スギ1等材 t=12mm
本実加工 キシラデコール塗布
構造用合板:
t=24mm 実付 キシラデコール塗布
垂木現し:
45×120 @455mm キシラデコール塗布

屋根:
耐摩カラーGL(遮熱タイプ) t=0.35mm 横葺き
ゴムアスファルトルーフィング22kg以上
シージングボード t=12mm
構造用合板 t=24mm 実付
垂木 45×120mm @455mm
断熱材 ネオマフォーム t=95mm
構造用合板 t=24mmm 実付

天井:
PB t=9.5mm 下地
シルタッチ・フラット 平滑仕上げ(フジワラ化学)

リビング
光廊下
ダイニング

床:
3709 silt(フォルボ・フロアリング) 捨て貼り t=12mm
床暖パネル t=12mm
構造用合板 t=12mm
根太 45×45mm @303mm
断熱材 ネオマフォーム t=45mm ※受け金物取付
大引 90×90mm @910mm

基礎:
防湿フィルム t=0.15mm(2枚敷き)
捨てコンクリート
砕石 t=100mm プレート転圧

蓋:
U字溝180mm用蓋
U字溝:
180mm

1,500　180　3,100　1,200　3,100　180　1,500

断面詳細図　縮尺1：60

南西側外観。120mm角の柱3本を抱き合わせた列柱は開放感のある軒下に日陰の居場所をつくり出す。*

**寄棟の舎**

所在地／岐阜県岐阜市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋犬4匹

**設計**
服部信康建築設計事務所
担当／服部信康　増田憲司（元所員）
構造　ワークショップ　担当／安江一平

**施工**
相宮工務店　担当／前田公男
設備　トータルプラン工業　担当／安江英人
電気　ワールド電化　担当／廣田康純
大工　羽田野建築　担当／羽田野福夫
板金　クラフトコーポレーション
担当／滝沢直哉
左官　吉田業務店　担当／尾関直樹
内装　壮美社　担当／土井章
家具木製建具　近藤工業　担当／内田剛志

**構造・構法**
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

**規模**
階数　地上1階
軒高 2,630mm　最高高さ 4,010mm
敷地面積　994.75$m^2$
建築面積　183.60$m^2$（既設77.00$m^2$）
（建蔽率26.20%　許容60%）
延床面積　111.96$m^2$（既設104.22$m^2$）
（容積率21.73%　許容200%）

**工程**
設計期間　2015年2月～2016年12月
工事期間　2016年12月～2017年11月

**敷地条件**
地域地区　第一種中高層住居専用地域
法第22条区域
道路幅員　西4.560m　駐車台数　7台

**外部仕上げ**
屋根／耐摩カラー GL（遮熱タイプ）t=0.35mm
外壁／正面と外周部：モエンパネル大壁工法
他面：ジョリパットネオJQ-650シリーズ
エンシェントブリック仕上げ
開口部／ LIXIL アルミサッシ デュオPG（ペアガラス空気層12mm）
外構／コンクリート金ごて押さえ　撥水材塗布

**内部仕上げ**

**キッチン　リビング　ダイニング　洗面室**
床／フォルボ・フロアリング 3709 silt
壁・天井／フジワラ化学 シルタッチ・フラット平滑仕上げ
腰壁／アイカ メラミン化粧板 TJY-2052K オーク
厨房機器／ IH建主支給
食洗器／ Miele G4800 SCi
換気扇（シェード）／パナソニック FY-90DE2-S
家具／制作
照明／ DAIKO DSY-4394YW　Flame shiffon S
シンク水栓金物／ LIXIL JF-AB466SYX
洗面室水栓／三栄 K3753IJV-13
洗面カウンター／ ABC商会 Square

**トイレ**
床／フォルボ・フロアリング 3709 silt
壁／ LIXIL エコカラットプラス ECP-250/HRT
腰壁／アイカ メラミン化粧板 TJY-2052K オーク
フジワラ化学 シルタッチ・フラット 平滑仕上げ
天井／フジワラ化学 シルタッチ・フラット 平滑仕上げ
照明／ TAiGALamp B4W
便器／ LIXIL サティスS5
洗面カウンター／制作
洗面用水栓金物／ CERA VLRBICDR-40

**設備システム**
空調　冷暖房方式／個室：ルームエアコン
その他：床暖房＋天井埋込型エアコン
給排水　給水方式／上水道
排水方式／下水道
給湯　給湯方式／エコキュート

撮影／新建築社写真部
*撮影／山内紀人

列柱によりつくられる外の回廊。軒の出は1,500mm、軒の高さは2,150mm。

# 大津の住宅

House in Otsu
滋賀県大津市

STUDIO YUKO MAKI

**風景に寄り添う家**

京都駅からJR湖西線で30分ほど北上すると街並みが田園風景へと一変する。高架橋を境に、西側は山を切り拓き開発された新興住宅地が広がる一方、東側には田畑と古くからの農家が琵琶湖沿いに連なる。
建主は若い夫婦と子供ひとりで、兼業農家を営む実家が所有する畑の一角が敷地である。琵琶湖にほど近く、北西に連綿と広がる田園風景を近景に、比良山地を遠景として望むことができる。
建主からは必要諸室に加え、リビングが明るく

開放的であることとヘリンボーンの床以外特段要望はなく、新しい生活では近所にある実家との行き来が頻繁になること、友人を招く機会が増えることが対話から想定された。
彼らと敷地に立ち、周辺を歩きながら自然環境をより身近に感じられる平屋がよいという所感を共有した。そして、内側と外側からの視点を行き来する中で、外部と内部が地続きとなるような細長いボリュームが立ち上がった。田園風景を身近に楽しむことができるよう建物は北側に寄せ、境界に小さな庭を配置した。南側の大きな庭は芝生を敷き、果樹やハーブ、アレンジメントが楽しめる草木を中心に植えることで生活空間の延長のような外部空間とし、北側とは異なる景色をつくった。
室内のどこからでも気軽に外部にアクセスができるようフロアレベルを抑え、等間隔に掃き出し窓を連続させた。平面計画は掃き出し窓の位置を拠り所に構成している。南北に人と風、風景が行き来する。
屋根を支える登り梁は内部空間にリズムを与えるため現しとし、金物が見えないホームコネクター工法によって接合させている。外壁は周辺環境との調和を考え、自然素材で経年変化により色味が落ち着いていくレッドシダーの下見板張りとした。
室内に明かりが灯る時、開口から漏れる光がぬくもりある風景をつくり出す。（牧祐子）

南側外観。南北面の外壁はレッドシダーの下見板張りに2,730mm間隔で既成アルミサッシの掃き出し窓を設置。それぞれの部屋に開口を設けられるように窓のピッチに合わせて平面を計画。室内と犬走りのレベル差を130mmに抑え、主寝室や子供部屋からも外に出入りできるようにしている。軒深さは850mm。

One-story House
# すべての部屋と外部を繋ぐ掃き出し窓

配置平面図　縮尺1：80

断面詳細図　縮尺1：80

GL+56

1,820 910 1,820 910 1,820 910 1,820 910

2,268

廊下2
1FL±0(GL+160)
床:長尺シート

冷蔵庫

トイレ
1FL±0
(GL+160)
床:長尺シート

洗濯機

洗面室
1FL±0(GL+160)
床:長尺シート

ダイニングキッチン
1FL±0(GL+160)

主寝室
1FL±0(GL+160)
床:ロシアンバーチ合板ウレタン塗装

浴室
1FL-30~-50
(GL+110~130)
床:サーモタイル

パントリー
1FL±0(GL+160)
床:長尺シート

910 910 910 910 910 4,550

物干し場

ユズ

マルバ

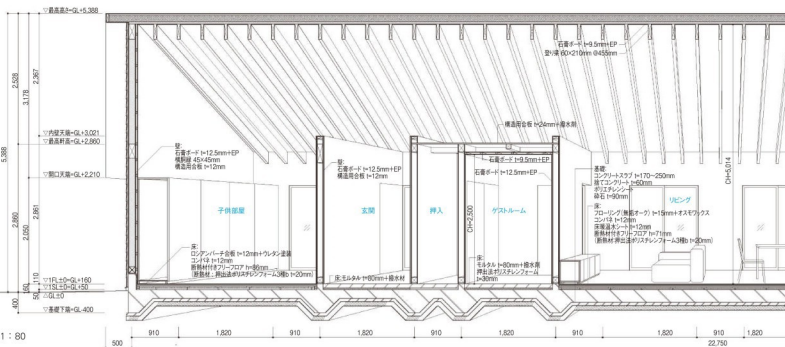
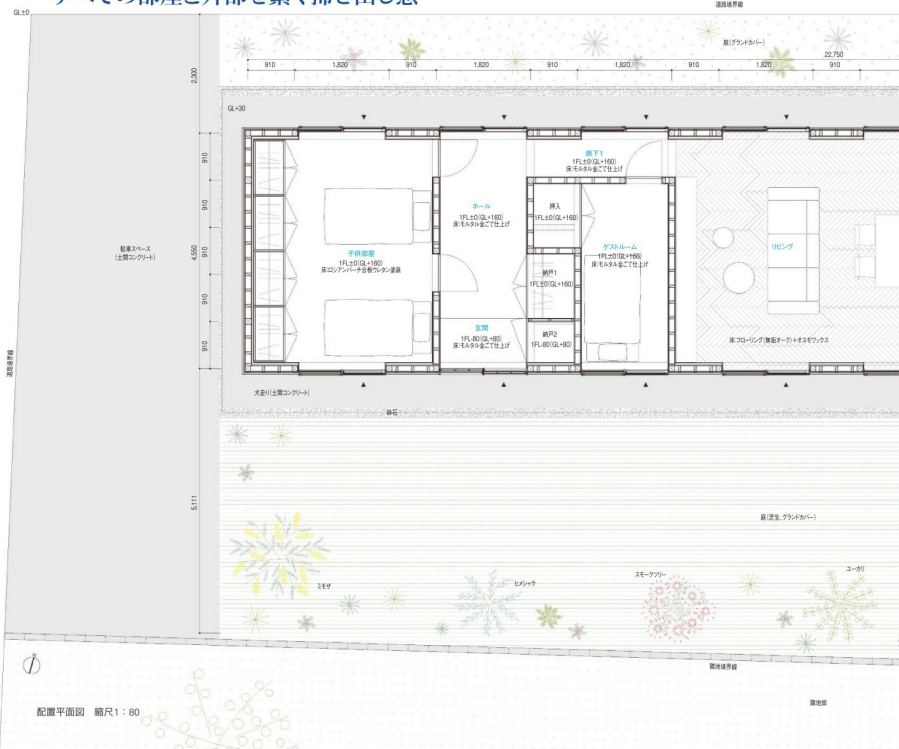
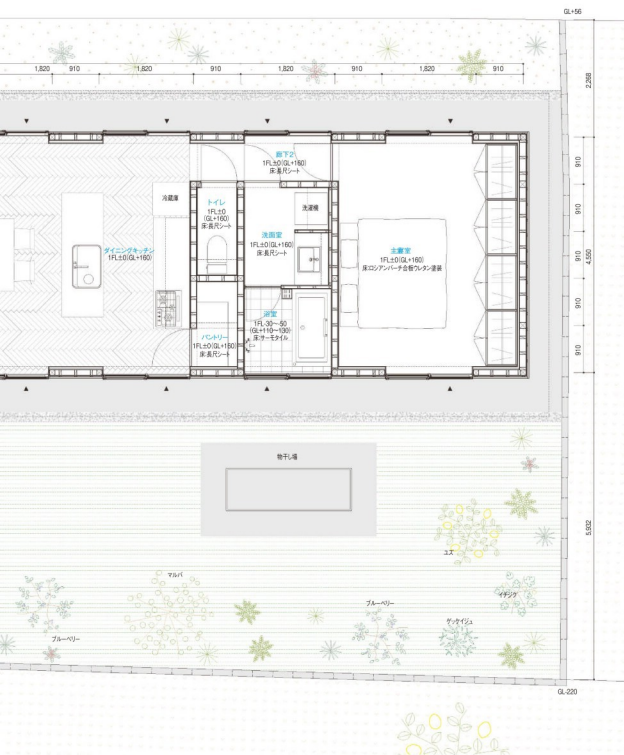
ブルーベリー

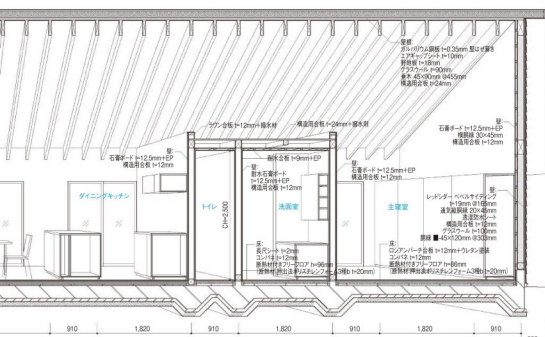
イチジク

ブルーベリー

ゲッケイジュ

5,932

GL-220

リビングから北側を見る。北側外壁は延焼の可能性範囲を考慮してセットバックさせて間を小さな庭とし、サキゴケやディコンドラなど数種類のグランドカバーを植えている。

浴室は日当たりのよい南側に配置。浴室北側の洗面室から浴室を介して物干し場へ出ることができる。

玄関。玄関に続く北側の開口の先に田んぼを望む。

リビングからダイニングキッチンを見る。長手方向に60×210mmのスギの登り梁が455mmピッチで並ぶ。施工には接合金物が見えず、耐震性の高いホームコネクター工法を採用。東西には個室が並ぶが、内壁の高さは2,860mmに抑えられ、上部は視線が抜ける。

配置図　縮尺1：3,000

リビング、ダイニングキッチンから庭を見る。床の仕上げは部屋ごとに変化をつけている。

廊下1から廊下2を見る。交互に連続する壁と開口が室内に陰影をつくり出す。

**大津の住宅**
所在地／滋賀県大津市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供

**設計**
STUDIO YUKO MAKI　担当／牧祐子
設計協力／時森康一郎建築設計事務所
　担当／時森康一郎
構造　三原悠子構造設計事務所
　担当／三原悠子
設備　システムデザイン研究所
　担当／佐野明子

**施工**
ダイコーホーム　担当／伊勢村裕一
家具／工藤工務店
外構・造園／建主施工

**構造・構法**
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

**規模**
階数　地上1階
軒高 2,830mm　最高高さ 5,358mm
敷地面積　424.54m²
建築面積　103.51m²
　（建蔽率24.38％　許容60％）
延床面積　103.51m²
　（容積率24.38％　許容100％）
1階　103.51m²

**工程**
設計期間　2015年6月～2016年6月
工事期間　2016年7月～2017年3月

**敷地条件**
地域地区　都市計画区域外　市街化調整区域
道路幅員　西4m　北側法外道路
駐車台数　1台

**外部仕上げ**
屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.35mm 縦はぜ葺き
外壁／レッドシダー 下見板張り
開口部／アルミサッシ
外構／コンクリート舗装

**内部仕上げ**
**リビング　ダイニングキッチン**
床／ナラヘリンボーン t=15mm（名建工業）
　オスモワックスクリアツヤなし
壁／石膏ボード t=12.5mm EP
天井／石膏ボード t=9.5mm EP
◎厨房機器／
食洗器／パナソニック NP-45MC6T
ガスコンロ／ハーマン C3WF2KJTKST
換気扇（シェード）／パナソニック FY-38B7M/19
キッチンカウンター・収納棚・TVボード／制作
　（メラミン化粧板）
照明／パナソニック　flame
建築金物／
　シンク水栓金物／ LIXIL SF-E546S

**浴室**
床／ LIXIL サーモタイル200mm角
壁・天井／ FRP防水 t=2mm
照明／パナソニック
バスタブ／ TOTO　CERA CEY21580RV7
シャワー水栓金物／ LIXIL BF-J147TSC
空調機器／ノーリツ BDV-4105WKNS

**トイレ　洗面室**
床／長尺シート t=2mm
壁／石膏ボード t=12.5mm EP
天井／石膏ボード t=9.5mm EP
照明／パナソニック
便器／ LIXIL GBC-ZA10S＋DT-ZA184
洗面カウンター／制作（メラミン化粧板）
洗面器・洗面用水栓金物／ LIXIL GL-A555YA
空調機器／パナソニック FY-17C7

**子供部屋　主寝室　ゲストルーム**
床／子供部屋・主寝室：ロシアンバーチ合板（テツヤジャパン）　ウレタン塗装　ゲストルーム：モルタル金ごて仕上げ　撥水剤
壁／石膏ボード t=12.5mm EP
天井／石膏ボード t=9.5mm EP
子供部屋・主寝室クローゼット／制作（シナ合板）
照明／パナソニック

**設備システム**
空調　冷暖房方式／空冷ヒートポンプエアコン
　換気方式／第三種換気
　その他／ヒートポンプ式温水床暖房
給排水　給水方式／水道直結方式
　排水方式／汚水雑排水分流方式
給湯　給湯方式／ガス給湯機

撮影／山内紀人

提供：STUDIO YUKO MAKI

ホームコネクター工法による施工。

北側全景。高さ5,388mmの切妻屋根とし、スケールと素材を東側に建つ切妻屋根の住宅群に馴染ませている。

# 防府の家

Hohu House
山口県防府市

**甲村健一／KEN一級建築士事務所**
Kohmura KENichi ／ KEN-Architects

南側立面。北に防府天満宮を望む南北に長い敷地に建つ住宅。祭事には南側の門を開け放ち、神輿と地域住民を招くための玄関となる。南側の塀は地面より600mm浮いていて、庭の緑が塀の下から街まで広がっている。

和室から縁側を通して南の庭を見る。前面道路からの視線や車のライトを遮りつつ、庭が街に続いていくような印象をもたせるための塀の高さが検討された。

南側の庭から見る。庭に対しては2,400mmの軒を出し、幅600mmの縁側をつくっている。

**平屋で解く街へのあり様**

計画敷地は防府駅と街の象徴である天満宮の中間付近に位置し、駅から徒歩10分程度の街中とは思えないほど広い敷地面積を有していた。はじめに取り掛かったのは南北に長い敷地に対し、建屋をどこに据えるかの検討だった。南側は生活道路があり頻繁に車と人が通行している一方で、北側は落ち着いた住宅街越しに天満宮と山並みが一望できる環境にあった。そこで建屋を敷地中央に配置し、南北に趣の異なる庭を設えることで街への多様な接し方を試みた。

動的な南側の街に対しては内部と街の双方に開放性を与えるために庭の木々に色彩を合わせた浮遊感ある塀を設えた。内部からは隣家の開口部や視線、車のヘッドライトを感じずに、道路やその奥の空への広がりを与え、街には塀からあふれ出すほどの緑を提供する。

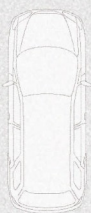
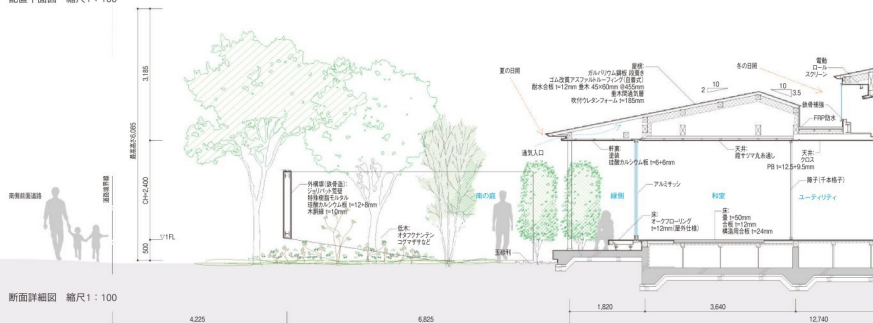
静的な北側の街に対しては遠景の天満宮をより身近に感じるために、近景と中景のつくり込みに注力した。広く平坦な庭の場合、距離感を失いがちだが、リビングのスケールと呼応する広さのテラスを設け、近景と遠景を同時に視界に入れることで距離感を整えた。さらに中景の庭に起伏を設けることで山並みの緑との連続性を図った。

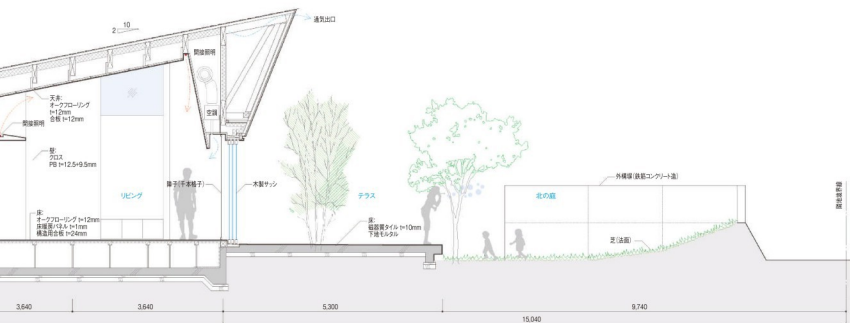
この南北の庭を常に堪能できる内部空間とするために地面とひと続きとなる平屋を選択し、大きな屋根で空間を大らかに包括した。2間の間口で統一した南側の居室は、軒を深く出すことで日射しをコントロールし、庭木の木漏れ日が空間を彩っている。

リビングでは南側の光を受けた天満宮を大きな開口部と天井によってフレーミングし、南側と西側のハイサイドライトから時間や季節に応じて光量を調整しつつ補うことで終日明るさを保っている。

大きな屋根と天井は南側の街並みから北側の天満宮までを繋ぎ、地元をこよなく愛する建主のために、街のシンボルを感じながら住まう場にすることを目指した。　(甲村健一)

東側立面。北側に向けて上がる勾配屋根はその下に大きな気積のリビングをつくる。

南側の塀と前面道路。周囲は駅から近い住宅地。塀は敷地境界線から約4mセットバックしている。

配置平面図　縮尺1：100

断面詳細図　縮尺1：100

One-story House
# 南北の庭を介して街と繋がる

北側に設けられたリビング。南側のハイサイドライトから光を取り入れる。リビングの最高天井高は4,340mm。

リビングから南の和室とサブリビングを見る。引き戸を開けると南北の居室、庭が連続する。

左：南側の縁側。　右：浴室。

**防府の家**

所在地／山口県防府市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供2人

**設計**

KEN一級建築士事務所
　担当／甲村健一　茂木哲
構造　KKSエンジニア　担当／坂本憲太郎

**施工**

銘建　担当／新宅勝三　佐藤圭輔　古谷栄基
大工　有冨工務店　担当／有冨信宏
プレカット　ポラテック富士　担当／吉村忠治
基礎　西友コーポレーション　担当／西田元紀
鉄筋　木下組　担当／木下直大
左官　立水左官工業　担当／立水敏幸
屋根　三晃金属　担当／保田浩行　森郁男
金属・樋　山口工材　担当／河村守彦
木製建具　岡崎木材工業　担当／松岡美和
木製サッシュ　アイ・エイチ　担当／伊藤彰

配置図　縮尺1：3,000

塗装　ワイヤード　担当／橋本宏次郎
内装　インテリアAKIMOTO　担当／秋本貴志
電気　大海電機　担当／瀧本晃示
空調　興陽電機　担当／河村大樹
給排水　防府水道メンテナンス　担当／光井祐
鉄骨　ヤマウチ　担当／山内清志
外構造園　かのや緑研　担当／鹿屋勇治

**構造・構法**

主体構造・構法　木造
基礎　べた基礎

**規模**

階数　地上1階
軒高 5,646mm　最高高さ 6,085mm
敷地面積　774.72m$^2$
建築面積　222.02m$^2$
　（建蔽率28.66%　許容62.42%）
延床面積　164.80m$^2$
　（容積率21.27%　許容184.53%）

**工程**

設計期間　2016年11月〜2017年9月
工事期間　2018年1〜11月

**敷地条件**

第一種住居地域　商業地域　準防火地域
道路幅員　南4.35m　駐車台数　2台

**外部仕上げ**

屋根／ガルバリウム鋼板 段葺き（三晃金属）
外壁／ジョリパット荒壁（アイカ工業）
　磁器質タイル（エクシィズ）
開口部／アルミサッシ（LIXIL）　木製サッシ（IH）
土間／土間たたき（ヤブ原）
テラス床／磁器質タイル（ニッタイ工業）

**内部仕上げ**

**リビング　ダイニング　キッチン**

床・天井／オークフローリング（IOC）
壁／クロス（リリカラ　ルノン　東リ）
　磁器質タイル（長江陶業）
障子／千本格子（タニハタ）

**和室**

床／オークフローリング（IOC）　畳（大建工業）
床の間／オーク スプーンカット（ノスタモ）
壁／スサ入り塗壁　磁器質タイル（エクシィズ）
天井／ヨシ サツマ丸糸通し（竹六商店）
簾／アルミすだれ（アルトシステム）

**浴室**

床／磁器質タイル（ニッタイ工業）
　ビニル床（富士商）
壁／磁器質タイル（名古屋モザイク工業）
天井／アルミスパンドレル（創建）

**主寝室　その他**

床／オークフローリング（IOC）
壁・天井／クロス（リリカラ）

**設備システム**

空調　冷暖房方式／ルームエアコン
　換気方式／第一種換気
　その他／床暖房
給排水　給水方式／水道直結
　排水方式／重力式
給湯　給湯方式／ガス給湯器
照明　大光電機

撮影／鈴木研一

リビングからテラスを介して防府天満宮まで見通す。北側の庭は傾斜をつけることで、防府天満宮へ視線が向かうようにしている。リビングの床仕上げを途中からテラスと同じ磁器質タイルへと切り替えることで、テラスとの連続感を強めている。

# 間の間の家

AINOMA house
愛知県岡崎市

**高野洋平＋森田祥子**
**／ MARU。architecture**
Yohei Takano+Sachiko Morita
／ MARU.architecture

間の間1から右手に玄関、左手に中庭と隣り合う母の間を見る。独立した大人3人の家族のための住宅で、それぞれの個室を繋ぐ空間を「間の間」としてパブリックな機能を納めている。すべてがひと続きの空間であるため、間の間はそれぞれの個室と一体に使われることもあるが、互いの個室を横切ることなく生活できるようにしている。

## 高齢世帯に提案する新しい繋がり方

近年高寿命化が進み、高齢者がアクティブシニアとして注目される中、引退後の第2の家を求める動きが目覚ましい。住宅も、子育て世帯向けの一家団欒型から高齢世帯向けの新たなあり方を模索する必要がある。

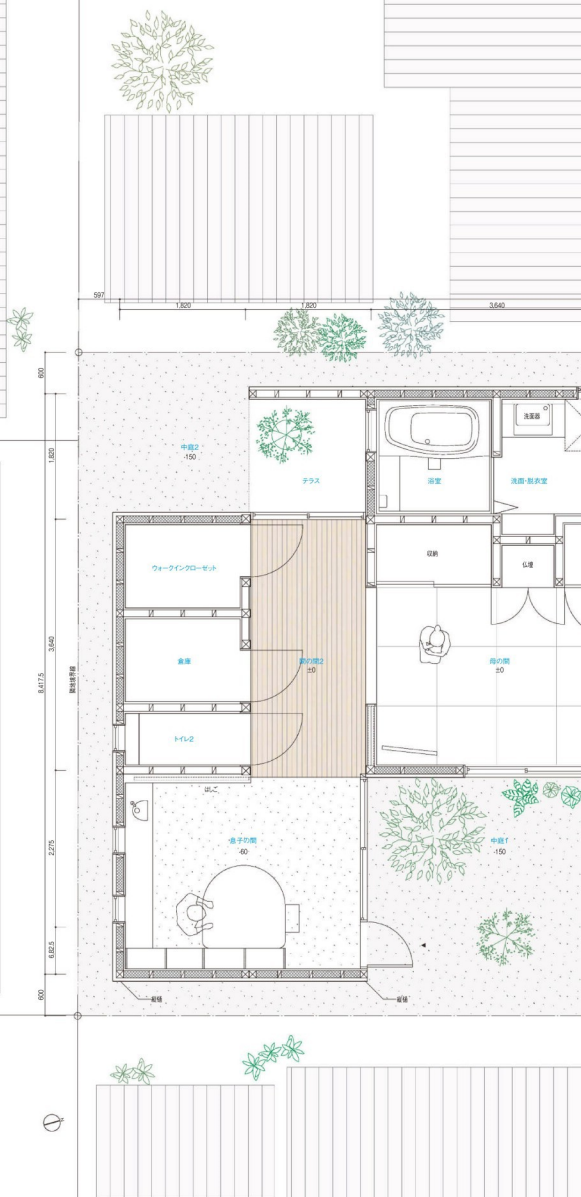
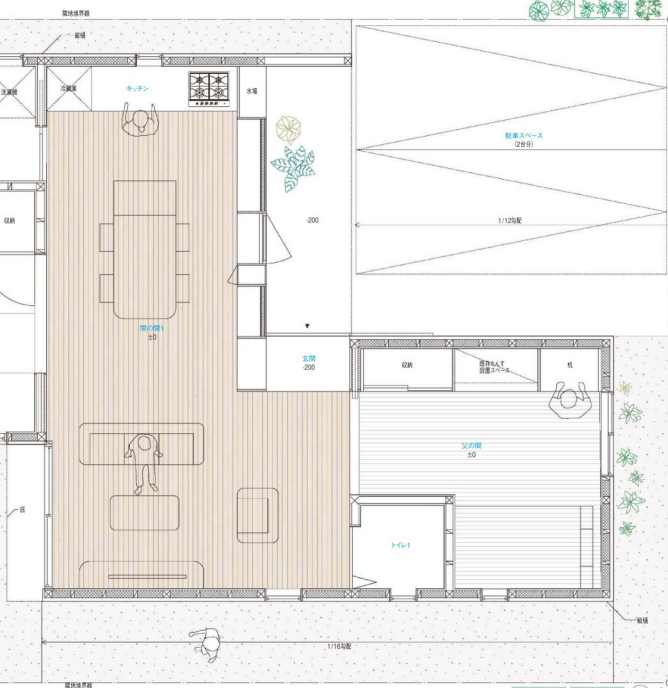
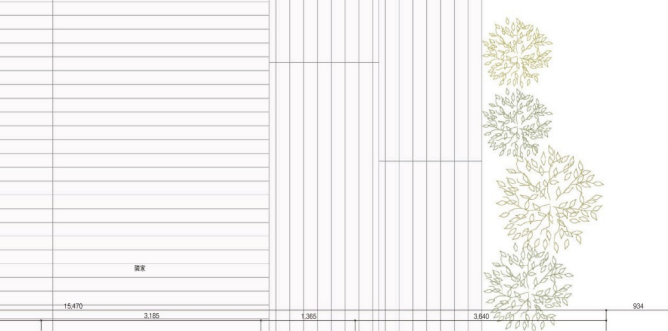
これは地方都市の郊外に建つ、高齢夫婦のための家である。夫婦の生活空間のほかに、同市内に近居する息子のアトリエを併設している。夫婦はそれぞれに仕事をもち、別々の部屋で暮らす。時折、息子がやってきて親を見守りながら、アトリエで仕事をすることができるようにした。

計画は、父と母、息子という大人3人のそれぞれの個室を設けるところから始まった。各個室は庭に面して分散して自律的に配置し、暮らしに合わせて洋室、和室、土間と個性をもつ空間とした。

さらに個室の間に曲面屋根を架け渡し、個室と個室の間の空間「間の間」をつくる。個室と個室の間に隙間のような空間をつくることで、ほどよい距離感を保ちながら家族の暮らしを緩やかに繋ぐことを意図している。「間の間」に架け渡す梁は、HPシェルによる曲面を38mm×184mmの繊細な集成材によって構成し、在来工法による個室空間と異なる抑揚を生み出した。ファサードは小さな家並みが連続するように、各機能を納めたヴォリュームを家型やバタフライ型にして繋げている。「個室」と「間の間」を二項対立的に表現するのではなく、3人の領域が間の間を通じて穏やかに繋がるように、領域をまたいでひとつの図形を描き、全体をガルバリウムで包んだ。 個室の縁側的空間である「間の間」が外部に接する面は、木質の仕上げを内外に連続させ、生活の表情が顕れる設えとした。

均等に割られた区画に目一杯に建てられた2階屋が並ぶ住宅地は、その多くがかつて子供部屋だった2階の部屋を倉庫化してもて余している。その一方で、小屋のように個室が連なる「間の間」の家は、その小ささゆえに街に空地を生み、異質な存在感を放っている。

「間の間」は、家族が集まる求心的な団らん空間ではなく、個室と個室の共用の縁側のような場である。ここでは前庭や路地に自然に領域が広がるように生活が溢れ出す。各自が個室の中に閉じこもるのではなく「間の間」に開かれていくことで、子育てという協働作業を終えた夫婦とその息子が適度な距離を保ちつつ、互いを見守りながら寄り添って暮らすことのできる居場所となる。　（高野洋平＋森田祥子）

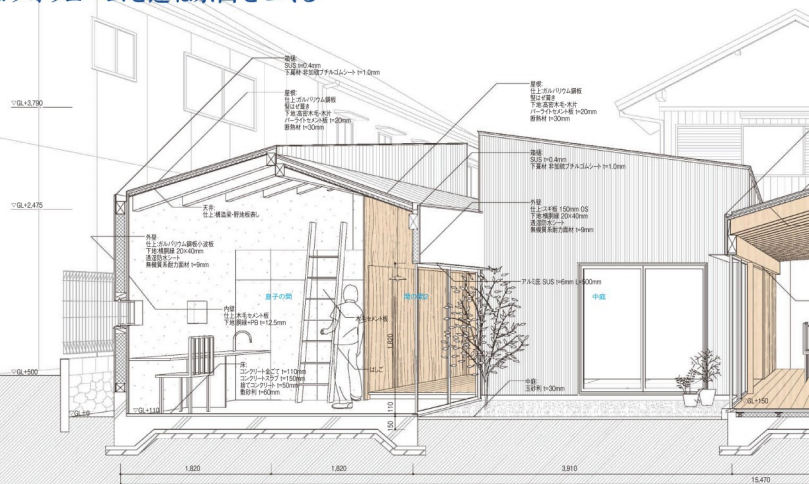
隣家
15,470
3,185
1,365
3,640
934
隣地境界線
縦樋
洗濯機
冷蔵庫
キッチン
水場
駐車スペース
(2台分)
収納
-200
1/12勾配
北側前面道路
間の間1
±0
玄関
-200
道路境界線
収納
既存たんす
設置スペース
机
父の間
±0
庇
トイレ1
縦樋
1/16勾配
隣地境界線
隣家

配置平面図　縮尺1：60

## One-story House

# 小さなヴォリュームを連ね余白をつくる



断面詳細図　縮尺1：50

北側全景。地方都市の郊外住宅地に建ち、機能をもったヴォリュームを連続させ多様に傾斜する屋根で繋いでいる。周囲に2階建ての戸建て住宅が並ぶ中、平屋とすることで周囲にヴォイドをつくり出すと共に室内に南側からの採光を取り込んでいる。

左：間の間1。リビングダイニングキッチンの機能をもち、HPシェルの屋根が架かる。
右：中庭1。母の間（正面）と間の間1（右）、息子の間（左）が面する。

配置図　縮尺1：1,000

**間の間の家**
所在地／愛知県岡崎市
主要用途／住宅
家族構成／夫婦

**設計**
MARU。architecture
担当／高野洋平　森田祥子　門井慎之介
構造　坂田涼太郎構造設計事務所
担当／坂田涼太郎
家具　藤森泰司アトリエ
担当／藤森泰司　石橋亜紀

**施工**
箱屋　担当／大村祐以
基礎　福勢組　担当／片岡雅俊
大工　光ヶ丘　中嶋建築　担当／中嶋稚典
木材　山西　担当／安藤昭典
板金　今井板金　担当／今井春雄
塗装　冨三家　担当／冨田淳
木製建具　松原建具　担当／松原正明
硝子　井上硝子　担当／井上静一
クロス　福美装　担当／高木正記
電気　足立電気商会　担当／萩原和夫
給排水　クアトロ　担当／渡部貴昭
空調　名南冷熱工業　担当／小澤慎太郎
外構・植栽　岡田礎　担当／岡田康弘
家具　イノウエインダストリィズ
担当／後藤洋佑　坂本有香

**構造・構法**
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

**規模**
階数　地上2階
軒高4.285mm　最高高さ4.385mm
敷地面積　163.22m²
建築面積　85.36m²
（建蔽率53.82%　許容60%）
延床面積　83.71m²
（容積率56.86%　許容100%）
1階　86.18m²　2階　6.62m²

**工程**
設計期間　2016年8月～2017年2月
工事期間　2017年2月～2017年10月

**敷地条件**
地域地区　第一種低層地域専用地域
高さ制限10m　法第22条地域
道路幅員　北6.0m
駐車台数　1台

**外部仕上げ**
屋根／ガルバリウム鋼板
外壁／ガルバリウム鋼板　一部スギ板張り
開口部／アルミサッシ（LIXIL）
外構／コンクリート金ごての上防塵塗装

**内部仕上げ**
**間の間1　キッチン**
床／フローリング（IOC）t=12mm
壁／ラワン合板 t=5.5mm　一部キッチンパネル（サンワカンパニー）
天井／ラワン合板 t=5.5mm
厨房機器／システムキッチン（サンワカンパニー）
家具／制作（イノウエインダストリィズ）
照明／ペンダントライト（後藤照明）
**間の間2**
床／フローリング（IOC）t=12mm
壁・天井／ラワン合板　t=5.5mm
照明／ペンダントライト（後藤照明）
**父の間**
床／フローリング（IOC）t=12mm
壁・天井／ビニルクロス（サンゲツ）
照明／ダウンライト
**母の間**
床／畳
壁／ビニルクロス（サンゲツ）
天井／ヒノキ合板 t=12mm
照明／ダウンライト
**息子の間**
床／コンクリート金ごての上防塵塗装
壁／木毛セメント版 t=12mm
天井／ラワン合板 t=5.5mm
家具／制作（イノウエインダストリィズ）
**トイレ　洗面所**
床／長尺塩化ビニルシート（サンゲツ）
壁・天井／ビニルクロス（サンゲツ）
便器／アラウーノ（panasonic）

**設備システム**
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／下水道直結
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部

母の間から間の間1越しに父の間を見る。

息子の間から父の間まで見通す。息子の間は中庭越しに直接アプローチできる。
息子の不在時は間の間2と共に母の間と一体に利用される。

# 毛鹿母の家

House in Kerokubo
岐阜県恵那市

**浅井裕雄＋吉田澄代／裕建築計画**
Hiroo Asai+Sumiyo Yoshida
／Yuu Architects

築100年以上の農家民家の改修。長い歴史の中で増改築された部分はできるだけオリジナルの状態に戻し、構造補強と断熱性能を上げることで居住性を向上させている。洋間の台所に改修されていた部分は土間に戻し、昭和に改修された開口部のアルミサッシおよび玄関扉はそのまま生かしていしている。左手のラワンで覆われた箱状のヴォリュームは浴室。

### 守る景観とリノベーション

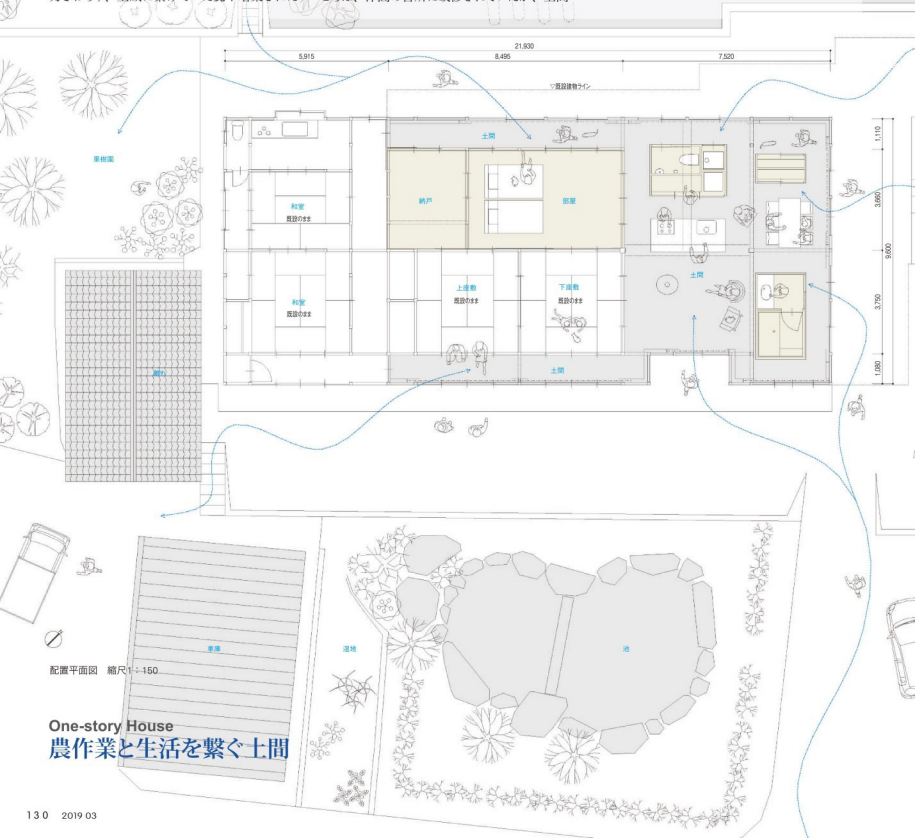
名古屋で生活していた夫婦が恵那の農村集落にある古民家と田んぼを購入して、子育ての場所として選んだ。恵那の毛鹿母は、名古屋から1時間ほどのところにあり、南垂れの地形に沿って田んぼが広がる美しい集落。人びとは草刈りや手入れをしてこの景観を維持している。購入した民家は集落の中の中央にあり、屋号は「田中」という。築100年以上の典型的な農家民家だが、昭和の経済発展と共に田の字型の間取りから土間はなくなり、玄関や広いキッチンダイニングが造作されていた。母屋の周囲には土蔵や農作業小屋もあり、それらは庇でひとつに繋がれ、外へと生活の空間が広がっていた。

この美しい景観をそのまま残すために外観は極力さわらず、土蔵に繋げていた庇や増築された部分はオリジナルへと減築した。昭和に改修されたアルミサッシは馴染んだ風景としてそのまま利用し、屋根瓦は元の瓦を再利用して性能維持のために葺き替えた。柱の傷んだところは新しいヒノキで繕い、垂木は使えるものは残し、大工と相談しながら修復した。内部環境は性能を高めるために内断熱と大きなワンルームとして通風を工夫し、性能が上がらないサッシ部分はカーテンで断熱性能を補っている。冬の暖房は薪ストーブで全体を温めている。

### 道具のような家

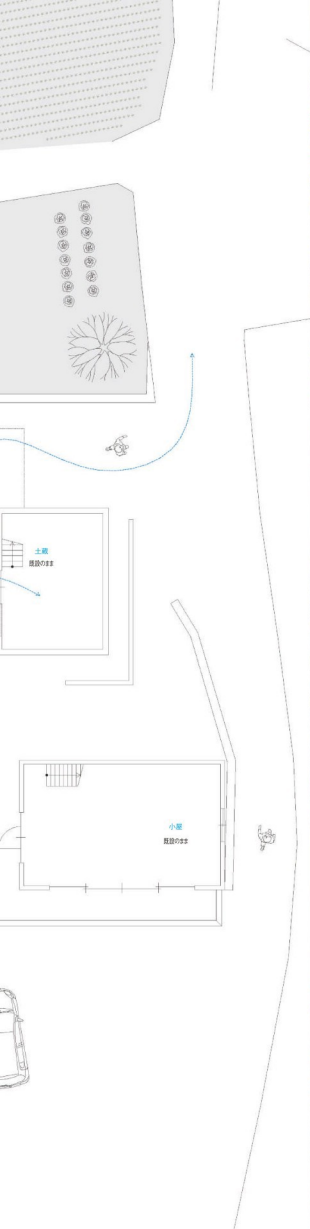
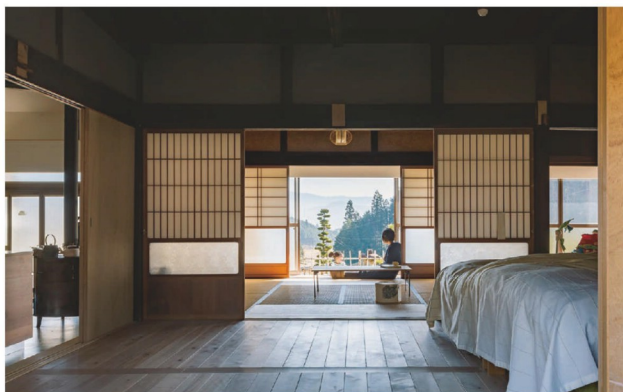
農地を所有するということは、正式に農家ということになる。それは自然と対峙し外へ向かう生活となる。以前の土間部分と馬屋などがあったところは、洋間の台所に改修されていたが、土間を復活させて、田んぼや畑へ簡単に行き来でき、子育てや食事の空間が農に近い場所になるようにした。さらに、外壁ラインは室で間仕切らずに、水回りや収納をBOXとして配置し、南北の縁側も床板を取り外して土間レベルにすることで、どこからでも外へアプローチできるようにしている。昭和の経済発展とともにつくり変えられてきた家を、無造作に戻すことで、使い勝手のよい道具のような家となった。

毛鹿母では、子育ての農家初心者を受け入れ、田んぼの世話や子供の世話と、とにかく地域が見守ってくれていることがよい。地域の開かれたコミュニケーションが集落や農業の復活に繋がっていくと思う。　（浅井裕雄）

配置平面図　縮尺1：150

One-story House
## 農作業と生活を繋ぐ土間

南側夕景。増築され土蔵と連結されていた部分は減築して切り離している。手前は既存の池。

東に建つ土蔵と小屋の間から遠くの山並みを望む。土蔵は物置として利用され、小屋は1階の開口部を改修して、農作業をしたり農具を収納するのに利用されている。

北側外観。毛鹿母の田んぼと遠くの山並みを見渡す。屋根瓦は既存の瓦を再利用し葺き替えている。

部屋から下座敷を見る。

**毛鹿母の家**
所在地／岐阜県恵那市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供

**設計**
裕建築計画　担当／浅井裕雄　吉田澄代
**施工**
ヨシコウ　担当／吉村真
設備　早坂設備　担当／早坂敏彦
ガス　ワセ田ガス　担当／青木伸弘
電気　ニシオ電器　担当／西尾正彦
**構造・構法**
主体構造・構法　木造
**規模**
階数　地上1階
建築面積　210m²
延床面積　207m²
**工程**
設計期間　20016年4月～12月
工事期間　2017年1月～12月
**敷地条件**
都市計画区域内　（区域区分非設定都市計画区域）
道路幅員　南3m

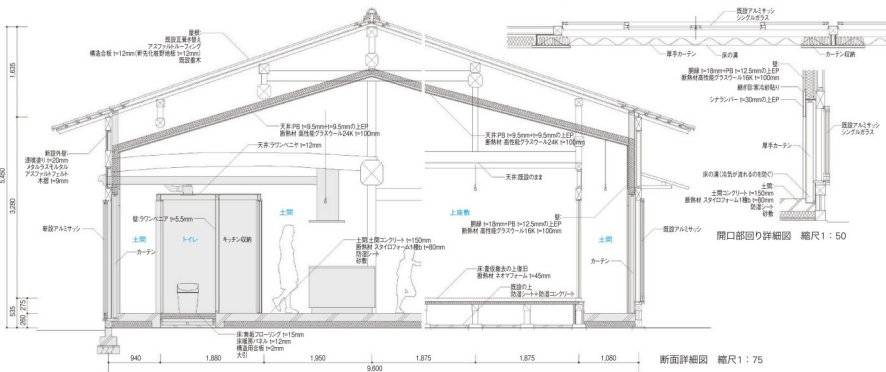
**リノベーションコスト**

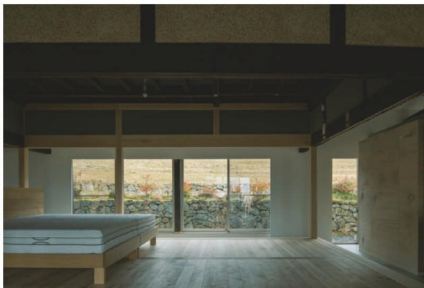
| | |
|---|---|
| 解体 | 約2,100,000円 |
| 瓦葺き改修工事 | 約4,000,000円 |
| 基礎・土間改修工事 | 約1,200,000円 |
| 外壁改修工事 | 約1,200,000円 |
| 天井断熱改修工事 | 約600,000円 |
| 構造材補修工事 | 約350,000円 |
| アルミサッシ改修工 | 約850,000円 |
| 衛生設備工事 | 約1,900,000円 |
| 電気設備工事 | 約800,000円 |

**外部仕上げ**
屋根／瓦葺き
外壁／土壁　改修部分：漆喰塗り
開口部／アルミサッシ
　改修部分：アルミサッシ（LIXIL）
**内部仕上げ**
**土間**
床／土間コンクリート 金ごて仕上げ 防塵塗装
壁／ PB t=12.5mm EP
天井／ PB t=9.5mm×2 EP
キッチン／制作：イリエ製作所
ダイニングテーブル・椅子／制作：スニッカ
カーテン／制作：ハイム
**水回り**
床／カバ無垢フローリング t=15mm
壁・天井／ラワンベニヤ t=5.5mm
ユニットバス／ TOTO ユニットバス サザナHS シリーズSタイプ1616
便器／ LIXIL サティスGタイプ
**上座敷　下座敷**
床／畳敷き（既設のまま）
壁／土壁（既設のまま）
天井／板張り（既設のまま）
**部屋　納戸**
床／カバ無垢フリーロング t=15mm
壁／土壁　一部補修
天井／板張り（既設のまま）
ベット家具／制作：スニッカ
**設備システム**
空調　暖房方式／薪ストーブ
　換気方式／第3種機械換気
　その他／ガス温水床暖房
給排水　給水方式／上水道直結方式
　排水方式／浄化槽
給湯　給湯方式／ガス給湯器

撮影／新建築社写真部
*撮影／新名清

開口部回り詳細図　縮尺1：50

断面詳細図　縮尺1：75

土間。居室とのレベル差は275mm。内外の出入りが容易になるように室内の外周部に新たに土間を設え、床下、壁内、天井に断熱材を入れ断熱性能を上げて、上部ですべての気積を繋ぎ薪ストーブで全体を温めている。

左：南庭に面する土間。既存の開口部に断熱効果を高めるためカーテンを設置。　中：部屋。夏には建具を取り払い通風を確保し、一体的に利用される。*　左：土間の台所から土蔵を見る。新規に設えた壁面により土蔵の土壁がフレーミングされる。天井高は約4,200mm。

# 竹林の家

House in Bamboo Grove
兵庫県

**奥野八十八／アトリエ・ブリコラージュ**
Okuno Yasohachi ／ Atelier Bricolage

南東側全景。北西側には竹林、南東側には田んぼが広がる土地を建主が自ら伐採して敷地を確保。それぞれの部屋から自然を感じられるようにするため、伝統的な民家の間取りをいくつかのヴォリュームに分けて配置し、それぞれの部屋が外部と関係をつくれるようにしている。

**ランドスケープとルーフスケープの間**

山間の小さな集落を見渡せる山裾の竹林を切り拓いて建てた住宅である。初めてこの地を訪れた時には、鬱蒼と生い茂った竹や雑草で辺りは薄暗く、敷地境界も判然としなかった。しかし何度も足を運ぶうちに、竹が揺れる気配から伝わる風の抜け方、少し高台になっているからこそ得られる眺望、背後に山があることの安心感などを読み取れた。そういった感覚を兼業農家である建主と共有しながら、この場所に建つ現代の民家はどうあるべきかを考えた。

まず、力強い自然に侵食されない伸びやかな生活の領域を確保するべく、全体をいくつかのヴォリュームに分け、それらの間に半屋外の空間を挟み込み、周囲の自然に対する緩衝地帯とした。ここには季節によって各種の苗のパレットが並び、農機具や軽トラックが出入りし、主暖房である薪ストーブの薪が積まれ、玉ねぎが吊るされる。ヴォリュームは「ドマ」「イマ・ザシキ」「ダイドコ・ネマ」といった伝統的な民家の構成を参照し、再構成している。各ヴォリュームには、生活上の使い勝手や必要となる天井高、雨水排水の方向、周囲の山並みなどを勘案してそれぞれに屋根を架け、それらが重なり合いながら「ナヤ」「オモヤ」「クラ」という異なるヴォリュームの集まりからなる伝統的な民家を想起させる構成とした。

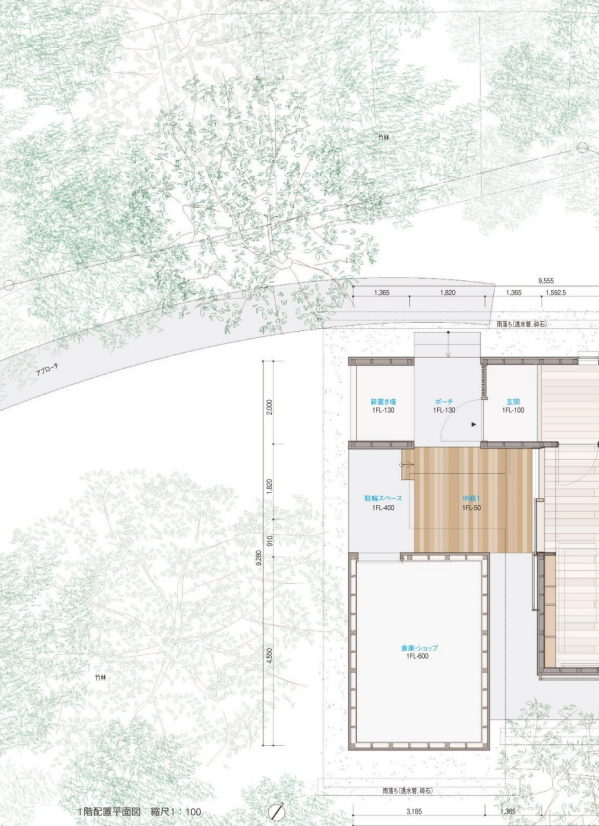
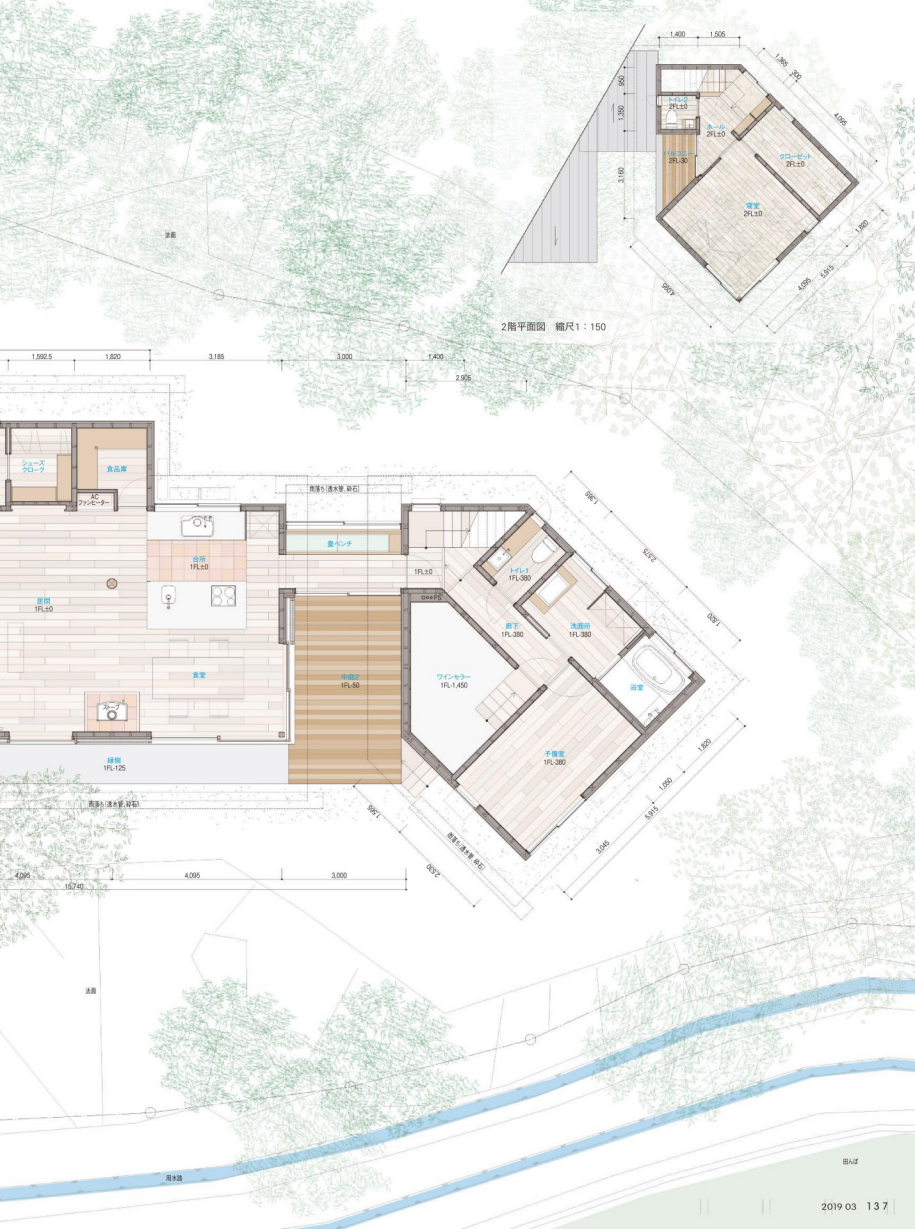
内部では、キッチンを現代版のかまどと読み替え、基礎と一体で立ち上げたコンクリートでつくっているほか、主室の中央に立つ「大黒柱」が見る角度によって「床柱」のようにもなるように周囲を設え、構造としての役割だけでなく象徴的にも機能するように扱っている。また、通常のプロセスとは逆に、既存の竹木をどこまで伐るかを建物の計画と並行して検討していく引き算での外構計画を行った。

敷地という小さな範囲に留まらず、周囲に広がる田んぼや里山まで含めた大きなランドスケープと、それらを受け止めて生活の場を規定するルーフスケープ。その場所に相応しい両者の関係を見つけることができれば、自然と風景に馴染み、日々の暮らしの雑多なあれこれや将来に渡る住まい方の変化を受け止め得る、大らかな住まいをつくることができるのではないかと考えている。

（奥野八十八）

1階配置平面図　縮尺1：100

左：中庭2から南東側を見る。ワインセラーと食堂の間に設えられた中庭は、食堂の延長として外部を楽しむことができる場所。
右：駐輪スペースから中庭1とポーチを見る。中庭1は軒とケラバに4方を囲まれ、上部から北側の竹林を望む。車を駐輪スペースに横付けできるので、倉庫・ショップへの搬入や荷捌きにも使われる。

2階平面図　縮尺1：150
トイレ2
2FL±0
ホール
2FL±0
バルコニー
2FL-30
クローゼット
2FL±0
寝室
2FL±0
法面
シューズ
クローク
食品庫
AC
ファンヒーター
雨落ち（透水管、砕石）
畳ベンチ
台所
1FL±0
1FL±0
トイレ1
1FL-380
居間
1FL±0
廊下
1FL-380
洗面所
1FL-380
ワインセラー
1FL-1,450
中庭2
1FL-50
食堂
浴室
ストーブ
予備室
1FL-380
縁側
1FL-125
雨落ち（透水管、砕石）
雨落ち（透水管、砕石）
法面
用水路
田んぼ

中庭2から食堂を見る。登り梁をもち出して出桁とすることで軒の出を深くし、軒樋を設けず雨水を直接地面に落としている。

One-story House

# 自然環境と暮らしの緩衝帯となる軒下

2,000
1,820
1,820
1,820
750
800

屋根:
ガルバリウム鋼板 t=0.35mm
竪はぜ葺き
樹脂性通気マット+ルーフィング t=12mm
構造用合板 t=24mm
垂木:ベイマツ一等材
45×90mm @455mm

▽LDK最高高さ
▽棟高
▽軒高
▽1FL
▽SGL(12,960)
▽隣地境界線

1,000

FIX開口:
透明ペアガラス t=12mm
押縁:ベイマツ材ビス留め
下端に板金水切り

10
2.5

1,600
750
850

FIX開口:
透明ペアガラス t=12mm
押縁:ベイマツ材ビス留め
上部は梁を切欠き加工

外壁:
薄塗左官仕上げ
ラスモルタル t=20mm
アスファルトフェルト
木ずり下地 t=12mm
通気胴縁 15×40mm
透湿防水シート
構造用合板 t=12mm

天井:
ラワンベニヤ 5.50F
普通グラスウール
24k t=120mm

壁:
クロス貼り
PB t=12.5mm
高性能グラスウール
16k t=105mm

天井:
シナベニヤ t=5.5mm白オイル塗り
普通グラスウール 24k t=120mm

キッチン:鉄筋コンクリート打放し

食品庫
台所
居間
縁側

床:
構造用合板 t=24mm
スタイロ t=45mm
チーク積層フローリング t=15mm

床:
チーク積層フローリング t=15mm
構造用合板 t=24mm
スタイロ t=45mm

コンクリート金ごて押さえ

キッチン躯体:
基礎と一体で立上げ

340
1,365
2,545
5,000
750
228
450
270
130
3,160
1,950
580
1,925
150

2,000
1,820
3,640
1,200

柱状改良
元地盤面

現場発生土にて盛土 重機で転圧
(すべて敷地内処分とする)

断面詳細図　縮尺1：100

居間から台所と食堂を見る。台所上部の格子は台所の領域に落ち着きを与えると共に、レンジフードを支持し、照明や排気ダクトを仕込むスペースとなっている。

畳ベンチから台所を見る。

配置図　縮尺1：3,000

倉庫に併設されたワインショップ。

**竹林の家**

所在地／兵庫県
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦

**設計**
アトリエ・ブリコラージュ
　担当／奥野八十八
構造　エス・キューブ・アソシエイツ
　担当／橋本一郎　今田光祐（元所員）
設計協力　カワイデザインワークス
　担当／河合克俊

**施工**
匠建築工房　担当／撫養潤一　大園琢也
基礎　大建工業　担当／大山勝彦
屋根・板金　アーキスト　担当／後藤一也
左官　増田工業所　担当／兵庫功
木製建具　明石屋建具製作所　担当／植原康仁
電気　姫高電機　担当／大石信之
設備　藤田水道　担当／藤田崇之
キッチン　キッチンハウス

**構造・構法**
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　べた基礎

**規模**
階数　地上2階
軒高 5,370mm　最高高さ 7,185mm
敷地面積　989.93m²
建築面積　123.58m²
　（建蔽率12.48%　許容60%）
延床面積　146.34m²
　（容積率14.78%　許容200%）
1階　112.29m²　2階　34.05m²

**工程**
設計期間　2015年2月〜2016年4月
工事期間　2016年5月〜2017年1月

**敷地条件**
地域地区　市街化調整区域　防火指定　法22条地域
道路幅員　南2m（43条1項但し書き）

**外部仕上げ**
屋根／ガルバリウム鋼板 竪はぜ葺き t=0.35mm
外壁／薄塗左官仕上げ
開口部／木製建具　住宅用アルミサッシ
外構／コンクリート金ごて押さえ　砕石敷き

**内部仕上げ**
**台所**
床／タイル貼り t=10mm サンワカンパニー TL07411
壁／PB t=12.5mm クロス仕上げ
天井／シナベニヤ t=5.5mm 白オイル拭き取り
厨房機器／
　食洗器／Miele G6100SCi
　オーブン／AEG BP8314001M
　IHコンロ／Miele KM6115
　換気扇（シェード）／アリアフィーナ CFEDL-952S
建築金物／
　シンク水栓金物／HANSGROHE アクサーチッテリオM 34822004　GROHE ミンタ 32445000
　アンダーシンク／シゲル工業 FCM-K FS トヨウラ N320V
**トイレ1・2　洗面所**
床／ナラフローリング t=15mm オイル塗り
壁／PB t=12.5mm クロス仕上げ
天井／PB t=9.5mm クロス仕上げ
便器／パナソニック アラウーノ
洗面カウンター／和筆笥（建主支給）改造 KE124075（平田タイル）
洗面用水栓金物／TOTO TLC31BEF
空調機器／PSグループ TSTE060
**玄関　シューズクローク**
床／チーク積層フローリング t=15mm（ワールドフロンテア）
壁／PB t=12.5mm クロス仕上げ
天井／ラワンベニヤ t=5.5mm
**居間　食堂**
床／チーク積層フローリング t=15mm（ワールドフロンテア）
壁／PB t=12.5mm クロス仕上げ
天井／シナベニヤ t=5.5mm 白オイル拭き取り
**ワインセラー**
床／コンクリート金ごて押さえ
壁／PB t=12.5mm
天井／PB t=9.5mm

**設備システム**
空調　暖房方式／薪ストーブ　FF式石油ファンヒーター
　冷房方式／ルームエアコン
給排水　給水方式／上水道直結（セントラル浄水）
　排水方式／下水道放流
給湯　給湯方式／電気温水器（エコキュート）

撮影／新建築社写真部

用水路
用水路
田んぼ
▽隣地境界線

西側全景。西側には薪置き場や倉庫としての土間が配置される。冬になると薪置き場に薪が積み上がって壁になり、暖かくなると薪が減ってアプローチから玄関を見通せる。

# 鹿屋の家

House in Kanoya

鹿児島県鹿屋市

**吉武研二／ヨシタケケンジ建築事務所**
Kenji Yoshitake Architect Office

南より見る。右手に玄関・リビング・ダイニング・キッチンからなる「おもて」と、左手に4つの寝室、水回りからなる「なかえ」のふたつのボリュームで構成し、それらを雁行させて配置。「おもて」の3間幅の開口と、「なかえ」の1間幅の外壁と建具の反復が、特徴のあるファサードをつくり出している。軒の高さ、開口部の高さを揃え、水平方向への広がりも意識させた。外壁、木製建具は、スギ材による。

**「おもて」と「なかえ」の雁行型の住まい**

桜島の南東に位置する鹿屋市。碁盤目状に区画された大規模農地であった周辺は、ミニ開発による住宅団地や集合住宅、老人福祉施設、商業施設が混在している。計画地は、位置指定道路で結ばれた約300坪の広大な農地であった。建主は、ゆとりのあるこの敷地にのんびりと暮らし、ときに友人を招いて楽しむことのできる住まいを望んだ。

設計を進めるにあたり、計画地近くの二階堂家住宅（重要文化財）の存在を知った。この住宅は鹿児島県南部固有の形式を有しており、客間にあたる「おもて」の棟と、日常の空間である「なかえ」の棟が雁行して繋がった特徴をもっている。この雁行型の構えは、台風常襲地域の沖縄でも見られ、台風の強風を脇に逃がすために有効に働く。また高温多湿な気候に対し、雁行型は窓を多く取れるため、採光や通風の確保に優れている。自然に向き合った構え、生活に対応して築かれてきた知恵を継承しながら、現代の住まいへ展開したいと考えた。

プライバシーの序列に従い、「おもて」に、玄関・リビング・ダイニング・キッチンを、「なかえ」には、和室（主寝室）・子供室・水回りを計画し、雁行させて配置した。ヨコの動きに対し、タテの動きを含ませることで、豊かなシークエンスの獲得を目指した。ここで生まれた空間はフリースペースとし、「おもて」と「なかえ」を穏やかに結びながらも、少しの距離を生む「つなぎ」の場として存在させた。

屋根は、桜島の灰が溜まらないよう勾配を持たせ、軒は低く奥行きがあり、少し軽やかで、おおらかな切妻屋根を架けた。

「おもて」は、3間幅の開口で、庭の景色を取り込む開放性をもたせ、夏には涼しい風を、冬にはあたたかい陽だまりをもたらし、家族と友人が集う場となった。「つなぎ」は腰窓、「なかえ」は半間扉とし、窓の大きさや光の量を段階的に下げていくことで、それぞれの場に見えない領域と特徴を与えた。

初めて計画地に訪れた時の強い光と影、灰が積もった大地を、今でも鮮明に覚えている。移りゆく風景の中、風土に根ざしたかたちで、普遍的で力強い建築を模索した。　（吉武研二）

左：南庭テラスより見る縁側。雁行によるズレからダイニング、リビングを見通す。屋根は3寸勾配。右：南より見る。庭には残土で築山をつくり、多様な樹種を植えた。

20,020
10,920
2,275 3,185 4,160 1,300 3,640

砕石敷き

浴室

洗

洗面脱衣室
300mm角 磁器質タイル貼

家族収納
スギフローリング t=15mm

トイレ

廊下
スギフローリング t=15mm

敷地境界線

1,820 1,820 3,640 2,275 7,280

押入

床

和室
畳 t=55mm

フリールーム
スギフローリング t=15mm

子供室③

子供室②
スギフローリング t=15mm

子供室①

キッチン
スギフローリング t=15mm

ダイニング
スギフローリング t=15mm

縁側

砕石敷き

テラス
300mm角 透湿舗装材

1,820 1,820 1,820 3,640 1,820
10,920

芝貼り

イロハモミジ

ヤマツツジ

ソメイヨシノ

アラカシ

カツラ

ヒメシャラ

残土にて築山

アラカシ

ソメイヨシノ

シダレザクラ

ソメイヨシノ

配置平面図　縮尺1：100



敷地境界線

One-story House
# 地域風土に根ざす雁行型プラン

リビングより土間を見る。間仕切りは格子の引き戸とし、リビング・ダイニングと連続性をもたせた。

「なかえ」の廊下より見る。左手に中間領域と位置付けられるフリールーム。右手に和室。窓形状の変化により、空間に特徴を与えている。

南側夕景。左手にフリールーム、右手にダイニング・リビング。奥にキッチンを見る。屋根はガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き。

リビングよりダイニング越しにフリースペースを見る。天井高さ2,250 ～ 3,300mm、開口高さ1,850mm。台風を考慮し、南側開口部は、1間ごとに柱を立て、大きな梁で連結させた。「つなぎ」のフリースペースとの仕切りは格子戸とし、見え隠れさせることで、奥行きや連続性を与えている。

リビング・ダイニングより見る。黒く塗装したスギ板の壁の奥にキッチン、収納が収められている。左手にフリースペース、右手に土間。床：スギフローリング、壁：杉板OS塗装。色や素材が切り替わる壁面の三方枠は、見付30mm、見込200mmと厚みを持たせた。

「つなぎ」のフリースペースより雁行するボリュームを見る。窓は幅広の腰窓とした。カウンターは、ツガ材を剥ぎ合わせて制作。

個室の並ぶ廊下を見通す。引き違いの扉が連続する。梁を差し鴨居とし、フレキシブルな対応が可能としている。

**鹿屋の家**
所在地／鹿児島県鹿屋市
主要用途／専用住宅
家族構成／夫婦＋子供3人

**設計**
ヨシタケケンジ建築事務所　担当／吉武研二
**施工**
上谷田建設　担当／岩元孝　上谷田浩幸
大工　末満工務店　担当／末満正好
基礎工事　大山工業　担当／田平宏利
プレカット　プレテック　担当／川原道生
屋根工事・塗装　アリドメ　担当／有留健一
左官・タイル　鹿屋技建　担当／山下光広
鋼製建具・ガラス　ヤマクチ
担当／久永孝治
木製建具・家具　下平建具　担当／下平興隆
建材　岩元新建材　担当／榊孝生
内装　ミヨシ建装　担当／本地健志
住宅機器　アリマコーポレーション
担当／内田信彦
仮設足場　安達組　担当／安達修
清掃　大協ビルメンテナンス　担当／築島繁次
設備　共和建設興業　担当／川越武美
電気　えいでん　担当／押領司純一
**構造・構法**
主体構造・構法　木造在来工法
基礎　鉄筋コンクリートべた基礎
**規模**
階数　地下1階
軒高 3,025mm　最高の高さ 4,345mm
敷地面積　972.96m²
建築面積　146.73m²
（建蔽率15.09% 許容70%）
延床面積　133.32m²
（容積率13.71% 許容369%）
**工程**
設計期間　2015年6月～2016年5月
工事期間　2016年6月～2016年11月
**敷地条件**
都市計画区域内　用途無指定区域
法22条地域外
道路幅員　西6m　駐車台数　8台
**外部仕上げ**
屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 立はぜ葺き
外壁／合成樹脂エマルション系塗料吹付仕げ（ゆず肌）　スギ板 t=15mm 本実張り　木材保護塗料塗り
開口部／木製サッシ　アルミサッシ
外構／磁器質タイル貼(玄関・ポーチ)
**内部仕上げ**
**キッチン**
床／スギ　t=15mm（皇スギ GAIN）
壁・天井／ PB t=12.5mm クロス貼り
厨房機器／
ガスコンロ／リンナイ RD640STS
換気扇／アリアフィーナ BETF-901
家具／製作（シナ合板）
シンク水栓金物／三菱ケミカル・クリンスイ F914ZC
**浴室**
TOTO ユニットバス 1620サイズ
**トイレ**
床／スギ t=15mm　（皇スギ GAIN）
壁／ PB t=12.5mm クロス貼り
モザイクタイル貼り
天井／スギ　t=15mm 目透かし張り OF
家具／制作（メラミン）
便器／ TOTO ネオレストAH
**洗面所**
床／磁器質タイル（300角）貼り
壁／ PB t=12.5mm クロス貼り
モザイクタイル貼り
天井／ PB t=12.5mm クロス貼り
洗面カウンター／ベッセル式カウンター
ポストフォーム t=40mm
洗面器／セラトレーディング KE124075
洗面用水栓金物／セラトレーディング ZU6211
**玄関**
床／磁器質タイル600mm角（ダントー）
壁・天井／ PB t=12.5mmクロス貼
一部天井：スギ t=15mm 目透かし張り OF
**リビング　ダイニング**
床／スギ t=15mm（皇スギ GAIN）
壁・天井／ PB t=12.5mm クロス貼り
一部壁：スギ t=15mm OS
**和室**
床／畳　t=55mm
壁／ PB t=12.5mm クロス貼り
天井／スギ柾ボード張り
**子供室**
床／スギ t=15mm　（皇スギ GAIN）
壁・天井／ PB t=12.5mm クロス貼り
間仕切壁／シナランバー　t=30mm（取外し可）
**設備システム**
空調　冷暖房方式／ルームエアコン
換気方式／第三種換気
給排水　給水方式／上水道直結
排水方式／浄化槽
給湯　給湯方式／ガス給湯器
撮影／新建築社写真部

配置図　縮尺1：4,000

断面詳細図　縮尺1：75

連載

# 建築家自邸からの家学び

企画・監修　真壁智治
協力　松田直則　朱暁雲
調査　日野雅司
　　　東京電機大学 日野雅司研究室
文　畝森泰行
撮影　新建築社写真部

2階の外廊下から中庭を見る。中央に中庭を囲んでコの字型の平面をもつ3世帯が重層する。現在は地下1階がイベントスペース、1階が建築ガラスのアトリエと友人たちで集まるためのダイニングとキッチン、2階が松田氏世帯の住居、3階と屋階は竣工時から住む松田氏の友人夫婦の住居という構成。

# 開かれた集住への試み

「西麻布 HOUSE・M―重層長屋―」（1998年竣工、本誌9909、以下「ハウスM」）は、建築家、松田直則の世帯を含む3世帯が、重層して中庭を生活の中心に暮らすことを意図された「重層長屋」である。

ハウスMはそのプログラムに、建築家自邸としての固有な主題が認められる。プログラムの基軸に、松田が中国で広く見聞してきた伝統的な民居、廟、客家（はっか）の中心軸となる空の空間「天井（てんじん）」がある。地中から湧き出るエネルギーを天に向かって吹き上げる気の波動の流れを暮らしのコアにもち込もうとした。それが中庭に各戸が開かれた「重層長屋」のプログラムの基本コードとなり、「ソト」と「ウチ」とが幾重にも自在に、緩くシームレスに繋がる、一体感のある暮らしを育んできた。そこでは近代化と共に権利化される「プライバシー」も悍ましいものとして映る。

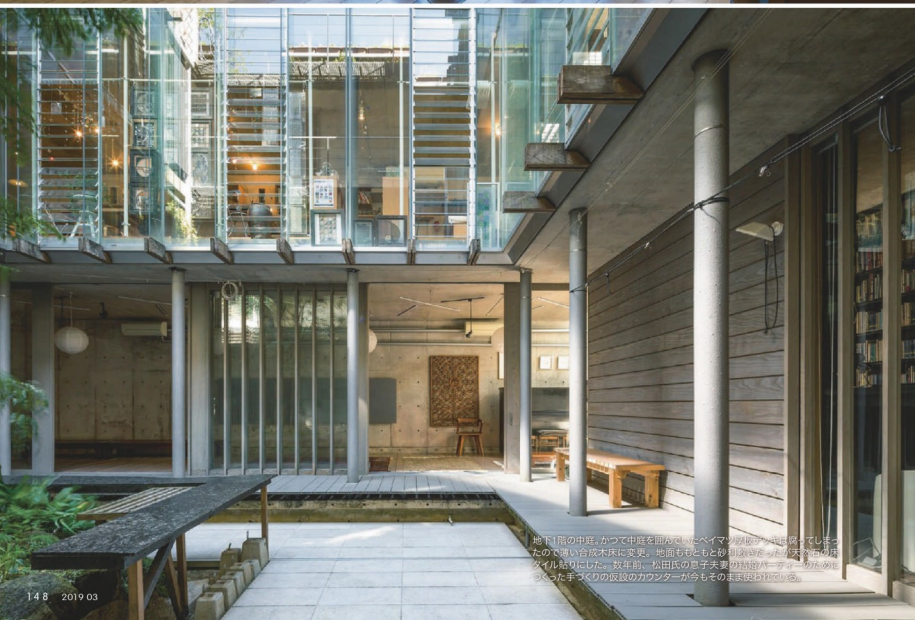
私はハウスMが示す気や光、風、雨、音の流路となるヴォイド・スペースが、媒介するフラジャイルな物質（粒子）に向き合う暮らしを検証したいと思った。住居の形式から生まれる太古の鼓動に身体を預けてみたかったのだ。それに加え、暮らしの裡で、中庭に表出する多くのブリコラージュされた素材、物質が放つ粒子世界を観想してみたかった。

ハウスMから改めて住居の力を感じとるためにその思考を探る。（真壁智治）

第19回前編

## 西麻布 HOUSE・M ―重層長屋―

設計　松田直則＋人・空間研究所
所在地　東京都港区
竣工　1998年
構造　鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
階数　地下1階　地上3階
敷地面積　220.08m²
建築面積　131.94m²
延床面積　416.61m²（地下室緩和による延床面積：292.32m²）

2階住居からカーテンウォール越しに中庭を見る。外階段を上ってすぐの入り口スペースにはダイニングテーブルがあり、写真左手には障子で仕切られた娘の部屋がある。家具の置き方によって空間の機能が決められている。

地下1階の中庭。かつて中庭を囲んでいたベイマツ厚板デッキは腐ってしまったので薄い合成木床に変更。地面ももともと砂利敷きだったが天然石の床タイル貼りにした。数年前、松田氏の息子夫妻の結婚パーティーのためにつくった手づくりの仮設のカウンターが今もそのまま使われている。

設計者論考

# 重層長屋の天井 セミ・パブリックな場所をつくる

**松田直則**（建築家・ハウスM設計者）

自分が設計した家をハウスMと名付け、気遣いしながら住んでいる。築20年、あちらこちら手入れをし、住み方を変えてきた。長い間プログラム不在だった重層長屋の最下階は、さまざまな使い方ができるようにしている。催しに人が集まり、それを楽しんでいる人たちの動きがある時、ハウスMの表情も生き生きとする。それを観るのが私の歓びになっている。この家を活かすことが今の私の仕事だ。

ハウスMにセミ・パブリックな場をつくろうとさまざまな試みをしてきた。客人を自邸に招き入れる「晴れ」の場の再現を目指している。昭和の中葉まで多くの家では表と裏の場所が隣り合って存在していた。客をもてなす「晴れ」の場と、家人が日常生活する「穢」の場が共存していたかつての家では、玄関と応接間、書斎などに訪問者を迎え入れるのが常識だった。プライバシーとセキュリティが住まいの優先条件になった家の中に、人を招くことはほとんどない。友人との食事会はレストランで、身内の祝い事もホテルでする。訪問客を受け入れる交流の場が家から離れていったことを残念に思う。

数年前、ハウスMの1階にアイランド・キッチンをつくった。料理が好きな人たちが集い、旅の話をする。また地階を開放し、新たな交流を生む場所にしたいと考えた。若い陶芸家や能楽師、舞踊家を呼んで制作のプロセスを聞き、大勢の人たちと一緒に芸の裏話に興じられる機会をつくった。異分野、異業種の人たちが集い新しいものに触れ発見するのは楽しい。馴染みが薄い伝統文化や未完成なアートとの親密な時間を、他の人たちと共有できる場にしたい。企画イベントにお茶の時間を添え、集まった人たちとその余韻を楽しむことも大切にしてきた。

アートはもともと生活の一部、日常生活の中の風景だった。家の中にあったアートは理解するものというより楽しむものだった。家の中での生演奏は、コンサート・ホールで聴くのとは異質な音楽だ。かつてアートは家の中に居場所があったから、美術館の芸術作品やコンサート・ホールの音楽も身近にあり、アートの社会性が培われていたのだと思う。ハウスMの最下階の空いていたスペースに、知的生産の場と芸術の置き場所をつくりたいと思った。家の中の「晴れ」を復活させる。パブリックではなくてセミ・パブリックなスペースをつくる。そこには「センス・オブ・ウィットネス」に違いがある。つまり「誰」と確認できる人が居ることを許される場所だ。ここでは視覚的なコミュニケーションに暗黙の了解がある。その場に入ることが許された人たちはお互いに何か共通する存在理由をもっている。重層長屋の通路と階段はセミ・パブリックな空間であり、前面道路から少し奥まったところに見えがくれする「天井（てんじん）」が、ハウスMでのそれを特徴づけている。

「天井」は中国の伝統的な民居の、中心軸を構成する中庭のような空間をいう。「井」は井戸のこと、地面を掘って水が出るところに人が住むということからきたらしいが、真相は分からない。私が26年間暮らした香港には、海の神様を祀る廟が多い。そしてどの廟にも「天井」がある。高い屋根の軒下から吊り下げられた多数の、巨大な線香から立ち上る白い煙が「天井」を通って空に昇り、差し込む強い陽光で白い煙が美しく光る。そこには地から湧き、空に昇る空気の流れ、「気」が感じられた。その「気」が流れる「天井」を、家という概念の中心軸にしたいという思いがあった。

廟だけではなく中国各地に散在する「客家（はっか）」でも「天井」は象徴的な存在だ。中国の伝統的な民居では多数の世帯が一緒に生活する共同体の芯になっている。空を四角く切り取り、地面を四角く切り下げた「天井」には天地軸が生まれる。居住空間が周囲をぐるりと囲んで、真ん中に四角くぽっかり空いた空間は、機能のためにつくられたものではない。地面の四角い水面と、四角く切り取られた空を見上げるだけの開かれた場所として「天井」はある。これがハウスMの設計の原点であった。

個人住宅の設計は本来、機能的な課題を設定し、それから住み心地のよさや建主の志向を空間言語化することから始めるものだと思う。しかしハウスMでは「天井」が先で、そこから発生する機能的な問題には妥協しながら、住み方の考え方を変えてきた。空間が機能を限定しないということは大切なことだ。いろいろな機能に対応できる空間の非限定性を拠り所にしながら、設計課題の重心はセミ・パブリックな領域のつくり方にあった。道路から建物の下の駐車スペースの向こうに「天井」が見える。そこを抜けて見上げると空がある。これも香港の廟での体験からきているが、内部空間に「ソト」を発見した時の意外性を演出している。

「重層長屋」という建築のプログラムにおける「長屋」は共同体を示唆する言葉だ。自分たちの生活を護る工夫と同時に、隣家との交流を触発することの大切さを考える時、長屋の路地空間の効能に思い当たる。緩く感覚を共有しながら、他者と繋がり合える関係をつくる。このようなことが期待される場がセミ・パブリックなのだ。長屋には道や隣家とのよい関係をつくるために設計者が考えるべきヒントがあり、街づくりの基本がある。このことを考える枠組みが「重層長屋」という設計概念のメリットなのだと思う。

安徽黟縣呈坎古镇の民居に現存する「天井」。

安徽黟縣碧山村の民居に現存する「天井」。

2点撮影：松田直則

# 都市に生き、都市をつくる

畝森泰行（建築家）

## 都市の曖昧さ

これまで多くの建築家が都市住宅をつくってきた。小さな敷地や厳しい法規、採光や通風、またプライバシーなど都市住宅がもつ複雑な課題に対してさまざまなアイデアが生まれ、多くの試みがなされてきた。「都市とは歴史によってつくられた芸術作品である」※1とアンリ・ルフェーヴルは書いたが、その時代その時代に生きる多様な考えや価値観が重なり、今ある都市がかたちづくられた。それは都市という言葉や意味が漠然としたイメージであるが故に、僕たち建築家のさまざまな解釈を可能にしてきたからではないだろうか。たとえばある時代には都市に果敢に立ち向かう住宅が生まれ、またある時代には壁を立てて閉ざし、その一方で都市と寄り添う住宅もつくられた。そういうさまざまなアプローチを可能にしたのは、何より都市の曖昧さによるものであり、その曖昧さは僕たちの想像力を大きく掻き立てる。

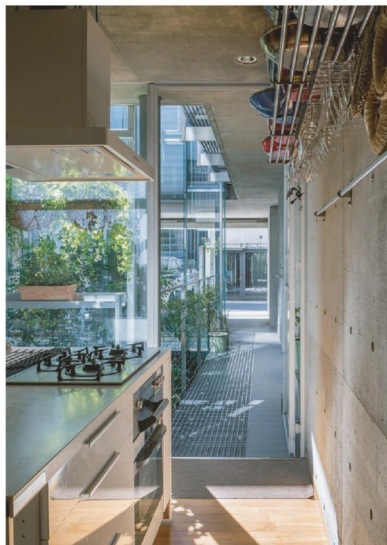
中庭から地下1〜3階を見る。中庭から各層のスラブが薄く見えるように、床を無梁にして、その先端を鉄骨のGコラムで支えている。中庭を室内に見立てて、通常は室内側に立てられるガラスのマリオンを外に向けている。3階の滑り出し窓は防水と断熱機能を確保するため、数年前ジャロジー窓から変更されたもの。写真両側のオーニングや正面の仮設庇も竣工後に付けられた。

## 動的な建築

松田さんの自邸ハウスMが完成した1990年代後半は情報化が浸透し始め、グローバリゼーションの波がまさしく押し寄せてきた時代である。環境問題も顕在化し、そのため都市住宅も他者との関係を求めるように開かれたものが多く生まれ始めた。松田さんは建築家として香港、ロンドン、東京と複数の都市を渡り、その世界の広がりとシームレスな連続性に多分に影響を受けたはずだ。なかでもさまざまなものや人が行き交う香港の流動性や雑多さはハウスMと大きく関係しているように思う。

ハウスMを特徴づけるのは、やはり中央にある吹抜け状の中庭だ。光と風を取り入れるその中庭は約7.5×6.5mの広さをもち、周囲を奥行きの浅い内部空間がぐるりと囲んでいる。細い道路に面するガレージを抜けると地階から地上3階まで、計4層分のファサードが一挙に目に入る。ジャロジー窓やFIX窓、突き出しに引き違い、また木製の引戸など実にさまざまな開口部が中庭を覆い、さらにガラスのマリオンが宙に突き出し、最上階と最下階では柱も露出している。ガラス越しには2世帯分の家具や本、壷などの小物に植栽、カーテン、自転車まで見え、さらによく見るとアルミの角パイプでつくった縦樋がサッシ際にぶら下がり、竣工後に取り付けられた目隠し用のFRPグレーチングや可動のオーニングが跳ね出ている。屋上では日除けの布が風に揺られ、ジャロジー窓の繊細なガラスには青い空と次第に動く雲、そして太陽の光がチラチラと反射している。中庭に見えるこれらの光景はひと言では言い表せないほど複雑かつ多様であり、また大変心地のよい空間だった。

実は約20年前、竣工した直後にもこの住宅を訪れたことがある。中庭を囲むガラスのファサードは透明かつ煌びやかで、それは都市住宅のクールさと東京という大都市の直接的な表現に当時は思えた。しかしそれから随分と時間が経

1階のキッチンとダイニングのスペース。4年ほど前にアイランド・カウンターをつくり、2階居室にあった床板を再利用した長テーブルを置いて、料理と食事を楽しむ交流の場とした。奥はガラス作品のアトリエに繋がる。

1階のキッチンから外廊下を見る。中庭とオープンな駐車スペースの先に前面道路まで見通せる。

ち、この住宅は変化している。香港製のバスタブやシンガポール製のジャロジー窓、香港で調達し東京の現場に輸送したという外周ガラスの窓枠やドア枠などは竣工時からのものだが、ジャロジー窓は一部FRP製窓に変更。香港製折りたたみ戸の外側の風除け用パティオや、中庭に面した西側開口部の目隠し、取り外し可能な日除け用オーニング、パネルヒーターなどが付け加えられた。さまざまな場所から寄せ集められ、付け加えられたものたちは一見すると雑多かつアクシデントとも呼べる状況だが、それらを懐深く受け入れてきたこの住宅には、さまざまなものが混在し更新していくことを肯定する、寛容でおおらかな空気が流れている。このいわば動的な建築を松田さんは時間をかけてつくり上げ、それは有形無形問わず多様なものを飲み込む大都市香港を彷彿させる。

### 規定のない空間

この動的な建築は、中庭のつくられ方と切っても切り離せない。まずそのスケールが特徴的だ。この中庭は平面こそ住宅的なサイズだが、断面方向では地階レベルから約15m、屋上階の屋根まで含めると18m近くの高さがある。まるで小中規模ビルのようなスケールであり、そのため中庭という閉鎖的な形式でありながらも独特な高揚感と開放性をつくり出している。次に機能がないことも重要だ。地階以外の地上3フロアの中庭は吹抜けになるため当然床がない。通風や採光という環境的な役割以外の機能がないため、同平面の中に大きな「余白」が生まれている。中庭まで地続きなコートハウスと異なり、対面する部屋との間に「余白」があることで同じ住宅でありながらも他者のような不思議な距離をつくり出した。

そういう「特殊なスケール」と「無機能さ」が重なることで、何にも規定されない空間が建物の中心に現れた。それ故にさまざまなものを受け入れ、ここでの住まい方やそのプロセスさえも柔軟に取り込んでいく。賃貸や短期宿泊、オフィス、アトリエそして家びらきのイベントに至るまで、使い方や集まる人びとの変遷とバリエーションは多岐に渡った。もはやこの建築は住宅なのかオフィスビルなのか、はたまた集会所なのか、既存のビルディングタイプの枠組みでは捉えられないものになっており、それは機能では括られない「都市にどう住むのか」という普遍的な問いを僕たちに投げかけているように思う。

### 都市の想像

都市は曖昧であるが故に僕たちに自由な想像の余地を与える。その曖昧さをハウスMは空間化したのであり、それは松田さん自身の都市像にほかならない。ここには世界中からさまざまなものと人が出入りし、混沌としながらもゆっくりと、そしてダイナミックに日々変化していく。有機体のように変わるこの建築は、人間が共に住み都市に生きる創造性を示し、またこれからの建築をつくるうえでの大きな可能性も示す。ハウスMが描くその都市像と、またそれをイメージし、かたちにしようとする松田さんの建築家としての姿勢に僕は大変共感し、そして勇気づけられる。

注釈
※1：アンリ・ルフェーヴル著『都市への権利』（森本和夫訳、筑摩書房、2011年）

**うねもり・ひろゆき**
1979年岡山県生まれ／2005年横浜国立大学大学院修士課程修了／2002〜09年西沢大良建築設計事務所／2009年畝森泰行建築設計事務所設立／2012〜14年横浜国立大学大学院Y-GSA設計助手／現在、横浜国立大学、日本女子大学非常勤講師

# 共に住まうこと、住まいを開くこと　前編

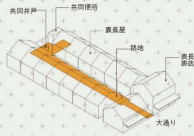
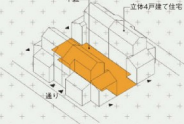
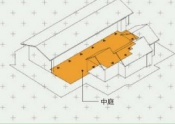
## 〈長屋形式〉の系譜とハウスMの位置づけ

調査：東京電機大学 日野雅司研究室
修士2年　笠原真紀　原寛弥　松橋実乃里
修士1年　石井亨和　駒澤直登　小山竜二　庄井早緑
学部4年　加藤未来　川田啓介

ハウスMの特徴である長屋形式は、日本の代表的な都市型集合住宅のかたちである。道路・通路に対してすべての住戸が玄関をもつことで、ヴォリューム配置の効率性と各ユニットの独立性が両立する低層集合住宅の形式である。

そこで、「共に住まう」かたちとしての長屋形式に着目し、その系譜を辿る。するとハウスMが成立した1990年代末を境として、さまざまな工夫を凝らした長屋形式が増えたことに気づく。

その理由のひとつは、バブル崩壊後にミニ開発による高層住宅の建設が一段落し、旗竿敷地などの不整形で狭小な敷地を用いた住宅建設に注目が集まったことが考えられる。1953年に施行された「東京都建築安全条例」をはじめ、自治体で「路地状敷地」への共同住宅の建設が制限されたこともあり、市街地の有効利用の方策として長屋形式が採用されている。建築家はさまざまな制約の中でも、長屋形式に豊かな共同性を与えてきた。

長屋形式の系譜の中で見ると、ハウスMは重層長屋と中庭型を組み合わせた構成である。しかしその中庭はプライバシーを確保するだけでなく、ガラスカーテンウォールが外の景色を写す、いわば周辺環境を取り込む装置として働いている。また、最下層の住戸を専有化せずに「家びらき」の場として利用していることなど、後の長屋形式に先だった新しい住居のかたちを実現していることが分かる。「共に住まうこと、地域に開くこと」というテーマが、この長屋に結実している。

1970　1980

江戸の裏長屋
「向こう三軒両隣」「井戸端会議」など、さまざまな都市型コミュニティの原型となる住宅

同潤会の普通住宅「荏原住宅」
4戸／200m²(1棟あたり)／地上2階／1924年
東京郊外に建設された、木造の長屋形式住宅

タウンハウス諏訪
都市整備東京公団支社・山設計工房
・みのべ建築設計事務所
58戸／5,040m²／地上2階／1979年

アトリウム
早川邦彦建築研究室
11戸／999㎡／地上2階／1985年

ラビリンス
早川邦彦建築研究室
22戸／1,339㎡／地下1階 地上5階／1989年

1990

HOUSE5
奥山信一＋若松均／DECK5設計
5戸／308m²／地上2階／1991年

Kフラット
東孝光＋東環境・建築研究所／東利恵
4戸／766m²／地上3階／1991年

ネクサスワールド レム棟・クールハース棟
OMA
37戸／5,776m²／地上5階／1991年

# 2000s~

## 2000年代以降の長屋 「複合化による多様な進化」

2000年代以降、長屋形式は急速に発展し、さまざまな集合住宅の「型」をつくり出した。中庭だけでなく、店舗や集会所を組み合わせたり、専有化された樹木や菜園を視覚的に共有できるような例も現れている。
2019年現在、東京都では長屋形式の規制を強める条例改正を予定している。今後の長屋のあり方を、注視する必要がある。

**中庭アクセス型**

中庭

NEアパートメント
ナカエアーキテクツ／高木昭良
8戸／289m²／地上3階／2007年

中庭

八雲コートハウス
飯田善彦
9戸／747m²／地下1階 地上3階／2013年

植栽
中庭

緑ヶ丘コーポラティブハウス
若松均建築設計事務所
9戸／576m²／地下1階 地上3階／2015年

中庭

SASU・KE
篠原聡子＋金子太亮／空間研究所
9戸／446m²／地下1階 地上2階／2017年

**通り抜け中庭＋共用部＋屋上型**

屋上菜園
通り抜け中庭
カフェ

STITCH
千葉学建築計画事務所
15戸／969m²／地上2階／2009年

**中庭専有型**

専有中庭

SLIDE西荻
駒田建築設計事務所
9戸／748m²／地下1階 地上3階／2008年

**路地型**

中庭
専有庭

鹿手袋の長屋
生物建築舎
14戸／751m²／地上2～3階／2014年

路地

spread
山代悟+ビルディングランドスケープ
22戸／811m²／地下1階 地上3階／2007年

**通り抜け中庭＋共用部型**

オーナー住戸
通り抜け中庭

tetto
SALHAUS
9戸／467m²／地上2階／2014年

**路地＋共用部型**

路地
アネックス

Dragon Court Villege
Eureka
9戸+2室／508m²／地上2階／2013年

**通り抜け中庭型**

通り抜け中庭

コートデコ尾山台
田井勝馬建築設計工房
14戸／1,286m²／地下1階 地上2階／2005年

通り抜け中庭

slash/kitasenzoku
空間研究所
4戸／160m²／地上3階／2006年

**テラス型**

プライベートテラス

大森ロッジ 運ぶ家
古谷デザイン建築設計事務所
2戸／142m²／地上3階／2015年

**屋上菜園型**

屋上菜園

サイエンナガヤ
吉村靖孝建築設計事務所
6戸／313m²／地上3階／2017年

ハウスM　2000～

# House・M

西麻布 HOUSE・M―重層長屋―
松田直則＋人・空間研究所
3戸／416m²／地下1階 地上3階／1998年

### 「ウチ・ソトを繋ぐ中庭」

ハウスMは地下1階に中庭をもった3住戸の重層長屋である。
中庭は最下階の住戸が専有しているが、上下を繋ぐヴォイドとしての役割をもっている。
中庭は駐車スペースを介して敷地の外へと連続し、中庭のガラス面がソトの様子を映しだす。

### 「開かれた住戸」

最下階の住戸はこれまで住居や事務所などさまざまに利用されてきた。現在は空き部屋となり、オーナーである松田夫妻により展示や講演、お茶会などのさまざまな催しが頻繁に行われている。「家びらき」の場として利用される住戸である。

インタビュー

# 「何でもない空間」をもつ重層長屋

**朱暁雲**（ハウスM住人）、**松田直則**（ハウスM設計者・建主）、**真壁智治**（プロジェクトプランナー）、**日野雅司**（建築家）

**中央の中庭を囲んで3世帯が重層する長屋ハウスMは、1998年に都心の住宅地で竣工しました。今回は松田さん、松田さんの奥様である朱暁雲さんに、設計時のお話や、その後のハウスMでの暮らしを伺います。　（編）**

### 中国民居と「天井（てんじん）」

**真壁さん**　ハウスMの竣工から約20年経ちました。重層長屋の形式をもち、複数の世帯がガラスのカーテンウォールに囲まれた中庭を共有していますが、朱さんはプライバシーなどの面でここでの暮らしに最初から抵抗はなかったのでしょうか。

**朱さん**　私の祖父が住んでいた北京の四合院は大家族で住むのが普通で、方形の中庭を三代同堂（祖父、子世代、孫世代が一堂に住むこと）で囲む住居形式です。子供の頃は毎週のように従兄弟家族とそこに泊まりに行っていたので、親しい人たちと同じ場所に住むことには抵抗がありませんでした。四合院は外に対しては大門でしか開かれていませんが、中庭を巡っている居室棟には花窓があり、中庭に対してはスクリーンで仕切られているだけでオープンです。中庭は4角に樹があり居心地のよい皆の場所です。私は北京出身ですが1981年に留学のため東京に来て、東京藝術大学大学院に在学中、中国民居研究をしている茂木計一郎先生の調査グループにいました。松田さんがハウスMを設計している最中には、よく安徽省民居の「天井（てんじん）」の話が出たことを思い出します。現代では安徽省でも「天井」のある民居に住むことはほとんどなくなりましたが、人が住んでいない民居にも祖先が祀られていて、「天井」に面してはテーブルとイスなどが置かれ、家族の集まりの象徴的な場になっています。

**真壁さん**　ハウスMの構成と、朱さんが幼い頃に馴染んでいた環境モデルとが近似していたというのには縁を感じます。ハウスMの発表時、松田さんは屋根に囲われた中庭である「天井」が忘れられず、ここで内なる「ソト」をつくりたかったと書いています（本誌9909）。ハウスMにおけるヴォイドの垂直軸の存在感も、20年経って住居の力として熟成したと感じます。

**松田さん**　中国の民居に見られる「天井」をモデルにしたいというこだわりは設計当初からありました。中央の中庭は設計手法として取り入れたわけでも、機能的に何かのアクティビティのためにつくったのでもなく、「何でもない空間」をつくりたかったのです。「天井」との出会いは1983年で、香港の文武廟での空間体験が今でも脳裏に焼き付いています。私がフォスター・アソシエイツの、「香港上海銀行」のデザインチームのメンバーとして香港に着いたばかりの頃でした。香港在住は26年になりますが、その間、中国各地の民居を見てまわり、生きた「天井」を見ることができました。大陸の民居では「天井」がコミュニテイの核として働いていました。

ハウスMの設計を始め、ここに「天井」をつくりたいと模索していた時、日本の法律用語に「重層長屋」という形式があることを知り、これだと思いました。つまり「天井」を軸に3世帯の住まいを縦方向に積み重ね、独立した3つの入り口に至る通路を視覚的に繋ぐというプログラムが明確になりました。

**真壁さん**　ハウスMが発表された1990年代後半は、グローバリズムの進攻につれて日本では異様に都市や建築に対するクリティークがネガティブになっていた時期で、中心軸にヴォイドをもつ重層長屋という空間モデルに関する議論もあまり活発ではなかったように思います。2000年に入ってそういった議論が一気に活発になりましたが、ハウスMを議論する場は不足していた。だから今回、竣工から20年経ち、ハウスMを改めて評価すべき時期に来たという感じがするのです。

**松田さん**　その頃私は日本にいませんでしたので、欧米の建築ジャーナルを通じてしか日本の建築家の記事を見ていませんでしたが、当時は個々の建築家による設計理論や手法が頻繁に取り上げられていました。その頃は欧米でも建築がブランド化する傾向があり、個性を売る商品価値のようなものが建築に求められていたと思います。そういったジャーナリズムに対し私は違和感を感じて、距離を取っていました。

私が学生だった頃は、建築設計や建築計画という仕事に対していつも懐疑的でした。東京藝術大学の先輩たちによるデザインサーベイに刺激され、同級生たちと下津井の街並みの実測調査をしたりもしましたが、それでも建築家という仕事は一体何なのかと自問自答していました。

**真壁さん**　そういう時代を経て、ハウスMが模索的にできたことに意味があると思います。

### 素材や技術のブリコラージュ

**日野さん**　長屋のような低層の集合住宅に、地域や社会に開かれた共用空間をセットで計画するというのは、今まさに私たちの世代の建築家が積極的に取り上げている、「家びらき」や「シェア」という言葉で語られる住まい方のモデルだと思います。ハウスMは20年前にその原型ともい

3階の住人の仕事場である1階の建築ガラスのアトリエ。

地下1階のイベントスペース。奥には小さな光庭がある。

える空間構成を実現している、という見方ができます。しかし一方で、実際に訪れると構成だけではなくこの空間に溢れる物質の潤沢さに圧倒されます。

**真壁さん**　松田さんの経験からくる中国の民居のような構成や「天井」の考え方、日本の法律や規制から決まること、さらにイギリスのフォスター・アソシエイツで身に付けたカーテンウォールの技術など、さまざまな考え方や知識が混ざってハウスMができています。さらに20年という歳月が加わり、マテリアルやエンジニアリングのブリコラージュが行われているというのが面白いです。

**松田さん**　「香港上海銀行」の建設現場で体験したデザイン・ディベロップメントやコントラクト・マネジメントという考え方が、ハウスMでのブリコラージュの発想源になっています。当時フォスター・アソシエイツは契約のための図面を描かず、サブ・コントラクターに詳細図を描かせ、製品を保証する義務を課していました。ハウスMのカーテン・ウォールも、私の指示図をもとにエンジニアが契約書なしで製品保証をする詳細図を描いてできました。窓やドアのサッシュは鉄の押し出し型で、香港に残っていた唯一のメーカーに直接発注しました。一括請負工事契約ではなく、自分の手が届く範囲でデザインの解決を考えていくという意味では、情報のブリコラージュとも言えます。字義通りの「器用人の仕事(ブリコラージュ)」という意味では、ハウスMに住み始めた2013年以降、修繕や改修などをたくさんしてきました。その都度ホームセンターやショールームに足を運んで自分で材料を調達してきました。住宅のできるだけ多くの部分を未完成にしておいて、住みながら手を加えていくというのは自邸ならではの魅力です。

### 社会と関わる場としての住まい

**真壁さん**　これからの超高齢社会におけるハウスMの可能性や、都市住居としての暮らしのビジョンを伺いたいです。

**松田さん**　家の一部分を解放して定期的にイベントを企画しています。これはハウスMの最下階がもともと未完成で使われておらず、2階に私たちが住み始めてから、場所の使い方を考えていく中で出てきたアイデアです。3階には私の大学時代からの友人である夫婦が、ハウスMの竣工時から今までずっと住んでくれています。奥さんは建築のガラスウォールのアーティストで、1階の一部を仕事場にしています。お互い後期高齢者ですが、一世代若い朱さんが核となって一緒に楽しめる時間をつくっています。

**朱さん**　ここに住み始めた5年ほど前、私は仕事もしておらず日本に知り合いもいなく、どうやって社会との接点をつくるかが大きな課題でした。1階の半分は使われていなかったので、ここを人が集まる場にしたいと思いました。それで友人たちを呼べるキッチンとダイニングをつくりました。

**松田さん**　地下1階では、日本舞踊の踊り手や、友人の彫刻家や建築家を招いてレクチャーをしてもらったり、高野山の金剛三昧院の住職を呼んで瞑想会をしたり、薬膳の料理研究家を呼んで教室を開いたりしています。特に若い人たちが異分野の話に触れる機会を与えられる場にしていきたいと思っています。

**朱さん**　中国の民居が家族にとって象徴的な場になっているように、私は家というものを、毎日の生活をする場というよりは、人と関わる場として考えています。ハウスMに人が集まる場があることは私にとって大きな意味があります。「何でもない空間」がもともとこの家に用意されていたことがよかったのだと思います。

(2018年3月29日、ハウスMにて。文責:本誌編集部)

前面道路から見る全景。陰となった駐車スペースの先に4層分の中庭が現れる。

**後編では、日野雅司さんと東京電機大学日野雅司研究室の学生による座談会、調査後編、能作淳平さんによるエッセイを本誌2019年4月号にて掲載予定です。(編)**


**まつだ・なおのり**
1946年東京都生まれ/1972年東京藝術大学美術学部建築科卒業後、天野吉原設計事務所/1975〜81年英国ミルトンケインズ開発公社/1981年英国王立美術大学院環境設計修士課程修了/1981〜85年フォスター・アソシエイツ・ロンドン(現フォスター・アンド・パートナーズ)/1985〜2009年香港大学建築系副教授/現在、中国発展研究院区域緑色発展研究中心研究員

**しゅ・ぎょううん**
1981年中国からの第1期公式留学生として東京に来る/日本大学を経て東京藝術大学大学院修士課程修了/香港で中国プロジェクト・コンサルタント設計室を開設/現在、中国発展研究院区域緑色発展研究中心研究員

**まかべ・ともはる**
1943年静岡県生まれ/1969年武蔵野美術大学建築学科卒業/1972年東京藝術大学大学院建築専攻修了/同大学建築科助手を経て、1983年プロジェクトプランニングオフィスM.T.Visions設立/現在、同代表

**ひの・まさし**
1973年兵庫県生まれ/1996年東京大学工学部建築学科卒業/1998年同大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了/1998〜2005年山本理顕設計工場/2008年SALHAUS設立、共同代表/2007〜2010年横浜国立大学Y-GSA設計助手/2017年〜東京電機大学未来科学部准教授


中庭にテーブルと椅子を出して行われたインタビュー風景。右手前から反時計回りに朱さん、松田さん、日野さん、真壁さん。

## 第12回「建築九州賞」発表

去る1月26日、第12回「建築九州賞(作品賞)」が発表された。本賞は九州地方の地域性に立脚してその建築文化や環境形成の向上に貢献した、優秀な建築作品を表彰するもの。審査委員は福田展淳氏(元常議員)ほか9氏が務め、応募総数59作品(住宅部門30作品、一般建築部門29作品)の中から、住宅部門では吉永規夫+吉永京子+加納賢太氏の「佐世保のリノベーション」(本誌1804)と松山将勝氏の「海辺のすみか」が受賞した。その他受賞は下記の通り。

【住宅部門作品賞】
▷「佐世保のリノベーション」＝吉永規夫＋吉永京子＋加納賢太／Office for Environment Architecture ▷「海辺のすみか」＝松山将勝／松山建築設計室

【一般建築部門　作品賞】
▷「gallery cobaco」＝柳瀬真澄／柳瀬真澄建築設計工房

【JIA特別賞】
▷「本部町の新民家」(本誌1709)＝漢那潤／ISSHO建築設計事務所

*撮影／針金洋介　**撮影／石井紀久　***撮影／鳥村鋼一

「佐世保のリノベーション」。*

「海辺のすみか」。**

「gallery cobaco」。**

「本部町の新民家」。***

## 第8回サステナブル住宅賞発表

去る1月15日、一般財団法人建築環境・省エネルギー機構(理事長:村上周三)は審査委員会(委員長:木下庸子)による審査の結果、第8回サステナブル住宅賞の入賞作品を発表した。本賞は住宅として優れた作品であると共に、建築主、設計者および施工者の3者の協力により環境負荷低減に顕著な効果を上げ、その普及効果が期待される先導的なサステナブル住宅を顕彰し、サステナブル社会の形成に寄与することを目的とするもの。受賞作品は以下の通り。

【国土交通大臣賞】「阿知須・木と土の家」＝三好進／山口民家作事組(設計工房みよし)

【一般財団法人建築環境・省エネルギー機構理事長賞】「ライオンズ港北ニュータウンローレルコート ―パッシブとスマートを融合した次世代環境共生住宅―」＝IAO竹田設計＋三井住友建設一級建築士事務所＋ランドスケープ・プラス

【一般財団法人ベターリビング理事長賞】「瓦田の家」＝低燃費住宅九州WELLNEST HOME事業部

【一般社団法人日本木造住宅産業協会会長賞】「玄杢舎」＝川内玄太／藤城建設

【板硝子協会会長賞】「中太田の家」＝大共ホーム

【硝子繊維協会会長賞】「コヤトヤネ」＝三宅正浩／y＋M design office

詳細は下記ホームページ参照。
http://www.ibec.or.jp/sustainable/housing/8th/index.html

*撮影／田村寛　**提供／一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構　***撮影／笹の倉舎／笹倉洋平

左から時計回りに、「阿知須・木と土の家」*、「玄杢舎」**、「コヤトヤネ」***。

## 建築士事務所の業務報酬基準を10年ぶりに改訂

去る1月21日、国土交通省は業務内容の多様化など設計などの現場の実態を反映させるため、「建築士事務所の開設者がその業務に関して請求することのできる報酬の基準(業務報酬基準)」を10年ぶりに改訂し、公布・施行した。設計等の業務の難易度の反映方法を充実させ、標準業務内容の明確化(標準業務に含まれない追加的業務の明確化)などを行うため。詳細は下記ホームページ参照。
http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/jutakukentiku_house_tk_000082.html

## 平成30年新設住宅着工、持家と貸家が減少

国土交通省は平成30年の新設住宅着工は持家及び貸家が減少したため、全体で減少となったと発表した。新設住宅着工戸数は942,370戸で前年比では2.3%減となり、2年連続の減少となった。利用関係別戸数別に見ると、持ち家は283,235戸(前年比0.4%減、2年連続の減少)、貸家は396,404戸(前年比5.5%減、7年ぶりの減少)、分譲住宅は255,263戸(前年比0.0%増、4年連続の増加)となっている。地域別総戸数では首都圏は減少となり(前年比4.9%減)、中部圏、近畿圏では増加となった(それぞれ前年比3.2%増、2.6%増)。

## 東京都現代美術館がリニューアル・オープン

東京都現代美術館が、2016年5月から約3年にわたる大規模改修工事を終え、3月29日にリニューアル・オープンする。改修後はバリアフリーなどホスピタリティに配慮されるほか、美術図書室には新たに「こどもとしょしつ」を設置し、現代美術の普及と次世代の担い手を育む、あらゆる鑑賞者に開かれた美術館を目指す。木場公園側のアプローチを軸としたパブリックスペースも整備。サイン什器設計は長坂常氏(スキーマ建築計画)が手がける。

## 建築フィールドワークの系譜

**日本建築学会 編**

（B5判／138頁／3,024円／昭和堂）

実際に建築物がある場所に行き、その建築物や街並みを実測したり、そこに暮らす人びとと対話を重ねるフィールドワーク。さまざまな方法論が存在するが、本書では、居住の原理を探る（原広司研究室など）／集落世界をあぶり出す（畑聰一研究室など）／都市に生きる人びとの暮らしをとらえる（布野修司研究室など）／都市に堆積した時間を紐解く（陣内秀信研究室など）／居住文化から建築を読み解く（乾尚彦研究室など）、の5つの視点に分類し、それぞれの実測図面やスケッチ、スナップなどをもとに方法論を紹介する。ウェブ上に情報が溢れる現代だからこそ、自らの足で1次情報を構築するフィールドワークの可能性は大きい。巻頭には研究者の師弟関係などを踏まえた系譜図も収録。歴史を網羅的に把握するだけでなく、自分の興味関心に合った研究者や研究室を探す手がかりとしても役立つ。（kn）

## ディテールで語る建築

**内田祥哉 著**

（B6判／386頁／3,456円／彰国社）

本書は季刊雑誌『ディテール』での10年にわたる連載に加筆・増補して再編したもの。著者は終戦を東京帝国大学の学生時代に迎え、戦後復興の中、仕事を始めた。その後、開発と生産に向かっていた日本が維持管理の方向へと転換する現代に至るまで、激動の時代に建築設計、研究、教育活動をしてきた。40にわたる題材は寸法体系やモデュラー・コーディネーション（部品・部材の配列を調整すること）、プレハブやオープンシステムの研究から屋根や樋の納まり、階段や目地、タイルの模様など多岐にわたる。原理や実践を伴った広範な知識は現代にも活かされるものであり、特に日本の木造建築に蓄えられている知見には改めて驚かされる。建築の個々の部材が全体に関わっていること、そしてすべてのディテールが先人の知恵の集約で、そこにはつくる愉しみが溢れていることが分かる。（hry）

## 欧米の建築家 日本の建築士

**戸谷英世 著**

（B6判変型／202頁／2,052円／井上書院）

現代でもスクラップアンドビルドが絶えず繰り返される日本の都市。特にその対象となっているのが頻繁に変わる住まい手の影響を受ける住宅である。本書は、建設省住宅官僚を務めた戸谷英世が、欧米と日本の建築教育を比較し、日本の住宅制度や住宅建築設計の現状を考察したもの。氏は、明治期に近代建築を前提として始まった日本の建築教育は、人文科学としての歴史・文化・生活教育を無視してきたと批判。前半では、それぞれの建築教育によって生じた欧米の建築家と日本の建築士の職能や、設計・施工の仕組みの違いについて述べる。後半では、住宅とその周辺環境に生活の豊かさを重視する欧米と、住宅を産業のひとつとしてとらえる日本の、不動産に対する政策や利益の所在の違い、経営方法などについて語る。住宅産業や教育の成り立ちと現在の都市の関係が浮き彫りになる1冊。（soy）

## ジェイン・ジェイコブズ都市論集
### 都市の計画・経済論とその思想

**ジェイン・ジェイコブズ 著**
**サミュエル・ジップ＋ネイサン・シュテリング 編**
**宮﨑洋司 訳**

（A5判／472頁／4,104円／鹿島出版会）

『アメリカ大都市の死と生』（1961年）で知られるジェイン・ジェイコブズのエッセイ、講演、対談を集めた小論集。人と共にある都市の魅力をフィールドワークにより観察し、その複雑で高度な成り立ちを信じたジェイコブズは、10代の時フリーランス記者としてニューヨークでキャリアをスタートした。当時『ヴォーグ』に寄稿した記事からも都市を見つめる優れた観察眼が垣間見える。その後『アーキテクチュラル・フォーラム』誌に勤め、建築の専門家として、また社会活動家であり作家として、当時の都市計画（新しい高速道路建設やスラムクリアランスなど）を批判し、都市が持続し続ける経済原理について自論を展開。また都市にとって、小企業の活動の重要性を強く訴えた。89歳でその生涯を終えるまで、多分野に渡って人のための都市のあり方を追求し続けたジェイコブズの、知られざる思考と活動が明らかとなる。（yt）

## 「index architecture ／建築知」 建築のための知のインフラをつくる 発表シンポジウム

2019年1月24日
SHIBUYA CAST. SPACE（東京都渋谷区） https://index-architecture.com

「index architecture ／建築知」は、機械学習や深層学習など、今日急速に発展する人工知能を用いて、建築に関する情報の高度利活用を促進するため、2018年1月に新建築社が設立した研究プラットフォーム。研究アドバイザーとして日建設計DDL（デジタルデザインラボ）、砂山太一（sunayama studio）、木内俊克（木内建築計画事務所）が参画する。この設立を発表する本シンポジウムでは、参画者らが、発足以来1年間におよぶ基礎研究の成果と今後の展開を発表。さらに、ゲストを加えたディスカッションを通して、「index architecture ／建築知」が目指す建築業界における情報利用のあり方について意見が交わされた。

全体のマネジメントを担う砂山は、現在「index architecture ／建築知」が「データベース構築のための基礎研究」と「人工知能技術の基礎研究」のふたつから成り立っていることを説明。特に前者について、GoogleやWikipediaのような一般情報を扱うデータベースと比較した際に、より建築実務に貢献し得る情報のまとめ方を考えると「建築業界の知識体系に準拠したルール」が必要であるとした。そのために、まずは誌面として規格化された建築情報が蓄えられた『新建築』を研究対象として、誌面を「人間が読むための形式」から、「コンピュータが読むための形式」へと変換する手法を検証してきたことが解説された。こうした『新建築』のデータ構造の分析からは、建築データベースのルールや活用法を見出すことが可能であり、将来的には、解析・活用の対象を世の中に存在する膨大な建築情報へ広げていきたいと述べた。

角田大輔（日建設計DDL）は、設計業務を行う中で建築の知識へアクセスする方法・手段は、これまで個人的な経験に基づくもの（暗黙知）だったと指摘。これを、今日の技術を用いて誰もが共有できるもの（形式知）へ変えていく必要性について述べた。さらに、設計者らが建築を記述する建築の専門用語を分析することは、コンピュータがその意味を理解（自然言語処理）するうえで、最初のステージになるとした。シンポジウムでは、実際に機械学習、自然言語処理、画像分析技術を使い、『新建築』のデータベースを読み解いた事例を紹介。たとえば、この10年近くの『新建築』掲載作品は、従来の建築用途（ビルディングタイプ）に括られない複雑性・混在性があるとして、作品解説文をベースにクラスタリングを実施。設計者による文章表現から、新たな建築タイポロジーが現れることを示した。

その後、健康診断結果や手術動画などの医療関連情報を人工知能で解析し、治療方法を医師に提示するシステムを開発するMICINの巣籠悠輔と、特定分野に特化した自然文検索システムを構築する大日本印刷の青木修が、建築業界外における人工知能の先進的な導入事例について解説した。

続いて、中村健太郎（なかむらけんたろう事務所）をモデレーターに、木内、青木、巣籠、山梨知彦（日建設計DDL）によるディスカッションを実施。

山梨は、人工知能は専門家の仕事を駆逐するのではなく、むしろ専門家の知識や判断をエンハンス（強化）し、高次の専門性をもつことを可能にするだろうとした。こうした考えを受けて木内は、「index architecture ／建築知」が取り組む建築データベースの構築により、ゆくゆくは建築家の創造性をサポートし、設計における課題発見と、その解決への糸口を与えるツールをつくり出すことができるのではないか、と今後の展望を述べた。

プロジェクトの研究成果は、今後、随時公式Webサイトに掲載される予定。

2点撮影：新建築社写真部

上：砂山太一と角田大輔による研究概説。平日夜にも関わらず満席となり、建築分野における人工知能の活用に対する関心の高さを伺わせた。 下：イベント後半のディスカッション。左から、中村健太郎、木内俊克、山梨知彦、巣籠悠輔、青木修が登壇し、意見が交わされた。

## ワイルド・エコロジー：能作文徳展

**開催中** 2019年1月15日～2月22日
プリズミックギャラリー（東京都港区） http://www.prismic.co.jp/gallery

建築家・能作文徳の個展。タイトルには都市の中で力強く生きる、自立したエコロジーという意味が込められており、本展ではマテリアル、エネルギー、フードの3つの軸から「エコロジカルな建築」への思考と実践を紹介する。会場で配られるパンフレットには氏による論考が掲載されており、展示された一連のプロジェクトが形態、装置という側面だけでなく、環境や生態系に関連したネットワークという面からも思考されていることが分かる。たとえば「高岡のゲストハウス」（本誌1610）は建築を構成する「もの」のネットワークで考えたマテリアルフローを実践しており、自邸である「西大井のあな」（本誌1810）では都市から得られる資源やエネルギーのネットワークをいかに建築と繋げられるかを実践している。さらに氏が教鞭を執る東京電機大学での取り組みとして、食を起点とした共有の資源や空間である「フード・コモンズ」を主題としたリサーチや課題も展示。会期中には、太陽光により料理ができる「ソーラークッキング屋台」も稼働する。環境問題や気候変動に直面している今、建築に何ができるのか。思考と実践を繰り返す氏の姿勢からは、身近なものから生活、住まい、そして都市や建築をつくる枠組みが変わる可能性があることが示されている。

1・2撮影：本誌編集部 3・4提供：能作文徳建築設計事務所

1：会場風景。 2：「西大井のあな」1/10模型。 3・4：「ソーラークッキング屋台」。8本の真空2重ガラス管に食材を詰め、太陽光に当てて調理する。台は日光の当たる向きや場所に応じて移動させることができる。会場にはレシピなども展示。

# RCRアーキテクツ展　夢のジオグラフィー

**開催中**　2019年1月24日〜3月24日
TOTOギャラリー・間（東京都港区）　https://jp.toto.com/gallerma

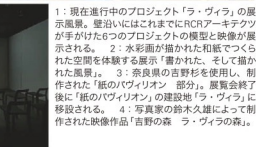
**ドローイングを感じること**

1月24日から展覧会「RCRアーキテクツ展　夢のジオグラフィー」が始まった。RCRアーキテクツは2017年にプリツカー賞を受賞し、次なるステップに興味が集まっている。本展では、そんな彼らの最新プロジェクト「ラ・ヴィラ」を中心に展示がなされている。「ラ・ヴィラ」は彼らの事務所があるスペイン、バルセロナの北東部、ジローナ県オロット近郊の広大な土地を舞台に、彼らの夢を紡ぐプロジェクトである。そこでは自然と融合しながらいくつかの建物をつくっていくのだが、その実体はひとつを除いて定かではない。そのひとつとは「紙のパヴィリオン」と名付けられた吉野杉を用いた小さな建物である。彼らの吉野杉との出会いは写真家である旧友・鈴木久雄の紹介によるものと聞く。彼らと吉野の山や杉、人びととの出会いを鈴木が見事に映像化し、会場で上映されている。また下階中庭では、原寸大の吉野杉による構造の一部が展示されている。吉野杉は地元の人びとからRCRアーキテクツに贈られたもので、このモックアップは展覧会後、スペインに輸送され実物の一部として使われるそうだ。

今回の展示物は、「ラ・ヴィラ」をイメージしたコンセプチャルな水彩画が大半を占める。下階にはその平面図が置かれ、上部にこれからできるであろう建築イメージがプラスチックの丸い板に記されて天井から吊るされている。また、上階には鈴木の映像以外に、大きな短冊型の和紙に描かれた水彩画が数十枚天井から吊るされている。カルマ・ピジェムはプレスカンファレンスでこの水彩画を「感じて」ほしいと述べ、イイノホールにおけるレクチャーでは、プロジェクトの説明に「魔術的」という言葉を多用し、それは説明しづらい感覚であると述べていた。彼らは言語化できない超越的な空気を送り出している。そしてそれを使う側に受け取ってほしいのである。そうした彼らの建築への姿勢は建築のつくり方にも見て取れる。3人のチームであるRCRアーキテクツの創作の現場では、3人の意思の流れがひとつに集まる時に建築が生まれる。そのため、彼らはプロジェクトの始まりに必ず水彩画を描き、感覚的な合流（共感）を確認する。そんな彼らの建築の現場がギャラリーに再現されている。

建築はひとつの論理構造であると同時に、情動の産物でもある。そして創作とはロゴスとパトスのせめぎ合いである。昨今、建築に限らず論理が必ずしも意思決定のすべてではなく情動の担う役割の大きさが再認識されている。建築は造形芸術としてそもそもそういう生成過程を通過してきたものが、モダニズム思考あるいは工学的な教育の中で創作的にも計画的にも論理化、科学化されてきた。その中で再度情動の産物としての建築を確認するよい時期にきている。その意味でこの展覧会はひとつのきっかけとして一見に値する。

私のように前者を重視した教育を受けてきた人間からするとRCRの創造のプロセスは新鮮であると共に忘れかけていた建築のもうひとつの基本を思い出させてくれる。　（坂牛卓／東京理科大学教授）

4点撮影／Nacása & Partners Inc.

1：現在進行中のプロジェクト「ラ・ヴィラ」の展示風景。壁沿いにはこれまでにRCRアーキテクツが手がけた6つのプロジェクトの模型と映像が展示される。　2：水彩画が描かれた和紙でつくられた空間を体験する展示「書かれた、そして描かれた風景」。　3：奈良県の吉野杉を使用し、制作された「紙のパヴィリオン　部分」。展覧会終了後に「紙のパヴィリオン」の建設地「ラ・ヴィラ」に移設される。　4：写真家の鈴木久雄によって制作された映像作品「吉野の森　ラ・ヴィラの森」。

# 子どものための建築と空間展

**開催中**　2019年1月12日〜3月24日
パナソニック 汐留ミュージアム（東京都港区）　http://panasonic.co.jp/es/museum

子供たちのためにつくられた学び／遊びの場の建築と空間の中から、日本の近現代の建築・デザイン史において、先駆的かつ独創的なものを紹介する本展。時代ごとに5章から成り、社会背景や制度の変化と共に、子供の空間がどのようにデザインされてきたかを豊富な写真や図面、模型と共に展示する。

1872（明治5）年の学制発布に伴い、普及し始めた学校建築。擬洋風建築の旧開智学校に代表されるように、当時の最新様式を取り入れたもので、地元の寄付や労力奉仕をもとに建設され、民衆の強い思いが建築化した様子が伺える。大正時代に入ると、児童文学や玩具などの消費・供給も盛んになり、それに伴うように教育・保育理念が空間に反映された建築が出現し始める。戦後は東京大学・吉武泰水研究室などをはじめとした建築計画学が発展。研究を元に子供の場の規範をつくろうとする動きが進むが、その中でも地方色や敷地に応答し、オリジナリティを探るものも多い。一方、規格化、画一化への反省から、子供が本来もっている力を伸ばすために、教育・保育方針と連動した個性豊かな建築群や遊び場のデザインが現れる。

未来を担う子供たちへのまなざしを通じて、当時の社会状況や価値観の変遷、これからの課題が明快に伝わる展覧会となっている。

1提供：旧開智学校／2提供：慶應義塾福澤研究センター、撮影：渡辺義雄
3提供：ゆかり文化幼稚園／4撮影：Katsuhisa Kida / FOTOTECA

1：旧開智学校（重要文化財）（1876年、設計：立石清重）
2：慶應義塾幼稚舎理科室内観（1937年、設計：谷口吉郎）
3：ゆかり文化幼稚園（1967年、設計：丹下健三）　4：ふじようちえん（2007年、設計：手塚貴晴＋手塚由比／手塚建築研究所／トータルプロデュース：佐藤可士和）

# バックナンバー・年間定期購読のご案内

## 年間定期購読料

| | | | |
|---|---|---|---|
| 新建築 | 毎月1日発売 | 12冊（1年間）消費税、送料込 | **24,684円**（税込） |
| 新建築 住宅特集 | 毎月19日発売 | 12冊（1年間）消費税、送料込 | **24,684円**（税込） |
|  | 3、6、9、12 月10日発売 | 4冊（1年間）消費税、送料込 | **10,284円**（税込） |

詳細については、弊社ホームページまたは右記の年間定期購読係までご連絡ください。

月刊『新建築』は1960年1月号より、月刊『新建築住宅特集』は1999年1月号より、季刊『JA』は1号（1991年春号）より目次などの内容が弊社ホームページにてご覧いただけます。

https://shinkenchiku.online

**お問い合せ**
〒100-6017　東京都千代田区霞が関3丁目2番5号
霞が関ビルディング17階
株式会社 新建築社　年間定期購読係
tel. 03-6205-4380　fax. 03-6205-4386（平日9:30 〜 17:30）
e-mail: business@japan-architect.co.jp

## バックナンバー取扱店

**※書店により、在庫状況は異なります。事前にお電話で商品在庫をご確認ください。またお取り寄せも可能です。**

**北海道**
MARUZEN & ジュンク堂書店 札幌店
（札幌市中央区）011-223-1911

**宮城県**
●丸善 仙台アエル店
（仙台市青葉区）022-264-0151

**新潟県**
ジュンク堂書店 新潟店
（新潟市）025-374-4411

**埼玉県**
ジュンク堂書店 大宮高島屋店
（さいたま市大宮区）048-640-3111

**千葉県**
丸善 津田沼店
（習志野市）047-470-8313

**東京都**
三省堂書店 神田本店
（千代田区）03-3233-3312
南洋堂書店
（千代田区）03-3291-1338
丸善 丸の内本店
（千代田区）03-5288-8881
八重洲ブックセンター
（中央区）03-3281-8203
代官山 蔦屋書店
（渋谷区）03-3770-2525
ブックファースト新宿店
（新宿区）03-5339-7611
○芳林堂書店 高田馬場店
（新宿区）03-3208-0241
紀伊國屋書店 新宿本店
（新宿区）03-3354-0131
ジュンク堂書店 池袋本店
（豊島区）03-5956-6111
青山ブックセンター本店
（渋谷区）03-5485-5511

**神奈川県**
丸善 ラゾーナ川崎店
（川崎市幸区）044-520-1869
■ACADEMIA 港北店
（横浜市都筑区）045-914-3320

**富山県**
BOOKSなかだ本店
（富山市）076-492-1192

**京都府**
丸善京都本店
（京都市中京区）075-253-1599

**大阪府**
柳々堂
（大阪市西区）06-6443-0167
ジュンク堂書店 大阪本店
（大阪市北区）06-4799-1090
○紀伊國屋書店 梅田本店
（大阪市北区）06-6372-5821

**岡山県**
■本の学校 今井ブックセンター
（米子市）0859-31-5000

**兵庫県**
ジュンク堂書店 三宮店
（神戸市中央区）078-392-1001

**鳥取県**
○ブックヤードチャプター 2
（米子市）0859-33-0222

**広島県**
ジュンク堂書店 広島駅前店
（広島市南区）082-568-3000
●フタバ図書MEGA祇園中筋店
（広島市安佐南区）082-830-0600
フタバ図書TERA広島府中店
（安芸郡）082-561-0770

**香川県**
○宮脇書店 本店
（高松市丸亀町）087-851-3733

**福岡県**
■紀伊國屋書店 福岡本店
（福岡市博多区）092-434-3100
ジュンク堂書店 福岡店
（福岡市中央区）092-738-3322

書店名の頭についた記号は以下の通りです。
無印 『新建築』『新建築住宅特集』『JA』
○　『新建築』『新建築住宅特集』のみ
●　『新建築』『JA』のみ
□　『新建築住宅特集』『JA』のみ
■　『新建築』のみ
△　『新建築住宅特集』のみ
▲　『JA』のみ

### 清里のグラスハウス

掲載：8-17頁

**山口工務店**
代表　山口利秋
今回の現場監督　清水道浩
規模　17名
所在地　**山梨県北杜市須玉町江草2608**
電話番号　0551-42-2046
http://www.yamaguchi-k.co.jp

COMMENT
**施工**　特注ガスケットによる全面トップライトという難しい工事内容でしたが、設計者の意図を汲み取り、難しい納まりにも積極的に取り組んでいただきました。OMソーラーと自然素材を組み合わせたパッシブ住宅を得意としています。
**工期**　厳しい状況の中、地元での強力なネットワークを活かし、最大限の努力をしていただきました。
**コスト**　施工手順や使用材料の工夫により、減額調整にも丁寧に対応していただきました。
（末光弘和）

### 方眼の間

掲載：18-27頁

**山下建設**
代表　山下辰信
今回の現場監督　山下裕大
規模　17名
所在地　**山口県下関市椋野町3-19-15**
電話番号　083-235-6633
http://yamashita-kensetsu.com/index.html
**最近施工した掲載作品**
「安閑居」高木正三郎（本誌1703）
「もじのどま」古森弘一（本誌1703）

COMMENT
**施工**　一緒に仕事をするのが11件目となる本計画では細かな納まりについても確認していただき、仕上げで隠れてしまうところも丁寧につくっていただいた。施工を始めるにあたり山下建設菊川工場にて原寸のモックアップを製作していただき、構造から仕上げ、照明までを建主と共に初期の段階から確認することができた。伝統技術を継承しつつ、新しい技術も積極的に取り入れる姿勢があるからこそ私たちも新しいことにチャレンジできている。
**工期**　柔軟に対応していただき工期を遵守していただきました。
**コスト**　決して安くはありませんが、今後も長く住む住宅において今回同様丁寧な仕事を提供していくためには適正な価格だと思っています。
（古森弘一）

### 玉城の家

掲載：28-35頁

**atelier NUK**
代表・今回の現場監督　佐々木幸史郎
規模　1名
所在地　**岩手県上閉伊郡大槌町字吉里吉里1-2-2**
電話番号　080-5463-6216

COMMENT
**施工**　丁寧でとても信頼でき、工事中も共に考えながら進めることができました。
**工期**　遠隔地の施工にも関わらずよく調整していただけました。
**その他**　大学からの友人で、工事の初めから一緒に検討を進めながらつくり上げられてよかったです。
（五十嵐敏恭）

### 長床の家

掲載：36-41頁

**Life style工房**
代表　安齋好太郎
今回の現場監督　古関秀章
規模　8名
所在地　**福島県二本松市油井字松葉山6**
電話番号　0243-22-1298
http://www.lifestylekoubou.com
**最近施工した掲載作品**
「堂前の家」安齋好太郎（本誌1806）
「渡りの家」安齋好太郎（本誌1802）
「Botanical House」安齋好太郎（本誌1708）

### 菰野の家

掲載：42-49頁

**リバティ**
代表・今回の現場監督　辻康宏
規模　1名
所在地　**三重県四日市市野田2-13-21**
電話番号　090-7614-2887

COMMENT
**施工**　三重での仕事はすべて施工していただいており、今回で3件目になります。辻さんには設計の意図をよく汲んでいただき、そのうえでご自身納得のいく仕上がりを目指して誠実に仕事を進めていただきました。お互いが尊重しあえる楽しい現場でした。また三重方面での仕事があればぜひお願いしたいと思っています。
**工期**　木工事は、棟梁の山中さんおひとりで手間を惜しまずに仕上げられます。存分にお力を発揮していただけるよう工期にはゆとりをもたせています。
**コスト**　適正な価格で、丁寧に質のよい仕事をされます。（出口佳子／杉下均建築工房）

### 松山の住宅

掲載：50-57頁

**世良建設**
代表　世良建二
今回の現場監督　世良正人
規模　8名
所在地　**愛媛県今治市宮ヶ崎甲882-34**
電話番号　0898-48-0274

COMMENT
**施工**　非常に優秀です。
**工期**　遅れもなく工程表通りに工事進行しました。
**コスト**　適正価格です。
**その他**　監督が建築への取り組みに非常に熱心な方で、安心して任せることができました。
（松本悠介）

### 町家倶楽部

掲載：58-65頁

**創建**
代表　有村忠一
今回の現場監督　長野貴子
規模　13名
所在地　**鹿児島県姶良市西餅田2821-3**
電話番号　0995-65-8000
http://www.sohken84.com

COMMENT
**施工**　自社物件のため設計側と現場側で腹蔵なく意見を交わしながら施工を進めた。2010年以来「現代町家」を共同で実施しているため気心が知れており、鹿児島県内の仕事はすべて共にしている。
（趙海光）

### シラス洞窟の家

掲載：66-73頁

**西山工務店**
代表・今回の現場監督　西山秀樹
規模　6名
所在地　**宮崎県都城市菓子野町11065-1**
電話番号　0986-45-4090
http://www.nishiyamahome.com

COMMENT
**施工**　西山社長自ら担当され、難しい要求にも的確な解決法を探り粘り強く施工してくださいました。
**工期**　厳しい工期でしたがよく対応していただきました。
**コスト**　VE案もしっかり考えていただき、適正な価格に納めていただいた。（石沢英之）

### 守山の地表と住処

掲載：74-81頁

**箱屋**
代表　松本繁雄
今回の現場監督　金子拓磨
規模　3名
所在地　**愛知県春日井市気噴町北1-32**
電話番号　0568-58-2263
http://www.hacoya.net
**最近施工した作品**
「ハマグリさん家」服部信康（本誌1804）
「haco（2+1+α）」服部信康（本誌1710）
「dog salon GRUM」畠中啓祐（本誌 1710）

COMMENT
設計段階から検討し続けていた部分の可能性を、一緒に時間をかけ検討し、つくり上げていただきました。挑戦する気持ちやよりよくする気持ちを社長、スタッフそれぞれが皆もっていて、頼もしい工務店です。また、業者のチームワークが素晴らしく、今回で引退される今井板金さんはじめ多くの方が前向きに取り組んでいます。
（倉橋友行）

### 船橋 梨園の家

掲載：82-89頁

**みくに建築**
代表　麻野那智子
今回の現場監督　中村真也　加藤大介
規模　8名
所在地　**千葉県船橋市芝山1-36-6**
電話番号　047-465-7131
http://www.mikunikenchiku.com
**最近施工した作品**
「台町の家」（本誌0306）

COMMENT
コンクリートと木との混構造で、難しい現場だったのにも関わらず、精度のよい仕事をしていただきました。建方にて、プレカットの仕口が現場打ち込みの金物となかなか合わず、何度も加工しながら合わせていたのを今でもよく覚えています。職人の方も皆さん和気あいあいとしており、通うのが楽しい現場でした。
（渡邉裕香）

### 日光の家

掲載：90-97頁

**カクニシビルダー**
代表　西村陽一
今回の現場監督　林晴矢
規模　38名
所在地　**栃木県鹿沼市上野町281-4**
電話番号　0289-63-6111
http://www.kakunishi.co.jp

COMMENT
**施工**　建築家の仕事に対する深い理解のもと、丁寧かつ誠実な対応をしていただけました。また大工棟梁の善林氏の高精度な仕事が印象的でした。現場担当の林氏のほかに代表の西村氏、見積り担当の高山氏、営業担当の鈴木氏らが定期的に現場に顔を出して下さったことで、建主・設計者とも安心感をもてました。
**工期**　建主の希望を考慮した、きっちりとした工程管理をしていただけました。
**コスト**　限られた予算の中で最大限の努力をしてくださり、細かな減額調整や追加工事についても丁重な対応をしていただきました。
（栃内秋彦）

### 寄棟の舎

掲載：98-105頁

**相宮工務店**
代表　相宮貞雄
今回の現場監督　前田公男
規模　16名
所在地　**岐阜市本町2-17**
電話番号　058-262-5505

COMMENT
**施工**　難しいトップライトや軒などの納まりを監督の前田さんが提案して綺麗に施工していただいた、とても優秀な工務店でした。
**コスト**　造成工事や施工方法の提案により、コスト調整がうまくいきました。本当に提案力のある監督さんです。（服部信康）

### 大津の住宅

掲載：106-111頁

**ダイコーホーム**
代表　辻川幹雄
今回の現場監督　伊勢村裕一
規模　12名
所在地　**滋賀県大津市唐崎一丁目16-21**
電話番号　077-577-2755
http://daikohome.jp

COMMENT
**施工**　監督さんをはじめ、若い方の多い現場で丁寧に精度の高い仕事をしていただきました。こちらの要望に対して柔軟かつ好奇心をもって取り組んでいただけました。（牧祐子）

### 防府の家

掲載：112-119頁

**銘建**
代表　青木隆行
今回の現場監督　新宅勝三　古谷栄基
施工図担当　新宅勝三　佐藤圭輔
規模　44名
所在地　**山口県防府市佐波1-9-5**
電話番号　0835-23-8500
https://www.meiken.jp

COMMENT
**施工**　すべての社員の方がたがこの住宅のために頑張ってくれる素晴らしい工務店です。精度の求められる納まりは、多くの施工図を描き、現場で設計コンセプトを職人さんに説明し続けてくれた新宅監督がいたからこその空間です。何度も困難を救ってくれた設計の佐藤さんや現場管理を助けてくれた古谷さん、そしてすべてを許容してくれた応援団長の青木社長、誰もが素晴らしい人たちでした。どこから見ても美しく仕上がっている建築は技術と人間美の双方があってできるんだなと思わせてくれる企業です。
（甲村健一）

## 間の間の家

掲載：120-127頁

**箱屋**
代表　松本繁雄
今回の現場監督　大村祐以
規模　3名
所在地　**春日井市気噴町北1-32**
電話番号　0568-58-2263
http://www.hacoya.net/index.html
**最近施工した掲載作品**
「ハマグリさん家」服部信康（本誌1804）
「haco(2+1+α)」服部信康（本誌1710）
「dog salon GRUM」畠中啓祐（本誌1710）
COMMENT
**施工**　箱屋さんとご一緒できて素晴らしかったことは、建築の設計趣旨を共有して一緒につくりあげていけたことです。関わってくださった方それぞれから、物をつくることの力を教えていただいたと思います。（高野洋平）

## 毛鹿母の家

掲載：128-133頁

**ヨシコウ**
代表　吉村正信
今回の現場監督　吉村真
規模　7名
所在地　**岐阜県中津川市落合336-1**
電話番号　0573-69-4331
http://yoshikou.jp
COMMENT
**施工**　長い付き合いの工務店です。こちらの要望や納まりの解釈も理解してくれていて、いつも助かっています。お互いことをよく知っているだけに、施工の要求レベルが高くなるので、毎回苦労をかけてしまっています。
**工期**　リノベーションは躯体が現れてからの変更が多く、設計変更により結論が出るまで時間がかかったり、工程管理は厳しかったと思います。それでも納得のいくものを提供しようと対応してくれました。
**コスト**　コスト管理は変更が多いぶん、苦労をかけましたが、変更見積もりなど紳士的な対応をしてくれました。（浅井裕雄）

## 竹林の家

掲載：134-139頁

**匠建築工房**
代表・今回の現場監督　撫養潤一
規模　5名
所在地　**兵庫県加古郡稲美町印南2529-1**
電話番号　079-441-9474
http://www.t93kk.com
COMMENT
**施工**　監督と棟梁を中心に各専門業者も含めてチームワークよく現場を進めていただきました。設計意図の読み取りも的確で、やりとりも要領を押さえてくださるので、遠方の現場でしたが安心感がありました。
**工期**　手間のかかる木工事が多くありましたが、頼れる棟梁の奮闘と社内の大工の応援でなんとか乗り切ってくださいました。
**コスト**　概算見積もりからお願いしましたが、当初の目算から外れることなく頑張っていただきました。
**その他**　また一緒に仕事をさせてもらいたい、そう思える工務店です。（奥野八十八）

## 鹿屋の家

掲載：140-145頁

**上谷田建設**
代表　上谷田浩幸
今回の現場監督　岩元孝
規模　12名
所在地　**鹿児島県鹿屋市寿2-14-35**
電話番号　0994-43-0020
https://kawaikennchiku.work
COMMENT
**施工**　現場監督が真面目で優秀な方で、図面を深く理解したうえで、工事をスムーズに進めていただけました。また、大工はじめ職人との連携がよく、優れた施工体制でした。難しい要求や納まりにも、丁寧に施工していただけました。
**コスト**　基本設計の段階から、社長が積極的に参加していただき、スムーズに進めることができました。難しい内容にも、前向きに対応していただき、大変感謝しております。
**その他**　私にとっては、車で4時間半かかる遠方の現場でしたが、対応・連携がよく、楽しく安心して進めることができました。（吉武研二）

# ARCHITECTS
## 建築家プロフィール

建築家情報
1. 今後予定しているプロジェクトや展覧会、講演会などの情報／2. Facebook、TwitterのURL
※1の作品名、竣工時期、展覧会、講演会情報は本誌発売時点での予定となります。

**末光弘和**（すえみつ・ひろかず）　**末光陽子**（すえみつ・ようこ）
（末光弘和・上）1976年愛媛県生まれ／1999年東京大学建築学科卒業／2001年東京大学大学院修了／2001～06年伊東豊雄建築設計事務所／2007年～SUEP.／2009～11年横浜国立大学大学院Y-GSA設計助手／2011年～SUEP.代表取締役／現在、東京理科大学非常勤講師
（末光陽子・下）1974年福岡県生まれ／1997年広島大学工学部第四類（建設系）卒業／1997～2003年佐藤総合計画／2003年～SUEP.／2010年広島大学非常勤講師／2011年～SUEP.代表取締役／2012～14年武蔵野大学非常勤講師／現在、昭和女子大学非常勤講師

2011年「地中の棲処」（本誌1007）で第27回新建築賞受賞／2011年嬉野市塩田中学校改築工事プロポーザル・嬉野市社会文化体育館建設工事プロポーザルにて最優秀賞受賞／「向日居」（本誌1211）で住まいの環境デザイン・アワード2013グランプリ受賞／「2018年「淡路島の住宅」（本誌1804）でグッドデザイン賞グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）受賞／2018年「清里のグラスハウス」（本誌8頁）で平成30年度山梨県建築文化賞受賞／著書に、『風のかたち　熱のかたち　建築のかたち』（2015年、新建築社）『SUEP.BOOK1　Work Collection』、『SUEP.BOOK2　Design Theory』（2015年、田園城市）

**▼ 建築家情報**
1.「那須の森の宿泊施設」（栃木県那須塩原市／2019年5月）「浅草のリノベーション」（東京都台東区／2019年8月）
「ミドリノオカ学芸大学」（東京都世田谷区／2020年2月）

SUEP.　東京事務所　〒158-0082 東京都世田谷区等々力2-16-3-301　tel. 03-6411-6728　fax. 03-5707-6707
info@suep.jp　http://suep.jp

**古森弘一**（ふるもり・こういち）　**橋迫弘平**（はしさこ・こうへい）　**穴井健一**（あない・けんいち）
（古森弘一・上）1972年福岡県生まれ／1998年明治大学理工学研究科博士前期課程修了／1998～2003年ブラックステューディオ／2003年古森弘一建築設計事務所設立／2010年～九州大学、九州工業大学非常勤講師
（橋迫弘平・中）1977年福岡県生まれ／2002年明治大学理工学研究科博士前期課程修了／2003～04年アーバンフォース／2004年～ 古森弘一建築設計事務所
（穴井健一・下）1987年福岡県生まれ／2012年北九州市立大学大学院国際環境工学研究科博士前期課程修了／2012 ～ 14年上海万谷建筑设计有限公司（中国／上海）／2014年古森弘一建築設計事務所

2014年「九州工業大学製図室」（『新建築』1309）で第7回建築九州賞一般建築部門作品賞、第42回日本建築士会連合会奨励賞／2015年「総合防災航空センタープロポーザル」でくまもとアートポリス佳作／2015年「福岡県弁護士会館プロポーザル」で最優秀賞／「無量光明圓寺納骨堂清浄殿」（『新建築』1410）で2016年第17回JIA環境建築賞優秀賞、2018年第16回 環境・設備デザイン賞2017 建築・設備統合デザイン部門最優秀賞

**▼建築家情報**
1.「門司港駅レストラン」（福岡県北九州市／2019年3月）「池田保育園」（福岡県北九州市／2019年9月）「熊本県観光交流施設」（熊本県／2019年12月）

古森弘一建築設計事務所　〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2-6-16 3F　tel. 093-967-0123　fax. 093-967-0124
infoarch@furumori.net　http://furumori.net/

**五十嵐敏恭**（いがらし・としゆき）
1984年埼玉県生まれ／2006年ものつくり大学建設学科卒業／2006 ～ 14年門一級建築士事務所勤務／2014年STUDIO COCHI ARCHITECTS設立

**▼建築家情報**
1.「宜野湾の共同住宅」（沖縄県宜野湾市／2019年3月）「沖縄市の住宅」（沖縄県沖縄市／2019年10月）「山下町の住宅」（沖縄県那覇市／2020年1月）
2. Facebook：https://www.facebook.com/Studio-COCHI-Architects-596795327377043/?ref=settings
Instagram：https://www.instagram.com/studiocochiarchitects/?hl=ja

STUDIO COCHI ARCHITECTS　〒901-0611 沖縄県南城市玉城字富里573-1　tel. 098-917-6390　fax. 098-917-6390
info@studiocochiarchitects.jp　https://studiocochiarchitects.jp

**安齋好太郎**（あんざい・こうたろう）
1977年福島県生まれ／1997年中央工学校卒業／1998〜99年巧建社勤務／2000〜06年安斎建設工業／2006年〜Life style工房設立／2015年「五浦の家」（本誌1501）で木の建築賞選考委員特別賞受賞／2016年「△の家」（本誌1504）で第9回JIA東北住宅大賞2015優秀賞受賞／2017年「one year project」（本誌1704）でJAPAN WOOD DESIGN AWARD 2015ソーシャルデザイン部門入賞／2018年「うつろいの家」でふくしま住宅建築賞入賞／2018年「春華堂 POP UP STORE KANDA」でJCD Design Award 2018 Best100受賞／2018年「堂前の家」（本誌1806）でT-1グランプリ2017グランプリ受賞

**▼ 建築家情報**
1.「南相馬の住宅」（福島県南相馬市／2019年）「豪雪地域の農家住宅」（福島県喜多方市／2019年）「千恵子の家」（福島県二本松市／2019年）
「小名浜の家」（福島県いわき市／2019年）
ティンバライズ T-1 グランプリ受賞記念セミナーにて講演予定（2019年3月11日）

**Life style工房**　〒969-1404 福島県二本松市油井字松葉山6　tel. 0243-22-1298　fax. 0243-22-6116
info@adx.jp　http://www.lifestylekoubou.com

**杉下均**（すぎした・ひとし）
1952年岐阜県生まれ／1975年建築研究所J共同設立／1978年杉下均建築工房設立／2013年「かみのきの家」（本誌1201）で第29回吉岡賞受賞
**▼ 建築家情報**
1.「西尾の家」（愛知県西尾市／2019年）「稲沢の工房と住居」（愛知県稲沢市／2019年）

**杉下均建築工房**　〒500-8368 岐阜県岐阜市宇佐2-6-10 KT-FLAT 201　tel. & fax. 058-274-7416
info@sugishita-a.com　http://www.sugishita-a.com

**松本悠介**（まつもと・ゆうすけ）
1977年愛媛県生まれ／2000年東京理科大学工学部建築学科卒業／2002年東京理科大学理工学研究科建築学専攻建築設計学修士課程修了／2003年中央アーキ共同主宰／2007〜09年横浜国立大学大学院／建築都市スクールY-GSA設計助手／2011〜12年東京理科大学理工学部建築学科非常勤講師／2014年松本悠介建築設計事務所主宰／2005年SDレビュー 2005入選／2006年SDレビュー 2006入選／2009年JCD design award 2009 銀賞受賞／主な著書に『新スケープ　都市の異風景』（2007年、誠文堂新光社）『7inch Project #02 CHUOARCHI』（2012年、ニューハウス出版）

**松本悠介建築設計事務所**　〒167-0054 東京都杉並区松庵3-40-9永谷ビル203
ykmm0502@gmail.com

**趙海光**（ちょう・うみひこ）
1948年青森県生まれ／法政大学工学部建築学科卒業／著者に『「現代町家」という方法』（2018年、建築資料研究社）

**建築家情報**
1.「町かどプロジェクト」（愛知県犬山市／2019年4月）

**ぷらん・にじゅういち**　〒112-0061 東京都品川区小山台1-11-12 ホワイトノイズ202　tel. 03-6303-0165
umihiko@sf6.so-net.ne.jp　http://www003.upp.so-net.ne.jp/umihjiko

**石沢英之**（いしざわ・ひでゆき）　**唐木研介**（とうき・けんすけ）　**三原悠子**（みはら・ゆうこ）
（石沢英之・上）1982年宮崎県生まれ／2005年東京理科大学理工学部建築学科卒業／2009年慶応義塾大学政策・メディア研究科修了／現在、日建設計設計部所属／2007年第14回空間デザインコンペティション銀賞／2007、2008年「経済産業省資源エネルギー庁主催ロ・ハウス設計コンペティション」優秀賞
（唐木研介・中）1981年広島県生まれ／2005年東京理科大学理工学部建築学科卒業／2005年東京大学工学部社会基盤工学科景観研究室研究生を経てワークヴィジョンズ／2007年〜現在、小泉アトリエ／2014年〜東京工業大学大学院博士課程在籍／2009年「ENEOS創エネハウス」でグッドデザイン賞
（三原悠子・下）1983年大阪府生まれ／2005年東京理科大学理工学部建築学科卒業／2007年同大学理工学研究科修士課程修了／2007〜2017年佐藤淳構造設計事務所／2017年〜三原悠子構造設計事務所

2018年「シラス洞窟の家」（本誌66頁）で建築九州賞（作品賞）佳作

**日建設計**　〒102-8117 東京都千代田区飯田橋2-18-3
ishizawa.hideyuki@nikken.jp

**三原悠子構造設計事務所**　mihara@myko.jp

**倉橋友行**（くらはし・ともゆき）
1977年愛知県生まれ／2001年名城大学理工学部建築学科卒業／2001〜06年渡邊博史建築設計室勤務／2008年倉橋友行建築設計室設立／2015年「潜る地層・上る地層」（本誌1608）ですまいる愛知住宅賞知事賞受賞、中部建築賞入賞受賞

**建築家情報**
1.「INH HOUSE」（愛知県西尾市／2019年秋）「FTU HOUSE」（愛知県豊田市／2019年冬）

**倉橋友行建築設計室**　〒444-0035 愛知県岡崎市菅生町深沢21-1シャンボール岡崎504　tel. 090-6586-1709
yukitmo@hotmail.co.jp　http://tk-ado.com　https://tkado.exblog.jp

**井上洋介**（いのうえ・ようすけ）
1966年東京都生まれ／1991年京都大学工学部建築学科卒業／1991～2000年坂倉建築研究所／2000年井上洋介建築研究所設立／2004年「富士の住宅」静岡県建設業協会優秀賞／2010年「諏訪の住宅」日本建築家協会優秀建築選／2012年「代田の住宅」日本建築学会作品選集／2014年「I Building」日本建築家協会優秀建築選受賞

**建築家情報**
2. Facebook：https://www.facebook.com/yosukeinoue.architect

**井上洋介建築研究所**　〒165-0022　東京都中野区江古田2-20-5 3F　tel. 03-5913-3525　fax. 03-5913-3526
usun@gol.com　http://www.yosukeinoue.com

**栃内秋彦**（とちない・あきひこ）　**佐藤季代**（さとう・きよ）
（栃内秋彦・上）1980年神奈川県生まれ／2004年芝浦工業大学工学部建築学科卒業／2006年同大学大学院修士課程修了／2006～2017年難波和彦＋界工作舎勤務／2017年一級建築士事務所TAKiBI共同設立
（佐藤季代・下）1981年福岡県生まれ／2004年九州芸術工科大学（現九州大学）芸術工学部環境設計学科卒業／2006年九州大学大学院芸術工学専攻修士課程修了／2006～10年商店建築社勤務／2017年一級建築士事務所TAKiBI共同設立

2016年「和田興産住宅建築設計アワード」最優秀賞（共同設計）／2018年「日光の家」（本誌90頁）で「日本エコハウス大賞2018」奨励賞、「住まいの環境デザイン・アワード2019」優秀賞受賞／著書に『建築家の読書術』（共著、2015年、みすず書房）

**▼ 建築家情報**
1.「方丈楼再設計プロジェクト」（共同設計、中国／2019年）「辻堂の古民家リノベーション」（神奈川県／2019年）
住まいの環境デザイン・アワード2019 受賞作品展（新宿パークタワー 6Fパークサイドスクエア／2月26日まで）にて「日光の家」出展中
2. Instagram：https://www.instagram.com/satokiyo_takibi

**TAKiBI**　東京オフィス　〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内3-49-5-404　tel. 03-6325-9391
福岡オフィス　〒815-0032福岡県福岡市南区塩原3-6-8-502
info@takibi-archi.com　https://takibi-archi.com

**服部信康**（はっとり・のぶやす）
1964年愛知県生まれ／1984年東海工業専門学校卒業後、名巧工芸／1987～89年スペース／1989～92年総合デザイン／1992～95年R&S設計工房／1995年服部信康建築設計事務所設立／2003年「長浦の家」でINAXデザインコンテスト銀賞受賞／2004年「長浦の家」でAWDA 2004 Award受賞／2003年、2005年、2008年、2009年、2010年、2016年中部建築賞受賞／2015年「みんなの家づくり」（本誌1605）でJIA東海住宅建築賞優秀賞受賞／2018年「ハマグリさん家」（本誌1804）でJIA東海住宅建築賞奨励賞受賞／著書に『日本の住宅をデザインする方法　建築家が語る「和」の極意』（共著、2014年、エクスナレッジ）
**▼ 建築家情報**
1.「松浦邸」（愛知県稲沢市／2019年）「杉浦邸」（愛知県新城市／2020年）

**服部信康建築設計事務所**　〒480-0202 愛知県西春日井郡豊山町豊場下戸40-1サキビル2F　tel. & fax. 0568-28-1408
hattori-1122@ou-chi.in　https://ou-chi.in/wa

**牧祐子**（まき・ゆうこ）
1983年新潟県生まれ／2006年東京理科大学理工学部建築学科卒業／2008年ヘルシンキ工科大学建築学科General Study Program（フィンランド）卒業
2010年コンストファック工芸芸術デザイン大学大学院（スウェーデン）修了／2010～15年Elding Oscarson（スウェーデン）勤務／2015年STUDIO YUKO MAKI設立／2016年ICSカレッジオブアーツ非常勤講師／2010年Muuto Talent Award 3rd prize受賞

**STUDIO YUKO MAKI**　〒179-0074 東京都練馬区春日町6-10-12
yuko@studioyukomaki.com　http://studioyukomaki.com

**甲村健一**（こうむら・けんいち）
1969年愛知県生まれ／1992年名古屋工業大学卒業／1992～99年清水建設設計本部／1999年KEN一級建築士事務所設立／2015～18年名古屋工業大学客員教授／2007年「森泉山麓の家」（本誌0710）でINAXデザインコンテスト入賞、中部建築賞受賞／2007年「中延の集合住宅」（『新建築』0702）でグッドデザイン賞受賞、2009年「鎌倉山の家」（本誌1005）でダントーデザインコンテスト大賞、トステム設計コンテスト金賞／2010年「白金の家」（本誌1106）でTDYコンテスト自由テーマ部門最優秀賞、第17回四国化成シコク大賞、木質建築空間デザインコンテスト受賞／2015年「平塚の家」（本誌1404）でものつくり大学設計競技最優秀賞／2016年「緑道のある家」（本誌1610）で神奈川県建築コンクール優秀賞／2017年「百合丘の家」（本誌1703）で木材活用コンクール和の文化賞

**▼建築家情報**
1.「四ツ木の家」（東京都葛飾区／2019年）「駒沢の家」（東京都世田谷区／2019年）「熱海の家」（静岡県熱海市／2020年）

**KEN一級建築士事務所**　〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-2-8 新横浜ナラビル1F　tel. 045-474-2000　fax. 045-474-2100
kohmura@ken-architects.com　http://www.ken-architects.com

**高野洋平**（たかの・ようへい）　**森田祥子**（もりた・さちこ）
（高野洋平・上）1979年愛知県生まれ／2003年千葉大学大学院修了／2003～2013年佐藤総合計画／2013～年MARU。architecture共同主宰／2013～16年千葉大学大学院工学研究科博士後期課程／2017年～関東学院大学非常勤講師／2017年～芝浦工業大学非常勤講師／著書に『触発する図書館 ー空間が想像力を育てるー』（共著、2010年、青弓社）
（森田祥子・下）1982年茨城県生まれ／2008年早稲田大学大学院修了／2010～13年NASCA／2010～年MARU。architecture設立／2011～14年東京大学大学院特任研究員／2013年～ MARU。architecture共同主宰／2018年～昭和女子大学非常勤講師

2015年土佐市複合文化施設設計者選定プロポーザル最優秀賞／2017年松原市新図書館設計・施工者選定プロポーザル最優秀賞／「間の間の家」（本誌120頁）で2017年日本建築家協会優秀建築選2017、2018年第29回すまいる愛知住宅賞住宅金融支援機構東海支店長賞／2017年「二重窓の集合住宅」でグッドデザイン賞2017／2017年「Around the Corner Grain」（『新建築』1602）で東京都建築士会住宅建築賞2017入賞／2018年「海のコテージ」でJIA第3回四国建築賞優秀賞

**▼ 建築家情報**
1.「みやこのじょう児童学園」（宮崎県都城市／2019年3月）「名古屋の住宅」（愛知県名古屋市／2019年4月）「組戸の集合住宅」（東京都江東区／2019年5月）
「土佐市複合文化施設」（高知県土佐市／2019年9月）「池尻の集合住宅」（東京都世田谷区／2019年10月）「松原市新図書館」（大阪府松原市／2019年11月）

**MARU。architecture**　〒110-0002 東京都台東区上野桜木1-4-5　tel. 03-5246-4284　fax. 03-5246-4285
contact@maruarchi.com　http://maruarchi.com

**浅井裕雄**（あさい・ひろお）　**吉田澄代**（よしだ・すみよ）

（浅井裕雄・上）1964年愛知県生まれ／1989年中部大学大学院建設工学科卒業／1997年国分設計を経て裕建築計画を設立／現在、愛知産業大学通信教育非常勤講師、中部大学非常勤講師

（吉田澄代・下）1983年静岡県生まれ／2005年名古屋市立大学芸術工学部生活環境デザイン学科卒業／2005年裕建築計画入社／2016年「今池の家」で第28回すまいる愛知住宅賞／2017年「減築の家」第5回JIA東海住宅建築賞奨励賞

「工場から家」で2013年第25回すまいる愛知住宅賞、名古屋市長賞、第21回愛知まちなみ建築賞、LIXILデザインコンテスト2013銅賞／「工場に家」で2017年第49回中部建築賞、住まいの環境デザイン・アワード2018／2018年「毛鹿母の家」（本誌128頁）で第6回JIA東海住宅建築賞大賞

**▼建築家情報**

1.「大野町の家」（愛知県常滑市／2019年4月）

**裕建築計画**　〒464-0804 愛知県名古屋市千種区東山元町2-43-101　tel. 052-788-7744　fax. 052-788-7761
https://www.hello-uu.com

**奥野八十八**（おくの・やそはち）

1980年京都府生まれ／2002年京都工芸繊維大学造形工学科卒業／2004年同大学院修了／2004 ～ 10年吉村篤一＋建築環境研究所／2010年アトリエ・ブリコラージュ設立／2014年～京都女子大学非常勤講師／2009年紀州材の家設計コンペティション優秀賞受賞／2014年「花園の家」で第31回住まいのリフォームコンクール優秀賞受賞

**▼建築家情報**

1.「吉田の家」（京都府京都市／2019年）「椹木町通りの家」（京都府京都市／2019年）
2. Facebook：https://www.facebook.com/yasohachi.okuno

**アトリエ・ブリコラージュ**　〒603-8165 京都府京都市北区紫野西御所田町16-2-403　tel. & fax. 075-411-4518
info@atelier-bricolage.net　http://www.atelier-bricolage.net

**吉武研二**（よしたけ・けんじ）

1972年福岡県生まれ／1995年福岡大学工学部建築学科卒業／2005年ヨシタケケンジ建築事務所設立

**建築家情報**

1.「宗像の家」（福岡県宗像市／2019年）「香椎の家」（福岡県福岡市／2019年）「大宰府の家」（福岡県太宰府市／2020年）「上対馬の家」（長崎県対馬市／2020年）

**ヨシタケケンジ建築事務所**　〒810-0024 福岡市中央区桜坂3-12-78-908　tel. 092-762-8616　fax. 092-762-8617
info@ytake.net　http://www.ytake.net

## 執筆者

**内藤廣**（ないとう・ひろし）
1950年神奈川県生まれ／1974年早稲田大学理工学部建築学科卒業／1976年同大学大学院（吉阪隆正研究室）修士課程修了／1976～78年フェルナンド・イゲーラス建築設計事務所／1979～81年菊竹清訓建築設計事務所／1981年内藤廣建築設計事務所設立／2001～02年東京大学大学院工学系研究科社会基盤学助教授／2003～11年同大学大学院教授／2011年～同大学名誉教授

**馬場正尊**（ばば・まさたか）
1968年佐賀県生まれ／1994年早稲田大学大学院建築学科修了、博報堂入社／1998年早稲田大学博士課程、雑誌『A』編集長／2003年～設計事務所OpenA設立、「東京R不動産」運営／2008年～東北芸術工科大学准教授／現在、東北芸術工科大学教授

**高橋一平**（たかはし・いっぺい）
1977年東京都出身／2000年東北大学卒業／2002年横浜国立大学大学院修了／2002～09年西沢立衛建築設計事務所勤務／2010年高橋一平建築事務所設立／現在、横浜国立大学助教、法政大学非常勤講師／2012年SDレビュー入選、2014年AR award、2015年東京建築士会住宅建築賞、2016年日本建築学会作品選集新人賞受賞

**高嶋謙一郎**（たかしま・けんいちろう）
1969年福岡県生まれ／1994年日本大学工学部建築学科卒業／1994～2006年草場建築構造計画勤務／2006年Atelier742設立

**坂牛卓**（さかうし・たく）
O.F.D.A.共同主宰／東京理科大学工学部教授／「リーテム東京工場」で第4回芦原義信賞受賞、学会作品選奨／「松の木のあるギャラリー」でInternational Arcthiteccure Award 2015受賞／「運動と風景」でSDレビュー 2017 SD賞受賞／「フジパブリック」（宮晶子と共同設計）でSDレビュー 2018入選。主な著書に『建築の規則』（2008年、ナカニシヤ出版）『αスペース』（共著、2010年、鹿島出版会）『建築の条件』（2017年、LIXIL出版）など。

◎訂正
本誌2019年2月号において、誤りがありました。下記に訂正すると共にお詫び申し上げます。

目次および157頁の表記
正：石元泰博
誤：石本泰博

## 編集後記

今月号は、平屋の住宅を特集します。
平屋か、それとも積層させるかは、さまざまな与件から導かれることがほとんどでしょう。しかし今、さまざまな敷地と環境で、地面に近い暮らしをあえて選択する動きが多く見えてきます。そこには、外部のアクティビティに連続する暮らしを求めたり、自分がどこに暮らしているかを顕在化することに豊かさを感じる人びとの意識を感じます。そして平屋として解かれた住宅には、平屋ならではの思考を見出すことができます。床積層の立体的な空間構成に対して平屋は、1枚の平面が空間を決定づけ、平面図式がより実体化し明快さを増す一方、架構が純粋に屋根の支持に限定されることで覆われることも純化されます。
今回の特集を通して見えてきたのは、建築家のコンセプトとの連関で決定される内的な判断基準よりも、地面に拡がるように建ち、風土や外の環境に連続しようとするあり方です。地面に張り付くように建ち自然を享受したり、家の中のどの場所からもすぐ外に飛び出せる状態をつくったり、地形に沿って折れ曲がったりと、その手法や背景はさまざまです。街や自然との関係において平屋は、水平的な思考がより顕在化され、家族や風景と住空間がひとつのレベルで繋がる意識をもちます。その意識をどう建築とし、日本全国さまざまな場所でどのような佇まいを見せたか、その多様さを見ていただきたいと思います。（A）

## 多様なライフスタイルにマッチするコンパクトキッチン
# サンワカンパニー

パティーナコンパクトキッチン、施工イメージ。サイズ：w900、1,200×h850、900×d600mm。価格：155,556円（税別）～。

（株）サンワカンパニーは、コンパクトキッチンのラインナップに「グラッド45コンパクト」、「パティーナコンパクトキッチン」を追加した。「グラッド45コンパクト」は、オールステンレスのミニマルかつ洗練されたデザインで、どんな空間にも美しくマッチする。「パティーナコンパクトキッチン」は、木目とアイアンを組み合わせたビンテージ調の遊び心あるデザインで、空間のアクセントとなるキッチン。

**（株）サンワカンパニー**
0120-468-838
https://www.sanwacompany.co.jp/

## テラス、バルコニー向け屋根・囲い商品「ソラリア」発売
# YKK AP

「ソラリア」囲い（施工イメージ）。雨や花粉を気にせず洗濯物を干すことができる。

YKK AP（株）は、テラスやバルコニーなどの窓辺をライフスタイルに合わせた空間に変化できる屋根・囲い商品「ソラリア」を発売した。従来商品をベースに、水密・耐風圧などの性能、施工性、機能、デザイン、バリエーションを向上。家事に役立つだけでなく、屋外で余暇を過ごすガーデンルームのようなアウトドアリビングとして、より充実した窓辺空間を実現する。

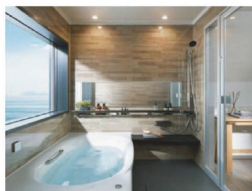
**YKK AP（株）**
0120-72-4134
https://www.ykkap.co.jp/

## 木味溢れる土足対応の挽き板フローリング
# 朝日ウッドテック

樹種バリエーションは人気のブラックウォルナットとオーク。それぞれ木下地用とコンクリート下地用の2種類、4品番をラインナップした。

朝日ウッドテック（株）は、圧倒的な木味感を持った本物志向の高機能複合フローリング「LiveNaturalプレミアム」に、新たに「RUSTIC土足用」を追加発売した。天然木素材の豊かな個性にあふれたRUSTICな表情と、土足使用に適した強度と耐久性を備えており、カフェなど店舗をはじめとする非住宅に最適なフローリングとなっている。

**朝日ウッドテック（株）**
tel.06-6245-9238
https://www.woodtec.co.jp/

## 戸建住宅用システムバスルーム 新「Arise」発売
# LIXIL

施工イメージ。価格：877,000円（税別）～。

（株）LIXILは、リフォーム・新築向けの戸建住宅用システムバスルーム「Arise（アライズ）」をフルモデルチェンジし3月に発売する。新たに開発した「ミナモ浴槽」は、肩や膝回りがゆったりとした新形状の浴槽でリラックスした入浴を可能にする。また、シャワーや収納棚、手すりなど、使用頻度の高いものに座ったまま楽に手が届く「らくらくレイアウト」を新たに開発した。

**（株）LIXIL**
0120-1794-00
http://www.lixil.co.jp/

## アクリル樹脂と木製素材を組み合わせた家具
## 新興プラスチックス

©Nacása & Partners Inc. FUTA Moriishi

新興プラスチックス（株）のアクリルファニチャーブランド「TRANSPARENCY（トランスペアレンシー）」は、エーディコア・ディバイズとのコラボレーションによる新作を発表した。3次曲線で加工を行うことにより、柔らかく温かい印象の家具とし、快適な座り心地を実現。アクリル以外の素材はステンレススティールとし、全天候型の家具を目指した。

「WISTERIA TRELLIS」。価格：408,000円～（税別）。

**新興プラスチックス（株）**
tel.03-6263-0533
https://trans-parency.jp/

## 「Leica FlexLine」の新シリーズ
## ライカジオシステムズ

ライカジオシステムズ（株）は、現況測量および杭打ち作業をサポートする「Leica FlexLine」の新シリーズ「TS03」、「TS07」、「TS10」を発売した。旧シリーズと比較してハードウェアの品質向上を実現しただけでなく、クラウドへの対応、自動器械高測定機能、操作性の改善など、多くの機能が新たに追加されており、現場作業の生産性をさらに向上する。

TS03。必要最低限の機能を搭載した、スタンダードタイプ。

**ライカジオシステムズ（株）**
tel.03-6809-4925
https://leica-geosystems.com

## 新ブランドBOOMA発表＆ショールームOPEN
## スタジオノイ

スタジオノイ（株）は、チェコ共和国の新鋭照明ブランド「BOOMA（ボマ）」の総日本代理店となり、また新ショールームをオープンした。「BOOMA」は、パーツ細部まで緻密にデザイン・加工されたクオリティの高さと、伝統的な手吹き製法で1点1点仕上げられる流麗なラインを描いたクリスタルガラスが特徴で、高級感のあるワンランク上の空間を演出する。

スタジオノイ新ショールーム、所在地：東京都港区南青山2-18-2 竹中ツインビルB Wing 2F、営業時間：10:00~18:00、定休日：土・日・祝日。予約制。

**スタジオノイ（株）**
tel.03-5843-0260
https://www.studio-noi.com/

## 珪藻漆喰材の調湿機能に植物エキスの還元作用をプラス
## レスト

（株）レストは、優れた調湿機能を持つ従来の珪藻土漆喰材に、植物由来の抽出液を加えることで環境性能を向上した。鉱物主体の壁材では、有害物の吸収はできても再放出を防げなかったが、植物の持つ抗酸化（還元）作用で無害化を可能にした。室内の空気環境改善効果は半永久的に持続し、健康維持とストレス軽減に役立つ。

施工イメージ。

**（株）レスト**
tel.03-5356-8866
http://www.resttime.co.jp/

## IoT照明コントローラ「Link-Core」発売
## 岩崎電気

岩崎電気（株）は、インターネットを経由して照明を制御できるIoT照明コントローラ「Link-Core（リンクコア）」を発売した。API対応により外部機器やサービスとの連携の自由度も高い。天候情報をもとに自動選択した照明演出プログラムを再生できたりと、柔軟な照明演出が可能になった。

Link-Core。本体の販売と併せ、期間限定の照明演出イベント向けに、レンタルや演出プログラム制作にも対応する。

**岩崎電気（株）**
tel.048-554-1124
https://www.iwasaki.co.jp/

## 2019年モデルのエコキュート37機種を発売
## コロナ

（株）コロナは、省エネ給湯機エコキュートの2019年モデルを4月から発売する。業界トップクラスの省エネ性能を誇る「プレミアムエコキュート」や「高圧力ハイグレードタイプ」等のフルオートタイプ、オートタイプなど37機種をラインナップ。フルオートタイプには入浴事故の予防をサポートする「入浴お知らせ機能」を搭載する。

全機種に「スマートナビリモコンプラス」を採用。価格：635,000円～（税別）。

**（株）コロナ**
tel.0256-32-2111
http://www.corona.co.jp

## テーブルウェアシリーズ「Foster」発売
## スキャンデックス

（株）スキャンデックスは、テーブルウェアブランド「Stelton（ステルトン）」と、ノーマン・フォスターのコラボレーションによる「Foster（フォスター）」を発売した。全14アイテムが揃うミニマルなテーブルウェアシリーズ。3種類の素材が使われているが、同様のシルエットを描く曲線により調和のとれたテーブルを演出する。

ステンレス、陶磁器、ガラスといった3つの素材のアイテムがラインナップ。受注発注品。

**（株）スキャンデックス**
tel.03-3543-3453
https://www.scandex.co.jp/

## 4種のハンドシャワーヘッドを新たに追加
## セラトレーディング

セラトレーディング（株）は、「CERA ORIGINAL COLLECTION（セラ オリジナルコレクション）」に4種のハンドシャワーヘッドを新たに追加した。より使用者のリラックスに繋がるように設計されたデザインで、それぞれの入浴スタイルに合わせて、ハンドシャワーヘッドの形状と吐水方法のバリエーションを選ぶことができるようになった。

CET8003。価格：16,000円（税別）。

**セラトレーディング（株）**
tel.03-3796-6151
https://www.cera.co.jp

## 広告掲載企業



## トピックス掲載企業
(50音順)
P.166-167

朝日ウッドテック
岩崎電気
コロナ
サンワカンパニー
新興プラスチックス
スキャンデックス
スタジオノイ
セラトレーディング
ライカジオシステムズ
LIXIL
レスト
YKK AP

### 『新建築住宅特集』資料請求方法について

個人情報保護法に基づき、読者の皆様の個人情報保護を図るため、新建築社ではホームページ上に広告掲載企業を閲覧できるようにし、各企業のホームページをリンクいたしました。
資料請求をされる際は、各広告掲載企業へ直接資料請求を行ってください。

**新建築社ホームページ　https://shinkenchiku.online**

# 「青山ハウス」今春リニューアルオープン

新建築社の「青山ハウス」では，
2016年のオープンより，建築や都市に関わる人びとのための情報収集・情報発信の拠点として，
レクチャーや展示などを行うコミュニティスペースを運営してきました．
このたび「青山ハウス」の次なる展開として，
2~3階部分を新たにリノベーションし，今春にリニューアルオープンします．
リノベーションは1階に引き続き，
建築家の乾久美子さんに担当していただきます．

詳細については，順次情報を公開していきます．

一般財団法人 吉岡文庫育英会
〒107-0062 東京都港区南青山2-19-14
URL：http://www.yoshiokabunko.or.jp/